

第八條 明治六年五月五日制定 郵便物ヲ安全ナラシムヘキ備ヘテ以テ設ケアル郵便箱ノ中ニ之レアル信書等ヲ故ラニ損害シ表書ヲ消シ或ハ破ル者且之レヲ助グル者ハ六拾圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第九條 明治六年五月一日制定 日誌新聞紙其他ノ上木物無封或ハ開キ封ニテ郵便遞送ノモノヲ故ラニ破毀或ハ梗留スルモノハ六拾圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十條 明治六年五月一日制定 凡情ヲ知リテ他ノ盜ミタル信書或ハ行竊ヲ陰ニ預リ置ク者ハ七拾五圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十一條 明治六年五月五日制定 郵便局ヲ勤ムル者ノ盜ミタル品ヲ知テ買取り或ハ囑ヲ受ケテ賣ル者ハ百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十二條 明治六年五月一日制定 信書ヲ遞送シ郵便稅ヲ收ムル特權ハ獨リ驛遞總官ニ附與スルノミ故ニ如何ナル方法約定ニ依ルモ驛遞總官ノ獨任スル特權ノ權外ニアラサル信書ヲ一切遞送配達スヘカラス若シ之レヲ犯シテ遞送配達スル者ハ貨錢或ハ報酬ヲ得ルト得ナルトニ拘ハラヌ貳百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十三條 明治六年五月五日制定 信書ヲ差出ス者ト雖モ前條ノ法ヲ犯シ郵便局及ヒ郵便函ノ外ニ之レヲ出スルハ貳拾圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十四條 明治六年五月一日制定 驛遞總官ノ獨任スル特權ノ權ハ全ク書狀ニ限り新聞紙類書籍見本品及ヒ通貨且書狀ト雖モ左ニ記載ノモノハ此限外タルヘキ事

第一條 明治七年五月一日制定 書狀ノ配達料ヲ拂ハス親族朋友及ヒ從僕等ヲ以テ臨時ニ差出ス書狀

第二條 明治七年五月一日制定 郵便ニ依リ難キ事故アルヲ以テ臨時特使ヲ發シテ達スル書狀

第三條 明治七年五月一日制定 法律ニ據テ特ニ送達スヘキ書狀

第四條 明治六年五月五日制定 船或ハ車等ノ持主及ヒ其船車等ヲ以テ積送ル荷物ノ持主ヨリ貨錢手數料ヲ拂ハ

ス受取ラス共船車ノ業且荷物ノ事ニ付キ其石使ノ者ヲシテ互ニ往復配達セシムル書狀

第五條 明治六年五月一日制定 尋常運輸ヲ以テ業トスル者ニ依テ送ル荷物ニ就テ送レル添狀送狀ノ類ニシテ別ニ貨錢手數料等ヲ拂ハス受取ラサルモノ

第六條 明治七年一月一日制定 荷物ニ就テ送レル添狀送狀ノ類ハ無封無緘或ハ開キ封ノモノトス

第七條 明治七年一月一日制定 前條ニ記載スル限外信書ノ仕方ヲ偽リ竊ニ之レヲ傳送配達スル者ハ第十二條ニ照シ處斷スヘキ事

第八條 明治七年一月一日制定 驛遞總官ヨリ郵便物ノ運送ヲ約定シタル水陸運輸業務ノ者ト云ヘ

第九條 明治七年一月一日制定 郵便物ノ運送或ハ配達スルニ於テハ第十二條ニ照シテ處分スヘキ事

第十條 明治七年一月一日制定 郵便切手及ヒ之カシ封皮ハ諸郵便局並官許ヲ受ケテ大書ノ郵便切手賣下所ノ看板ヲ掲グル家ノ外一切賣ルヲ禁ス之レヲ犯シテ賣ルモノハ百圓以内ノ罰金ニ處シ其賣リタル品並代金且賣ラントスルノ品ヲモ取上ヘキ事

第十一條 明治七年一月一日制定 郵便局並官許ヲ得テ看板ヲ掲グル家ニアラサル者ヨリ私ニ同種ノ切手及ヒ之カシ封皮三枚以上ヲ買フヲ禁ス之レヲ犯シテ買フ者ハ貳拾圓以内ノ罰金ニ處シ其買受タル品ヲモ取上ヘキ事

第十二條 明治七年一月一日制定 郵便切手之カシ封皮帶紙及ヒ拂濟ノ證印等ヲ消シタル墨ヲ洗ヒ或ハ之レヲ削リ取り再度用ヒシ者ハ六拾圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十三條 明治六年五月五日制定 郵便切手之カシ封皮及ヒ拂濟證印ヲ偽造スル者ハ九拾圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十四條 明治六年五月五日制定 郵便局ヲ勤ムル者私書ヲ公書トナシテ往復シ且郵便切手之レナキ書狀等ヲ私ニ取扱フ者ハ百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十五條 明治七年一月一日制定 郵便先拂稅及ヒ不足稅ヲ最初配達ノ時ヲ除キ郵便局ヨリ受取ノ爲メ使テ送



ル五度ヲ過キテ猶拂ヒ納メサル者ハ二十圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事  
第二十三條同上氏名類似セル郵便物ヲ開封セシキハ速ニ其類似スル所以ヲ記シ之レヲ其近傍ノ郵便局ニ申牒シ郵便局ハ之レヲ驛遞總官ニ申牒スヘシ若シ之レヲ申牒セス或ハ之レヲ投棄ニ付スル者ハ二十圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第二十四條同上某官廳某家ニ屬シ又ハ任スル某人ニ名宛シタルヲ以テ某廳或ハ某家ニ配達セシ郵便物ヲ其人ニ達セス或ハ其人官廳ニ屬セス其家ニ任セサル之レヲ郵便局ニ差戻サス等閑ニ付シ或ハ投棄ニ任スル者ハ三十圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事  
第二十五條同上郵便局ヲ勤ムル官吏備人ヲ論セス郵便切手ヲ削リ取り不足税ト偽ル者ハ第三條ニ照シテ處斷スヘキ事

第二十六條同上郵便配達人等其配達先於テ漫ニ金錢ヲ乞フ者ハ其乞請タル金錢ヲ取上ケ其金高十倍ノ罰金ニ處スヘキ事

十五年勅令第二十七號 布告ヲ以テ廢止

○第五十六號 (十二月二十三日 輪廓附)

本年四月拾貳號布告集會條例第六條へ左ノ通但書追加候條此旨布告候事  
但本條ノ解散ヲ命シタル時ハ其情狀ニヨリ東京ハ警視長官其他ハ地方長官其結社ヲ解散セシメ又ハ其管轄内ニ於テ壹箇年以内其會員ノ公衆ニ對シ政事ヲ講談論議スルコトヲ禁スルヲ得ヘシ  
○第五十七號 (十二月二十三日 輪廓附)

二十年勅令第十一號 依リ消滅

明治十一年五月第八號布告株式取引條例第一章第二條中其資本金額ハ貳拾萬圓ヲ拾萬圓ト改正シ及ヒ第五章第三十條へ左ノ通但書追加候條此旨布告候事  
但本條ニ掲載セサル諸會社ノ株券ト雖モ其營業確實ナリト認ムルモノハ大藏卿ニ於テ其實買ヲ許可スルヲ得

十四年第七十五號 布告ヲ以テ廢止

○第五十八號 (十二月二十八日 輪廓附)

明治九年八月第八拾貳號布告西洋形船船長運轉手及機關手試驗免狀規則首項中第二節ヲ刪除シ自今登簿噸數壹百公稱馬力五拾以上ノ西洋形船船長運轉手及機關手ハ總テ該規則ニヨリ免狀ヲ授受スヘシ此旨布告候事

十八年第二十三號 布告ヲ以テ改正

○第五十九號 (十二月二十八日 輪廓附)

明治十二年九月第四十號布告教育令左ノ通改正候條此旨布告候事  
第一條 全國ノ教育事務ハ文部卿之ヲ統攝ス故ニ學校幼稚園書籍館等ハ公立私立ノ別ナク皆文部卿ノ監督内ニアルヘシ

第二條 學校ハ小學校中學校大學校師範學校專門學校農學校商業學校職工學校其他各種ノ學校トス  
第三條 小學校ハ普通ノ教育ヲ兒童ニ授クル所ニシテ其學科ヲ修身讀書習字算術地理歴史等ノ初步トス土地ノ情況ニ隨ヒテ野畫唱歌體操等ヲ加ヘ又物理生理博物等ノ大意ヲ加フ殊ニ女子ノ爲ニハ裁縫等ノ科ヲ設クヘシ

但已ムヲ得サル場合ニ於テハ修身讀書習字算術地理歴史ノ中地理歴史ヲ減スルコトヲ得

第四條 中學校ハ高等ナル普通學科ヲ授クル所トス

第五條 大學校ハ法學醫學醫學文學等ノ專門諸科ヲ授クル所トス

第六條 師範學校ハ教員ヲ養成スル所トス

第七條 專門學校ハ專門一科ノ學術ヲ授クル所トス

第八條 農學校ハ農耕ノ學業ヲ授クル所トス

商業學校ハ商賣ノ學業ヲ授クル所トス

職工學校ハ百工ノ職藝ヲ授クル所トス

以上數條掲ケル所何ノ學校ヲ論セス各人皆之ヲ設置スルコトヲ得ヘシ

明治十三年十二月 太政官 布告 第五十八號 第五十九號 (教育令)



第九條 各町村ハ府知事縣令ノ指示ニ從ヒ獨立或ハ聯合シテ其學齡兒童ヲ教育スルニ足ルヘキ一箇若クハ數箇ノ小學校ヲ設置スヘシ

但本文小學校ニ代ルヘキ私立小學校アリテ府知事縣令ノ認可ヲ經タルトキハ別ニ設置セサルモ妨ケナシ

十四年第三十五號  
布告ヲ以テ第十條  
中增加

第十條 各町村ハ學務ヲ幹理セシメンカ爲ニ小學校ヲ設置スル獨立或ハ聯合ノ區域ニ學務委員ヲ置キ戶長ヲ以テ其員ニ加フヘシ

但人員ノ多寡給料ノ有無及其額ハ區町村會之ヲ評決シ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十一條 學校委員ハ町村人民其定員ノ二倍若クハ三倍ヲ薦舉シ府知事縣令其中ニ就テ之ヲ選任スヘシ

但薦舉ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第十二條 學務委員ハ府知事縣令ノ監督ニ關シ兒童ノ就學學校ノ設置保護等ノ事ヲ掌ルヘシ

第十三條 凡兒童六年ヨリ十四年ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

第十四條 學齡兒童ヲ就學セシムルハ父母後見人等ノ責任タルヘシ

第十五條 父母後見人等ハ其學齡兒童ノ小學校三箇年ノ課程ヲ卒業ラサル間己ムヲ得サル事故アルニアラサレハ少クトモ毎年十六週日以上就學セシメサルヘカラス又小學校三箇年ノ課程ヲ卒業タル後ト雖モ相當ノ理由アルニアラサレハ毎年就學セシメサルヘカラス

但就學督責ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第十六條 小學校ノ學期ハ三箇年以上八箇年以下タルヘク授業日數ハ毎年三十二週日以上タルヘシ

但授業時間ハ一日三時ヨリ少カラス六時ヨリ多カラサルモノトス

第十七條 學齡兒童ヲ學校ニ入レヌ又巡回授業ニ依ラスシテ別ニ普通教育ヲ授ケントスルモノハ

郡區長ノ認可ヲ經ヘシ

但郡區長ハ兒童ノ學業ヲ其町村ノ小學校ニ於テ試驗セシムヘシ

第十八條 小學校ヲ設置スルノ資力ニ乏シクシテ巡回授業ノ方法ヲ設ケ普通教育ヲ兒童ニ授ケン

トスル町村ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十九條 學校ニ公立私立ノ別アリ地方稅若クハ町村ノ公費ヲ以テ設置セルモノヲ公立學校トシ

一人若クハ數人ノ私費ヲ以テ設置セルモノヲ私立學校トス

第二十條 公立學校幼稚園書籍館等ノ設置廢止其府縣立ニ係ルモノハ文部卿ノ認可ヲ經ヘク其町

村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第二十一條 私立學校幼稚園書籍館等ノ設置ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘク其廢止ハ府知事縣令ニ

開申スヘシ

但公立小學校ニ代用スル私立小學校ノ廢止ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第二十二條 町村立私立學校幼稚園書籍館等設置廢止ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ

認可ヲ經ヘシ

第二十三條 小學校ノ教則ハ文部卿頒布スル所ノ綱領ニ基キ府知事縣令土地ノ情況ヲ量リテ之ヲ

編制シ文部卿ノ認可ヲ經テ管内ニ施行スヘシ

但府知事縣令施行スル所ノ教則ニ準據シ難キ場合アリテ之ヲ斟酌増減セントシ府知事縣令之

ヲ許可セントスルトキハ其意見ヲ附シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第二十四條 公立學校ノ費用府縣會ノ議定ニ係ルモノハ地方稅ヨリ支辨シ町村人民ノ協議ニ係

レルモノハ町村費ヨリ支辨スヘシ

第二十五條 町村費ヲ以テ設置保護スル學校ニ於テ補助ヲ地方稅ニ要スルトキハ府縣會ノ議定ヲ

レモノハ町村費ヨリ支辨スヘシ

但公立小學校ニ代用スル私立小學校ノ廢止ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第二十二條 町村立私立學校幼稚園書籍館等設置廢止ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ

認可ヲ經ヘシ

第二十三條 小學校ノ教則ハ文部卿頒布スル所ノ綱領ニ基キ府知事縣令土地ノ情況ヲ量リテ之ヲ

編制シ文部卿ノ認可ヲ經テ管内ニ施行スヘシ

但府知事縣令施行スル所ノ教則ニ準據シ難キ場合アリテ之ヲ斟酌増減セントシ府知事縣令之

ヲ許可セントスルトキハ其意見ヲ附シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第二十四條 公立學校ノ費用府縣會ノ議定ニ係ルモノハ地方稅ヨリ支辨シ町村人民ノ協議ニ係

レルモノハ町村費ヨリ支辨スヘシ

第二十五條 町村費ヲ以テ設置保護スル學校ニ於テ補助ヲ地方稅ニ要スルトキハ府縣會ノ議定ヲ

レモノハ町村費ヨリ支辨スヘシ

但公立小學校ニ代用スル私立小學校ノ廢止ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第二十二條 町村立私立學校幼稚園書籍館等設置廢止ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ

認可ヲ經ヘシ

第二十三條 小學校ノ教則ハ文部卿頒布スル所ノ綱領ニ基キ府知事縣令土地ノ情況ヲ量リテ之ヲ

編制シ文部卿ノ認可ヲ經テ管内ニ施行スヘシ

但府知事縣令施行スル所ノ教則ニ準據シ難キ場合アリテ之ヲ斟酌増減セントシ府知事縣令之

ヲ許可セントスルトキハ其意見ヲ附シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第二十四條 公立學校ノ費用府縣會ノ議定ニ係ルモノハ地方稅ヨリ支辨シ町村人民ノ協議ニ係

レルモノハ町村費ヨリ支辨スヘシ

第二十五條 町村費ヲ以テ設置保護スル學校ニ於テ補助ヲ地方稅ニ要スルトキハ府縣會ノ議定ヲ

レモノハ町村費ヨリ支辨スヘシ

但公立小學校ニ代用スル私立小學校ノ廢止ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第二十二條 町村立私立學校幼稚園書籍館等設置廢止ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ

認可ヲ經ヘシ



經テ之ヲ施行スルコトヲ得ヘシ

第二十六條 公立學校ノ敷地ハ免稅タルヘシ

第二十七條 凡學事ニ供スル寄附金等ハ其寄附人ヨリ指定セシ目途ノ外ニ支消スルコトヲ得ス

第二十八條 削除

第二十九條 削除

第三十條 削除

第三十一條 削除

第三十二條 削除

第三十三條 各府縣ハ小學校教員ヲ養成センカ爲ニ師範學校ヲ設置スヘシ

第三十四條 公立師範學校ニ於テハ本校卒業ノ生徒ニ試験ノ後卒業證書ヲ與フヘシ

第三十五條 公立師範學校ハ本校ニ入學セサルモノト雖モ卒業證書ヲ請フモノアラハ其學業ヲ試驗シ合格ノモノニハ卒業證書ヲ與フヘシ

第三十六條 削除

第三十七條 教員ハ男女ノ別ナク年齡十八年以上タルヘシ

但品行不正ナルモノハ教員タルコトヲ得ス

第三十八條 小學校教員ハ官立公立師範學校ノ卒業證書ヲ有スルモノトス

但本文師範學校ノ卒業證書ヲ有セスト雖モ府知事縣令ヨリ教員免許狀ヲ得タルモノハ其府縣ニ於テ教員タルモ妨ケナシ

第三十九條 文部卿ハ時々吏員ヲ府縣ニ發遣シ學事ノ實況ヲ巡視セシムヘシ

第四十條 公私學校ニ於テハ文部卿ヨリ發遣セル吏員ノ巡視ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十一條 府知事縣令ハ管内學事ノ實狀ヲ記載シテ毎年文部卿ニ申報スヘシ

第四十二條 凡學校ニ於テハ男女教場ヲ同クスルコトヲ得ス

但小學校ニ於テハ男女教場ヲ同クスルモ妨ケナシ

第四十三條 凡學校ニ於テ授業料ヲ收ムルト收メサルトハ其便宜ニ任スヘシ

第四十四條 凡兒童ハ種痘或天然痘ヲ歴タルモノニアラサレハ入學スルコトヲ得ス

第四十五條 傳染病ニ罹ルモノハ學校ニ出入スルコトヲ得ス

第四十六條 凡學校ニ於テハ生徒ニ體罰或ハ加フヘカラス

第四十七條 生徒試験ノトキハ父母或ハ後見人等其學校ニ來觀スルコトヲ得ヘシ

第四十八條 町村立學校ノ教員ハ學務委員ノ申請ニ因リ府知事縣令之ヲ任免スヘシ

第四十九條 町村立小學校教員ノ俸額ハ府知事縣令之ヲ規定シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第五十條 各府縣ハ土地ノ情況ニ隨ヒ中學校ヲ設置シ又專門學校農學校商業學校職工學校等ヲ設置スヘシ

十四年第三十五號  
布告ヲ以テ第四十  
九條中增加

四月二十九日布告  
參看

七月二十三日選舉

○三月三十日

當夏山梨縣三重縣京都府ハ御巡幸被仰出候條此旨布告候事

但御發程日限及御道筋ノ儀ハ追テ御沙汰可有之事

○四月二十九日

山梨縣三重縣立京都府御巡幸來ル六月十六日東京御發遣被仰出候條此旨布告候事

○七月二十日

來ル二十三日橫濱港御着船還幸被爲在候條此旨布告候事

明治三十三年三月四月七月 太政官 布告 無號



達

○第一號 (二月十日 輪廓附)

官省院使府縣

陸軍省中軍用電信技手ヲ置キ等給別表ノ通相定候條此旨相達候事

(別表)

軍用電信技手官等及俸給表

官名	等級	俸給
一等技手	一等	拾圓
二等技手	二等	八圓
三等技手	三等	六圓
四等技手	四等	五圓
五等技手	五等	四圓
六等技手	六等	三圓
七等技手	七等	二圓
八等技手	八等	一圓
九等技手	九等	八角
十等技手	十等	七角
十一等技手	十一等	六角
十二等技手	十二等	五角
十三等技手	十三等	四角
十四等技手	十四等	三角
十五等技手	十五等	二角
十六等技手	十六等	一角
十七等技手	十七等	八分
十八等技手	十八等	七分
十九等技手	十九等	六分
二十等技手	二十等	五分
二十一等技手	二十一等	四分
二十二等技手	二十二等	三分
二十三等技手	二十三等	二分
二十四等技手	二十四等	一分
二十五等技手	二十五等	一分

非職ノ者ハ月給三分ニテ給スヘシ

官省院使府縣

○第二號 (二月十二日 輪廓附)

明治九年十月第九號陸軍軍恩給令第十八條並第二十八條左ノ通改正候條此旨相達候事

第十八條 凡ソ養子ハ其軍人ノ下(生)ノ一字ヲ剛除シ(死傷)ノ二字ヲ加フ  
第二十八條 其他軍人ハ一定ノ年齢ニ至リタル時其服役ヲ辭シテ致仕スルヲ例トス其年齡定限ハ左ノ如シ

- 會計監督 軍醫監 藥劑監 六十
- 參謀大佐 會計副監督 軍醫正 藥劑正 馬醫監 五十七
- 憲、步、騎、砲、工、輜重兵、大中佐 參謀少佐 會計監督補 會計軍吏 五十四
- 軍醫 劑官 馬醫

十四年大政官第五十七號達ニ依リテ年齡改正

十六年大政官第三十七號達ニ依リテ

十九年勅令第三十八號二十年陸軍省達第六十四號達ニ依リテ消滅

- 憲、步、騎、砲、工、輜重兵、少佐 參謀大尉 會計軍吏副 軍醫副 劑官副 五十一
- 馬醫副 砲工兵上等監護 參謀中尉 會計軍吏補 軍醫補 劑官補
- 憲、步、騎、砲、工、輜重兵、大尉 砲兵監守 砲兵監查 火工教頭 四十八
- 馬醫補 樂長 砲工兵監護 諸工長 諸工下長
- 憲、步、騎、砲、工、輜重兵、中少尉 會計書記 監獄 看病人 馬醫生 四十五
- 樂次長 樂師 樂手
- 會計卒 看病卒 樂生 四十
- 諸兵下士 諸兵卒 三十五

府 縣

○第三號 (二月二十一日 輪廓附)  
明治十一年三月第九號達中議事規則別冊ノ通改定候條此旨相達候事

(別冊)

地方官會議規則

○議場整理

- 第一條 出席ノ議員全員ノ過半數ニ至ラサレハ議事ヲ開クヘカラス
- 第二條 議事ノ終始ハ議長ノ指揮ニ依ルヘシ
- 第三條 議員ノ席次ハ閣取ヲ以テ豫メ之ヲ定ムヘシ
- 第四條 議事中心ノ議員ノ姓名ヲ稱ヘスニテ席次ノ番號ヲ用フヘシ
- 第五條 議長ハ議員ノ發言ヲ止メ又ハ議事ヲ中止スルコトヲ得
- 第六條 議題ノ外議事中心ニ起リタル總テノ事件ハ議長之ヲ決シ或ハ會議ノ決ヲ取ルヘシ

明治十三年一月 大政官 達 第三號 (地方官會議規則)



第七條 議事ハ傍聽ヲ許ルス

但時宜ニヨリ之ヲ制限シ或ハ之ヲ禁止ス

○議案並修正案

第八條 議案ハ内閣ヨリ之ヲ發ス

第九條 議案又ハ報告書ハ豫メ之ヲ議員ニ頒付スヘシ

第十條 修正説ハ第二次會及ヒ第三次會ニ於テ之ヲ提出スルコトヲ得

但第二次會ニ於テ賛成者ナキモノ及ヒ第三次會ニ於テ五名以上ノ賛成者ナキモノハ之ヲ議題ト爲スコトヲ得ス

第十一條 修正説ヲ提出セント欲スルモノハ録シテ文案ト爲シ之ヲ議長ニ出シ又ハ議席ニ於テ陳述スルコトヲ得

第十二條 修正説ノ否決セルモノハ其同次會ニ於テ再ヒ之ヲ提出スルコトヲ得ス

○議事

第十三條 議事ハ議案又ハ報告書頒付ノ日ヨリ少クモ一日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ

但至急ヲ要スルハ此限ニ在ラス

第十四條 議事ヲ開クハ議長書記官ヲシテ議案ヲ朗讀セシムヘシ

第十五條 議事ハ第一次第二次第三次ノ三會ニ區別ス

第十六條 第一次會ニ於テハ議題ノ大意ヲ議シ其議題ノ爲メ第二次會ヲ開クヘキヤ否ヤヲ決スヘシ否決スルハ其議題ヲ消滅セルモノトシ可決スルハ議長其期日ヲ定ム

第十七條 第二次會ニ於テハ議案ヲ逐條討論議決シ其議案ノ爲メ第三次會ヲ開クヘキヤ否ヤヲ決スヘシ否決スルハ其議案ヲ消滅セルモノトシ可決スルハ議長其期日ヲ定ム

但議決セル條節ノ整理ヲ要スルハ之ヲ委員ニ附シ其報告ヲ待テ第三次會ヲ開クヘキヤ否ヤヲ決スヘシ

第十八條 第三次會ニ於テハ全案ニ就テ議決スヘシ

第十九條 第三次會ハ第二次會後少シモ一日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ

但至急ヲ要スルハ此限ニ在ラス

○發言

第二十條 發言セント欲スルモノハ起立シテ議長ト呼ビ其許可ヲ受クヘシ

第二十一條 議長ニ於テ無用ノ論説ヲ爲ス者アリト認ムルハ之ヲ制止スルコトヲ得

第二十二條 議員ニ於テ無用ノ論説ヲ爲ス者アリト認ムルハ無用ト呼ビ議長ノ許可ヲ得テ其理由ヲ一回説明スルコトヲ得若シ無用ト呼ハレタル者無用ニアラストスルハ議長ノ許可ヲ得テ其理由ヲ一回説明スルコトヲ得然ル後議長之ヲ決シ或ハ會議ノ決ヲ取ルヘシ但無用ト呼ハレタル者ハ其發言ヲ中止スヘシ

第二十三條 議員ニ於テ本則ヲ犯ス者アリト認ムルハ他ノ議員發言中ト雖モ犯則ト呼ビ議長ノ許可ヲ得テ其理由ヲ一回説明スルコトヲ得若シ犯則ト呼ハレタル者犯則ニアラストスルハ議長ノ許可ヲ得テ其理由ヲ一回説明スルコトヲ得然ル後議長之ヲ決シ或ハ會議ノ決ヲ取ルヘシ

但議員ノ發言中犯則者アルヲ認ムルモ其發言ヲ妨ケサルハ發言ノ終ルヲ待テ其犯則ヲ告クヘシ

第二十四條 第三次會ニ於テハ一議題ニ附キ發言ニ回ニ超フルコトヲ得ス

○決議

第二十五條 可否ハ出席議員ノ過半數ニ依テ之ヲ決スヘシ



第二十六條 出席ノ議員ハ可否ノ數ニ入ラサルコトヲ得ス  
 第二十七條 可否ヲ決スルノ法ハ起立、記名投票、匿名投票ノ三種トシ議長便宜ニ之ヲ用フヘシ  
 第二十八條 議題ノ順序ニ論アルハハ議事ニ先テ議長之ヲ決シ或ハ會議ノ決ヲ取ルヘシ  
 第二十九條 修正案ハ原案ニ先テ可否ヲ決スヘシ其數多ナルハ最モ原案ニ異ナルモノヲ先ニ  
 ス其先後ニ論アルハ總テノ修正案決定ニ先テ議長之ヲ決シ或ハ會議ノ決ヲ取ルヘシ  
 第三十條 議長ノ意見若クハ議員二名以上ノ請求ニ因リ議題ヲ分合シ又ハ條項ノ順序ニ拘ハラ  
 スレテ議決セントスルハ議長之ヲ決シ或ハ會議ノ決ヲ取ルヘシ  
 第三十一條 辯論未タ終ハラスト雖モ議長ニ於テ論旨既ニ盡キタリト認ムルハ之ヲ會議ニ問テ  
 其議題ノ決ヲ取ルコトヲ得  
 第三十二條 可否ノ數ハ書記官之ヲ検査シ其決定ハ議長之ヲ陳告ス

○小會議

第三十三條 小會議ハ議案若クハ委員ノ報告書ニ付キ質問ヲ要スルハ又ハ政府ノ垂問ニ答フル爲  
 メ内議ヲ要スルハ之ヲ開クヘシ  
 第三十四條 小會議ハ傍聴ヲ許サス  
 第三十五條 小會議ニ於テ第四十二條第四十三條及ヒ第四十四條ヲ除クノ外本則ニ從フコトヲ要  
 セス

○委員

第三十六條 議長ノ意見若クハ議員二名以上ノ請求ニ因リ委員ヲ選ミ議案若クハ修正案ヲ査理セ  
 ヲメントスルハ會議ノ決ヲ取ルヘシ  
 第三十七條 委員ハ議員中ニ於テ議長之ヲ命ジ又ハ議員ヲシテ之ヲ選舉セシムヘシ但奇數ヲ以テ

之ヲ定ム

第三十八條 委員ハ其付托セラレタル全案ヲ取捨シ或ハ之ヲ改竄スルコトヲ得其意見ハ過半數ニ依  
 テ之ヲ決シ過半數ヲ得サルハ最多數ニ依テ之ヲ決シ其理由ヲ録シテ之ヲ議長ニ報告スヘシ  
 但第十七條但書ノ場合ニ於テハ條節ヲ轉置シ字句ヲ修飾シ缺條ヲ補足スルコトヲ得ルト雖モ其  
 議決セル條節ノ意義ヲ變更スルコトヲ得ス

○内閣委員

第三十九條 修正説ヲ提出シタル者ハ委員會ニ列シ其主旨ヲ辯明スルコトヲ得但可否ノ數ニ入ラス  
 ○内閣委員  
 第四十條 内閣ハ其發スル所ノ議案ヲ辯明センカ爲メニ委員ヲ出シ會議小會議及ヒ委員會ニ列  
 セシムヘシ  
 但該委員ハ本則ニ遵フヘシ然レモ可否ノ數ニ入ラス

○議院取締

第四十一條 議長ハ院内取締ノ爲メ時宜ニヨリ議院詰ノ警察官ヲ指揮スルコトヲ得  
 第四十二條 議席ニ於テハ總テ人身上ノ毀譽褒貶ニ涉ルコトヲ許サス  
 第四十三條 議事中ハ議員相私語シ及ヒ總テ議事ヲ妨グルノ舉動アルコトヲ許サス  
 第四十四條 議事中ハ議員慢ニ議席ヲ退クコトヲ許サス  
 第四十五條 遲參ノ議員ハ議長ノ許可ヲ得テ議席ニ著クヘシ  
 第四十六條 議事中議長ノ許可ヲ得サル者ハ議席ニ入ルコトヲ許サス  
 第四十七條 議場ニ於テ規則ヲ犯シ議長ノ命ニ順ハサル者ハ之ヲ退場セシムヘシ

○附則

第四十八條 議長ノ意見ヲ以テ議員ヲ數組ニ分チ每組幹事一名ヲ選定セシメ傳達等ノ事ヲ掌ラシ



ムヘシ

第四十九條 議員缺席スルハ其事由ヲ議長ニ届出ツヘシ

官省院使府縣

○第四號 (二月二十一日 輪席附)

明治九年四月第三十四號達官吏懲戒例第四條左ノ通改定候條此旨相達候事

第四條 罰俸ハ一月十分ノ一ヨリ少カラス三月分ヨリ多カラサルノ俸ヲ奪フ

俸ヲ追スルノ法其一月給俸半額以下ハ一月俸中ニテ追了シ其以上ハ毎月給俸ノ半額ヲ領置シ、數

滿テ大藏省ニ送附ス

官省院使府縣

○第五號 (二月二十三日 輪席附)

一月十日

修史館委任官年俸左ノ通改定候事

一等編修官

年俸貳千四百圓

監 事

年俸貳千四百圓

二等編修官

年俸千八百圓

三等編修官

年俸千貳百圓

四等編修官

年俸千圓

一月二十日

明治十二年三月第十六號達工部省各科工術等給表ノ内技長以上俸給左ノ通改定候事

技	三 等	四 等	五 等	六 等	七 等
技 監	大 技 長	權 大 技 長	少 技 長	權 少 技 長	

十九年開令第三號ニ依リ、職ノ廉消減

十四年太政官第百八號達ニ依リ消減

一月十日

修史館委任官年俸左ノ通改定候事

一等編修官

年俸貳千四百圓

監 事

年俸貳千四百圓

二等編修官

年俸千八百圓

三等編修官

年俸千貳百圓

四等編修官

年俸千圓

一月二十日

明治十二年三月第十六號達工部省各科工術等給表ノ内技長以上俸給左ノ通改定候事

技	三 等	四 等	五 等	六 等	七 等
技 監	大 技 長	權 大 技 長	少 技 長	權 少 技 長	

十五年太政官第七號達ニ依リ消減

一 級	四七〇	三五〇	三〇〇	二五〇	一七〇
二 級	四四〇	三三〇	二七五	二二五	一五〇
三 級	四一〇	二九〇	二五〇	二〇〇	一三〇
四 級	三八〇	二六五	二二五	一七五	一一五
五 級	三五〇	二五〇	二〇〇	一五〇	一〇〇

右相達候事

府 縣

○第六號 (二月二十九日 輪席附)

中小學區學校設立ノ地所無代價下渡ノ儀ニ付明治七年九月第三百一十一號ヲ以テ相達置候處今般教育

令布告候ニ付テハ自今公立小學校ハ五百坪以内公立中學校公立專門學校ハ千坪以内ノ地ヲ該學校

設置ノ地所トシテ無代價ニテ可下渡候條官有地ニ於テ無差支場所ヲ選ビ内務省へ可申出此旨相達

候事

官省院使府縣

○第七號 (二月二十九日 輪席附)

文部省職制章程別冊ノ通改定候條此旨相達候事

(別冊)

文部省職制

職制

卿 一八

全國教育ノ事務ヲ統攝シ道德智識ノ上進ヲ贊導ス

省中吏員ノ進退黜陟ハ奏任ハ之ヲ具狀シ判任ハ之ヲ專行ス

第六十號達ヲ以テ改定

内務省乙第八號達  
十四年太政官第七  
號達ニ依リ消減  
二十三號布告ヲ以  
テ教育令改正



大輔  
少輔  
卿ノ職掌ヲ輔ク  
卿事故アルハ之カ代理タルヲ得  
大書記官  
權大書記官  
少書記官  
權少書記官  
卿ノ命ヲ受ケ庶務ヲ整理ス  
一等屬  
二等屬  
三等屬  
四等屬  
五等屬  
六等屬  
七等屬  
八等屬  
九等屬  
十等屬  
文部省事務章程

本省ノ事務ヲ大別シテ上下兩款ト爲ス其上款ハ卿之ヲ申奏シ裁可ヲ經テ施行ス其下款ハ卿之ヲ專行スルヲ得上下兩款ノ事務ニ於テハ卿皆其責ニ任ス

上款

- 第一條 公私學校補助金ノ額ヲ定ムル事
- 第二條 豫定ノ費額ヲ變更スル事
- 第三條 官立學校及幼稚園書籍館博物館等ヲ廢置スル事
- 第四條 本省需用ノ地所ヲ購買スル事
- 第五條 本省ノ官員ヲ海外ニ派遣スル事

下款

- 第一條 教育諸般ノ法案ヲ進達スル事
- 第二條 專行ノ事務ニ關スル條件ヲ一般ニ布達シ又ハ地方官ニ達スル事
- 第三條 教育諸般ノ制規ニ關シ地方官ニ指令スル事
- 第四條 學事ニ關シ地方官ヲ監督スル事
- 第五條 地方官ヲシテ學事ヲ申報セシムル事
- 第六條 公立學校ノ教則ヲ認定スル事
- 第七條 地方官申稟スル所ノ教育事務施設ノ規程ヲ裁定スル事
- 第八條 學位稱號ニ關スル通則ヲ制定スル事
- 第九條 公私學校ノ弊害アル者ヲ廢止セシムル事
- 第十條 教員ヲ訓勵シ生徒ノ徳性ヲ涵養セシムル事
- 第十一條 品行不正ナル教員ノ職業ヲ停罷セシムル事











大藏省乙第十號達

テ右規則ニ遵ヒ取計フヘシ此旨相達事

但詳細ノ備ハ追テ大藏省ヨリ通達ニ及フヘキ事

(別紙)

外國品購求規則

第一條 各官廳ニ於テ外國品ノ購求ヲ要スル時ハ次條ノ手續ヲ以テ大藏省ニ申立テ該省ニ於テ購求ノ取扱ヲ爲スモノトス

第二條 各官廳所要ノ該物品ハ實際使用年度ノ六箇月前ニ該年度中總需用品ノ概算書ヲ以テ大藏省ニ申立テ猶ホ其物品ノ性質精粗、量數ノ多寡等ニ因リ別ニ注文製造セシムヘキモノハ豫メ製造等ノ爲メ必要ナル時日ヲ計リ成丈ケ其以前ニ申立ツヘシ

但シ物品購求ノ申立ヲ爲スニハ其所用ノ事由並ニ種類、量數其他必要ノ件々ヲ詳記シ及ヒ其種類ニ依テハ精密ナル繪圖面、離形若クハ見本及ヒ說明書等ヲ添ユヘシ

第三條 大藏省ニ於テハ兼テ外國品調度ノ主任官ヲ定メ置キ各官廳ヨリ購求ノ申立ヲ受クル時ハ其物品ヲ購求スヘキ地、購求ノ約條、運搬ノ方法、品位ノ良否、價值ノ高低、爲換ノ利否等ヲ評議シタル上購求ノ取扱ニ及フヘシ

第四條 各官廳ニ於テ外國品購求ヲ要スル時其主任官ハ大藏省外外國品調度主任官ト同ク調度ノ評議ニ預カルベシ

但シ本文評決ノ上ハ物品ノ種類ニ依リ調査ノ爲メ各官廳ヨリ其主任官ヲ外國ニ派遣スルコトアルベシ

第五條 各官廳ノ所要セル外國品購求ノ代價ハ大藏省ニ於テ各廳經費豫算内ヲ以テ直ニ之ヲ仕拂フモノトス

第四十一號達ヲ以テ第三條但書追加

第四十一號達ヲ以テ第六八號達ヲ依リ消滅第七條追加

○第十二號 (二月十七日 輪原附)

府 縣 沖 除 縣

明治十二年三月二十五號ヲ以相達候地方衛生會費用ノ備本年度ノ分ハ地方稅中流行病豫防費及ヒ病院費ヨリ流用支辨可致此旨相達候事

○第十三號 (二月二十四日 輪原附)

官省院使府縣

皇太后宮皇后宮大夫亮年俸本年一月一日ヨリ左ノ通改正候條此旨相達候事  
年俸三千五百圓  
大 夫 年俸貳千四百圓

○第十四號 (二月二十五日 輪原附)

官省院使府縣

明治十二年三月十二號達左ノ通改正候條此旨相達候事  
官廳内竝ニ官有ノ工場及ヒ船艦等ニテ變死ニ係ル者及ヒ重傷死ニ至ル者ハ近傍ノ警察所ニ報知シ檢視ヲ受クヘシ

但軍人軍屬ニシテ陸海軍官限り處分ヲ了シ警察官ノ檢視ヲ要セサル分及ヒ遠洋航海中ニ係ル者ハ此限ニアラス

○第十五號 (二月二十八日 輪原附)

官省院使府縣

後備軍艦員條例別冊ノ通相定候條此旨相達候事

後備軍艦員條例

第一條 凡後備軍艦員ハ將校下士竝ニ會計軍醫馬醫軍樂各部同等官ノ常備豫備兩軍服役年限ヲ終ハリタル者竝ニ陸軍一定ノ規則ニ由リ後備軍ニ轉スル者ヲ以テ之ニ充テ常ニ其本籍ニ歸任シ地方所管領臺ノ統轄ニ關スルモノトス

十九年宮内省第一號達ニ依リ消滅

二十二年閣令第十六號ヲ以テ廢止



第二條 將官並ニ同等官ノ後備軍艦員ニ轉スル法ハ將官退職令ニ詳ナルヲ以テ茲ニ掲ケス  
第三條 後備軍ノ艦員タル可キ者ハ左ノ如シ

第一項 服役停年ニ由リ恩給ヲ受ケ退職スル各兵科上長官士官並ニ各部同等官  
第二項 年齢年限並ニ陸軍一定ノ規則ニ由リ罷役ニ入ル各兵科上長官士官並ニ各部同等官  
第三項 豫備役滿期後備役ニ入ル各兵科士官及ヒ各部同等官並ニ後備軍艦員中ノ各兵科下士  
及ヒ各部同等官ヨリ士官ニ任セラレタル者

第四項 陸軍部外ノ官廳ニ奉職スル各兵科上長官士官並ニ各部同等官

第五項 陸軍一定ノ規則ニ由リ後備軍籍ニ編入スル各兵科下士並ニ各部同等官

第六項 豫備役滿期後備役ニ入ル各兵科下士及ヒ同等官並ニ後備服役中ノ兵卒ヨリ下士ニ任  
セラレタル者

第四條 第三條第一項ニ當ル者及ヒ第二項ノ年齢年限ニ至リ罷役ニ入ル者ニ在テハ退職若シクハ  
罷役ヲ命セラレタル日ヨリ五箇年間後備軍艦員ニ服スヘシ

第五條 第三條第二項ノ陸軍一定ノ規則ニ由リ罷役ニ入ル者及ヒ第四項ニ當ル者ニ在テハ現役ニ  
於テ定メタル年齢年限マテ後備軍艦員ニ服スヘシ

第六條 第三條第三項ノ豫備役滿期後備役ニ入ル者又ハ士官ニ任セラレタル者ハ豫備役滿期後備  
役ヲ命セラレタル日若シクハ士官ニ任セラレタル日ヨリ四箇年間後備軍艦員ニ服スヘシ

第七條 第三條第五項ノ後備軍籍ニ編入スル者ハ常備役或ハ豫備役(常備現役中事故ニ由  
リ豫備役ニ入タル者)滿期後  
備役ヲ命セラレタル日ヨリ三箇年間後備軍艦員ニ服スヘシ

第八條 第三條第六項ニ當ル者ハ豫備役滿期後備役ヲ命セラレタル日又ハ下士ニ任セラレタル日  
ヨリ四箇年間後備軍艦員ニ服スヘシ

十四年大政官第五  
號達ヲ以テ第四項  
但書追加

第五十一號達ヲ以  
テ第五條一項追加

第五十一號達ヲ以  
テ第十條但書追加

第九條 各兵科上長官士官下士並ニ各部同等官ノ後備軍艦員服役年限ハ前諸條ニ示ス如シト雖  
尚ホ引續キ後備軍ノ艦員タラントヲ欲スル者ハ上長官並ニ同等官ハ年齢六十五歳士官並ニ同等  
官ハ年齢六十歳下士並ニ同等官ハ年齢五十歳迄願ニ依テ後備軍ノ艦員タルヲ得ヘシ

第十條 後備軍艦員ハ陸軍ノ制服ヲ着テ其官階ニ應スル禮款ヲ享ルノ權ヲ有スルノミナラズ其學  
術才能ニ從ヒ亦進級スルヲ得ヘシ

第十一條 後備軍ノ艦員タル者ハ常ニ本籍地方ノ後備軍諸隊ニ配附ス而レテ戰時ハ勿論非常ノ事  
故アルニ當リ常備軍上長官士官下士並ニ同等官ノ缺員ヲ補充スルヲアルヘシ

第十二條 後備軍艦員ノ其官階ニ應スル禮款ヲ享ケ又ハ進級スルヲ得ルハ等十條ニ示ス如シト  
雖モ其席次ハ各常備軍ニ在役セル同等官ノ末坐タルヘシ又後備軍中ニ於テ進級シタルモノ若シ  
常備軍ノ補缺トナルトキハ其官階ヲ下シ入隊セシムルコトアルヘシ然レトモ以前常備軍服役中  
ノ官階ヨリ下スヲナキモノトス

第十三條 後備軍艦員ノ上長官士官並ニ各部同等官ノ年限滿期ニ至ルトキハ第十五條其一書式ニ準  
シ成規ノ順序ヲ以テ陸軍卿ヘ致仕或ハ免官ヲ請フヘシ若シ引續キ艦員タラントヲ欲スル者ハ

第十五條其二書式ニ準シ同様ノ手續ヲ以テ許可ヲ請フヘシ

第十四條 其下士並ニ同等官ノ滿期ニ至ル者ハ所管鎮臺司令官ニ於テ本官ヲ免スヘシ若シ又引續  
キ服役セント欲スル者ハ滿期以前ニ第十五條其二書式ニ準シ成規ノ順序ヲ以テ願出ルルハ鎮臺  
司令官ニ於テ開届クヘシ

第十五條 後備軍艦員ヲ辭シ又ハ引續キ服役セント欲スル者ハ左ノ書式ニ準シ願出ツヘシ  
其一書式



年號月日後備軍艦員被仰付服務罷在候處本年何月ニテ滿期相成候ニ付後備軍艦員被免(本官被免)候様仕度此段奉願候也

使(府)(縣)管下何國何郡(區)何町(村)華(士族)(平民)  
何鎮臺管轄後備軍艦員  
官 姓 名 印

年號月日

陸軍卿何某殿

其二書式

某 儀

年號月日後備軍艦員被仰付(被申付)服務罷在候處本年何月ニテ服役滿期ニ至リ候へ共未タ後備軍艦員年齢未滿中ニ付尙往キ何箇年間引續キ服務仕度候間御許可被成下度此段奉願候也

使(府)(縣)管下何國何郡(區)何町(村)華(士族)(平民)  
何鎮臺管轄後備軍艦員  
官 姓 名 印

年號月日

陸軍卿(何鎮臺司令官)何某殿

官 姓 名 印

第十六條 後備軍艦員タル者陸軍部外ノ官廳ニ奉職スルハ妨ケナシト雖モ戰時ハ勿論非常召集又ハ定例復習ノ時ハ速ニ其召集ニ應スベキモノトス

第十七條 後備軍艦員タル者陸軍部外ノ官廳ニ於テ登庸セント欲スルモ其官廳ヨリ戰時ハ勿論非常其他ニ當リ速ニ召集ニ應セシムヘキ旨ヲ約シ艦員所管ノ鎮臺ヘ協議ノ上採用スヘシ

第十八條 後備軍艦員ニシテ他ノ官廳ニ奉職スル者其奉職地ノ鎮臺本籍地ノ鎮臺ト異ナルモ其奉職地鎮臺ノ後備軍艦員ニ轉セント欲スル者ハ本籍鎮臺ヘ其事由ヲ詳ニシ轉籍ヲ願出ベシ

第十九條 後備軍艦員ノ旅行又ハ某ノ地ヘ寄留セント欲スル者一軍管内ニ在テハ召集ニ差支ヘサ

十九年勅令第五十四號ニ依リ消滅

ル爲メ其往ク先ヲ詳ニシ成規ノ如ク届出又軍管外ニ係ルモ其所管鎮臺ノ許可ヲ受クヘシ若シ其寄留地ノ後備軍艦員ニ轉セント欲スル者ハ其事由ヲ詳ニシ願出ルトキハ詮議ノ上許可スヘシ  
第二十條 後備軍艦員ノ轉居セント欲スルモ一軍管内ニ在テハ其旨ヲ鎮臺ニ届出ヘシ若シ他ノ軍管下ヘ轉籍セント欲スルモハ所管鎮臺ニ願出許可ヲ受クヘシ  
第二十一條 後備軍艦員ノ外國ヘ旅行又ハ滞在セント欲スル者ハ其事由ヲ詳ニシ所管鎮臺ノ許可ヲ受クヘシ但シ旅行又ハ滞在中ハ平時ノ復習ニ應スルニ及ハスト雖モ戰時或ハ非常戒嚴ノ宣告アルモ速ニ歸國シ所管鎮臺ニ届出ヘシ  
第二十二條 服役中不治ノ病ニ罹リ或ハ不具トナリ職務ニ堪ヘ難キ者ハ陸軍醫官(陸軍醫官不在ノ以上)ノ診斷書ヲ添ヘ所管鎮臺ニ届出ヘシ若シ死没スルモ其親族等ヨリ其所管鎮臺ニ届出ツヘシ  
第二十三條 後備軍艦員ノ願居書ハ士官以上ニ在テハ本籍地方後備軍司令官ヲ經由シ所管鎮臺司令官ヘ差出シ下士ハ本籍後備軍使府縣駐在官ヘ差出シ後備軍司令官ヲ經由シ所管鎮臺司令官ヘ呈スヘシ  
第二十四條 後備軍艦員ノ寄留又ハ轉籍及ヒ他ノ官廳ニ奉職ノ故ヲ以テ甲鎮臺ヨリ乙鎮臺ノ後備軍艦員ニ轉センコトヲ願出之ヲ許可スルモ甲鎮臺ニ於テハ其兵籍ヲ乙鎮臺ヘ送致スヘシ  
○第十六號 (二月二十八日 陸軍部) 府 縣  
衛生事務ノ儀ハ追々相達候趣モ有之漸次擴張可致就テハ本年一月ヨリ左ノ通判任官増員候條此旨相達候事

東京府 京都府 大阪府 神奈川縣 兵庫縣  
長崎縣 新潟縣



一判任官七名宛 此月計金三百拾圓  
此俸給年計金貳千五百貳拾圓宛

- 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 茨城縣 栃木縣
- 堺 縣 三重縣 愛知縣 靜岡縣 山梨縣
- 滋賀縣 岐阜縣 長野縣 宮城縣 福島縣
- 岩手縣 青森縣 山形縣 秋田縣 石川縣
- 島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 和歌山縣
- 愛媛縣 高知縣 福岡縣 大分縣 熊本縣
- 鹿児島縣 沖繩縣

一判任官五名宛 此月計金三百拾圓  
此俸給年計金千八百圓宛

○第十七號 (三月三日 輪廊附)

官省院使府縣

太政官中法制調査兩局ヲ廢シ法制會計軍事內務司法外務ノ六部ヲ被置候條此旨相達候事

○第十八號 (三月五日 輪廊附)

官省院使府縣

今般太政官中會計検査院ヲ設置シ大藏省中検査局相廢シ候條此旨相達候事

但追テ一定ノ事務章程相達候迄該院ニ於テ當分ノ内別紙箇條書ニ照準シ事務取扱候儀ト可相心得事

(別紙)

會計検査院取扱事務

一會計ノ規則記簿ノ法式ヲ定ムル事

- 一歳入出豫算表ヲ審査スル事
  - 一歳入出勘定帳ヲ検査スル事
  - 一物品受拂表ヲ検査スル事
  - 一金穀ノ出納ヲ検査スル事
  - 一作業費ヲ検査スル事
  - 一各廳ノ會計帳簿ヲ検査スル事
  - 一歳入出ノ決算證書ヲ附與スル事
  - 一歳入出決算報告書ヲ調製スル事
- 以上ノ條件ハ是迄大藏省検査局ニテ履行セル成規定例ニ依リ處辨シ其疑義ニ涉ル條件ハ其都度伺出ヘシ

○第十九號 (三月十日 輪廊附)

官省院使府縣

會計検査院中左ノ職員被置候條此旨相達候事

- 會計検査院長 勅任
- 會計検査院幹事 四等
- 一等検査官 四等
- 二等検査官 五等
- 三等検査官 六等
- 四等検査官 七等
- 一等ヨリ十等ニ至ル

○第二十號 (三月十八日 輪廊附)

官省院使府縣

千四年太政官第八

三五二

千四年太政官第三

千四年太政官第八

千四年太政官第八



太政官中六部分掌事務左ノ通被定候條此旨相達候事

法制部

法制部ハ法律條例諸規則ヲ起草シ又ハ之ヲ改案シ及ヒ職制章程ヲ監査シ法律ヲ説明スルノ所トス

會計部

會計部ハ歳入出入ノ豫算決算並ニ租税金穀出納及ヒ貨幣國債其他財政ニ關スル事務執行ノ方法ヲ查理シ其主務官廳ノ事務ヲ監視スルノ所トス

軍事部

軍事部ハ陸海軍務ニ關スル事務執行ノ方法ヲ查理シ其主務官廳ノ事務ヲ監視スルノ所トス

內務部

內務部ハ地理警察運送通信教育賑恤社寺勸業殖産工事等ニ關スル事務執行ノ方法ヲ查理シ其主務官廳ノ事務ヲ監視スルノ所トス

司法部

司法部ハ恩赦及ヒ行政裁判其他司法ニ關スル事務執行ノ方法ヲ查理シ其主務官廳ノ事務ヲ監視スルノ所トス

外務部

外務部ハ外國交際ニ關スル事務執行ノ方法ヲ查理シ其主務官廳ノ事務ヲ監視スルノ所トス

○第二十一號 (三月二十三日 輪廓附)  
內務省中驛遞官ヲ被置官等左ノ通被定候條此旨相達候事

- 驛遞總官 三等
- 一等驛遞官 四等

十四年太政官第二十六號達  
十六年太政官第二十七號達  
十九年勅令第二號  
依リ消滅

十五年太政官第四十七號達  
海軍省乙第六號達  
參看

十七年第三十一號  
布告ニ依リ彈藥ノ  
豫消滅

- 二等驛遞官 五等
- 三等驛遞官 六等
- 四等驛遞官 七等
- 驛遞 一等ヨリ十等ニ至ル

○第二十二號 (三月二十五日 輪廓附)

使府縣 東京府

陸海軍武官所有ノ軍用銃ハ明治五年正月二十八號布告ニ依リ管轄廳ノ検査番號ヲ受來候處自今準士官以上ノ武官ハ左ノ規則ニ據ルヘシ此旨相達候事

武官所有ノ軍用銃買取規則

第一條 陸海軍省ニ於テハ武官所有ノ軍用銃並ニ其彈藥類買入ノ節交付スヘキ買入免狀ヲ定メ置キ豫メ其印影等照會ノヲメ使府縣廳(東京府)ニ通知スヘシ

第二條 武官軍用銃並ニ其彈藥類ヲ買入ル、時ハ前款ノ免狀ヲ受取之ヲ該地ノ免許商人ニ交付シテ其買入ヲ爲スヘシ

第三條 武官轉任又ハ免官スル時ハ其奉職中所有セシ銃器ハ其銃名(檢印)ヲ記載シ使府縣廳(東京府)ニ呈報シ届出常則ニ從ヒ其取締ヲ受クヘシ

第四條 武官奉職中所有ノ軍用銃及ヒ其彈藥類ヲ人民ニ賣渡サントスル時ハ買受人ヨリ其使府縣廳(東京府)ニ差出スヘキ願書ニ連署スヘシ

○第二十三號 (三月二十六日 輪廓附)

官省院使府縣

明治十二年十一月第四十五號ヲ以テ祠官掌ノ等級ヲ廢止候ニ付テハ九年六月八日番外達官吏懲戒例追加中第三項ハ自今廢止候儀ト可心得此旨相達候事

○第二十四號 (四月二日 輪廓附)

官省院使府縣

追加中第三項ハ自今廢止候儀ト可心得此旨相達候事

十四年太政官第二十六號達  
十六年太政官第二十七號達  
參看



內務省中驛遞官職制左ノ通被定候條此旨相達候事

驛遞官職制

驛遞總官

第一 驛遞局ノ長トシテ內務卿ノ命ヲ奉シ中外郵便郵便爲換貯金預及ヒ驛傳商船等ノ事ヲ幹理スルヲ掌ル

第二 局中委任官以下部屬ヲ監督指令ス

第三 局中委任以上ノ進退黜陟ハ內務卿ニ具狀シ判任以下ハ之ヲ專行ス

一等驛遞官

二等驛遞官

第一 事ヲ驛遞總官ニ受テ事務ヲ分任ス

第二 驛遞總官事故アルキハ其事務ヲ代理ス

三等驛遞官

四等驛遞官

職掌一等二等驛遞官ニ亞ク

驛遞局

驛遞官ノ指揮監督ニ關シ文書計算等ノ事ヲ掌ル

○第二十五號 (四月八日 檢附)

內務省 使府縣 東京府

一 水火防禦ノタメ死傷セシ巡查ハ明治八年ノ第三號達ニ照シ吊祭扶助料ハ達ニ掲ケル所ノ半額以

內ヲ給シ療治料ハ疵傷ノ輕重ヲ量リ支給スヘシ

但水火防禦ノ際ト雖モ人命救援ニ係ル分ハ仍ホ八年第三號達ノ定規ニ依ルヘシ

十九年勅令第二號  
ニ依リ消滅

十八年太政官第三  
號達ヲ以テ第一改正

十六年太政官第五  
十五號達ヲ以テ廢止

十七年太政官第十  
五號達ヲ以テ廢止

十七年太政官第七  
十五號達ヲ以テ改

一 人民前項ノ場合ニ於テモ其吊祭扶助料及ヒ療治料ヲ給スルハ之ニ準スヘシ  
但消防組ノ別ニ規則アルモノハ此限ニ在ラス

右相達候事

○第二十六號 (四月八日 檢附)

官省院使府縣

明治九年ノ第九十九號達陸軍軍恩給令第七十六條應給計算書ノ儀大藏卿ニ移シ點檢セシメ來リ候處

自今會計檢査院ニ付シ候條此旨相達候事

官省院使府縣

○第二十七號 (四月十日 檢附)

明治十二年ノ第五十四號達中央衛生會職制第一項左ノ通改正候條此旨相達候事

一本會ハ左ノ人員ヲ以テ之ヲ編成ス

會長 一名

副會長 一名

委員 十一名

醫員 二名

化學家 二名

工學家 二名

衛生局長 一名

內務書記官 一名

警視官 一名

○第二十八號 (四月三十日 檢附)

官省院使府縣

以上十八名ヲ以テ定員トス



海軍省乙第七號達

明治八年十月第十七號達官民所有ノ西洋形船舶届出ノ儀左ノ通改正候條此旨相達候事  
 西洋形船舶ヲ製造又ハ變更ハ船ナ帆船ニ變ヘ又若クハ購求シタルハ別紙第一號表ニ照シ官有ハ  
 該官廳民有ハ其管轄屬船主寄留スル者ハヨリ海軍省へ届出ヘシ其以後ハ毎年十月十五日迄ニ第二  
 號第三號ノ書式ニ據リ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ  
 但本年ニ限リ第一號表ニ照シ來ル十月十五日迄ニ届出ヘシ

(別紙)

(印ハ朱書)

第一號表

船名	船主	船長	製造ノ月及地名	船實	長
丸	△官有ハ官省院使府縣 △民有ハ使府(縣)下何國何區何町何番地寄留者ハ寄留 △使府(縣)華士族或ハ平民 △何	△兩輪カ △風帆カ	△何年何月何日何所ニ於テ製造	△木製カ鐵製カ 龍骨ノ前部ヨリ龍骨ノ後部マテ 上甲板ニ於テ前部材接合ノ船舷裡面ヨリ後部船ノ裡面マテ	△何丈何尺何寸

幅	深	突水	噸數	排水量	橋數	機類	汽罐ノ形及ヒ數	馬力	炭所積庫	炭所料費	走力	地定方航
△同	△同	△何尺何寸	△何千何百何十何噸	△何千何百何十何噸	△何本	△横置カ △縦置カ △斜置カ △單機カ △複機カ (ノ是ハシリンドルノ形ニテ云フ)	△角カ △圓カ △何箇	名△何千何百何十何馬力 實△何千何百何十何馬力	△何十何百何千何百何十斤	(一晝夜) △何百何十何斤	(一時間平均全力) △十何里	△何處

海軍軍務局



記	△何年何月何處ノ造船所ニ於テエヲ起シ何年何月エヲ竣ル或ハ何年何月何國何々ヨリ買收本船ノ經歷其他ノ要件ヲ成ルヘク記ス可シ
事	一噸數ハ最チ以テ計ルルハ我千七百〇二斤ト六十四匁此斤百トシ積チ以テ我壹尺立方四十箇此尺トス 一噸數ハ海里尺度ハ我曲尺チ以テス可シ 一該船ニ係ル要件ハ記事區畫中ニ登記ス可シ

第二號 官有船舶

何年十月迄何省(或ハ院使府縣)

所轄官船現數表

一 何丸 汽船カ帆船

一 何丸 汽船カ帆船

總計何千何百何十何艘

第二號 民有船舶

何年十月迄何使(或ハ府縣)管下

民有船現數表

一 何丸 汽船カ帆船

所有主

何國何郡何町何番地寄留ナレハ寄

何使府縣

華士族カ平民

何

某

一同 同

同

同

同

總計何千何百何十何艘

内 汽船 何艘  
帆船 何艘

○第二十九號 (四月三十日 輪廓附)

官舎建築修繕費等官費ト相定候旨明治十年一月第十六號ヲ以テ相達置候處警察署分署建築修繕費ハ本年七月以後國庫下渡金ト地方稅ト連帶支辨スヘキ儀ト心得ヘシ此旨更ニ相達候事

○第三十號 (五月十五日)

明治十年九月第六拾九號達ハ自今相廢シ候條此旨相達候事

○第三十一號 (五月十九日 輪廓附)

東京府下區長月俸自今百圓以下適宜給與差許候條此旨爲心得相達候事

○第三十二號 (五月二十九日 輪廓附)

陸軍服制及陸軍將校馬具圖例中別册ノ通追加改正候條此旨相達候事

陸軍服制及陸軍將校馬具圖例中別册ノ通追加改正候條此旨相達候事

明治十三年四月五日 大政官 達 第二十九號 第三十號 第三十一號 第三十二號

十三年第四十八號  
布告十四年第九十六號  
號布告十五年第二  
號布告參看

十九年勅令第五十  
四號ニ依リ消滅

十四年太政官第四  
十二號第七十一號  
達參看  
十九年勅令第四十



(別冊)

陸軍服制圖例中追加竝改正

追加

蹄鐵工長正服

正帽

騎兵科下士ニ同シ

正衣

地質縫製胸襟劍留總縁邊等騎兵科下士ニ同シ

袖章 騎兵科軍曹ニ准シ而シテ袖口ニ沿ヒ突起狀ヲ爲ス

臂章 蹄鐵工ノ臂章ヲ附ス

正袴

下士ニ同シク唯無章ナルヲ殊ナリトス

同略服

略帽

騎兵科下士ニ同シ

略衣

地質縫製襟縁邊物入等總テ騎兵科下士ニ同シ

袖章 軍曹ニ准シ萌黃色内記打ノ線ヲ附ス其形ヲ袖口ニ沿ヒ突起狀ヲナス

臂章 蹄鐵工ノ臂章ヲ附ス

略袴

騎兵科下士ニ同シ唯無章ナルヲ殊ナリトス

同下長正服

蹄鐵工長ニ同シ唯其正衣ノ袖章伍長ニ准スルヲ殊ナリトス

同略服

蹄鐵工長ニ同シ唯其略衣ノ袖章伍長ニ准スルヲ殊ナリトス

蹄鐵工正服

諸職工ニ同シ唯正衣ニ其等級ニ應シ一等ハ騎兵一等卒ニ二等ハ同二等卒ニ准シ袖口ニ沿ヒ突起狀ナル袖章ヲ附シ蹄鐵工ノ臂章ヲ附スルヲ殊ナリトス

同略服

諸職工ニ同シ唯略衣ニ萌黃色内記打小線幅ニテ其等級ニ應シ一等ハ騎兵一等卒ニ二等ハ騎兵二等卒ニ准シ袖口ニ沿ヒ突起狀ナル袖章ヲ附シ蹄鐵工ノ臂章ヲ附スルヲ殊ナリトス

軍醫部下士正服

正帽

會計部下士ニ同シ唯其頂上章及縦横章ヲ萌黃色トナスヲ殊ナリトス

正衣

會計部下士ニ同シ唯其袖章胸章及總縁邊ヲ萌黃色トナシ軍醫部ノ臂章ヲ附スルヲ殊ナリトス

正袴

會計部下士ニ同シ唯其側章ヲ萌黃色ト爲スヲ殊ナリトス

同略服

略帽



會計部下士ニ同シ唯鉢巻及縫際ノ細線ヲ萌黃色トナスヲ殊ナリトス

略衣  
會計部下士ニ同シ唯袖章ヲ萌黃色トナシ軍醫部ノ臂章ヲ附スルヲ殊ナリトス

全ク會計部下士ニ同シ

軍醫部卒正服

正帽

全ク會計部卒ニ同シ

正衣

會計部卒ニ同シ唯其袖章總縁邊ヲ萌黃色トナシ軍醫部ノ臂章ヲ附スルヲ殊ナリトス

正袴

會計部卒ニ同シ唯其側章ヲ萌黃色トナスヲ殊ナリトス

同略服

會計部卒ニ同シ唯其略帽ノ鉢巻縫際ノ細線略衣ノ袖章ヲ萌黃色トナシ軍醫部ノ臂章ヲ附スルヲ殊ナリトス

夏服ノ部

下士及兵卒各則ノ部

會計部ノ下ヘ軍醫部ノ三字ヲ加フ

袖章 藍色ノ下ヘ軍醫部ノ三字ヲ加フ

砲工兵科監護以下下士ノ下ヘ及蹄鐵工長同下長ノ八字ヲ加フ

袖章 但書下長ノ下ヘ及蹄鐵工長同下長ノ八字ヲ加フ

改正

將校及相當官略帽ノ部中鉢巻幅寸法

將官及相當官ハ幅一寸七分佐官及相當官ハ上下大線ハ幅七分小線一分尉官及相當官ハ上下二線共各八分トス

但各線間隙ハ各一分トス

馬醫部下士略服ノ部

略衣

縁邊下士ニ同シ

會計部卒略服ノ部

略袴

兵卒ニ同シク唯無章ナルヲ殊ナリトス

將校外套ノ部

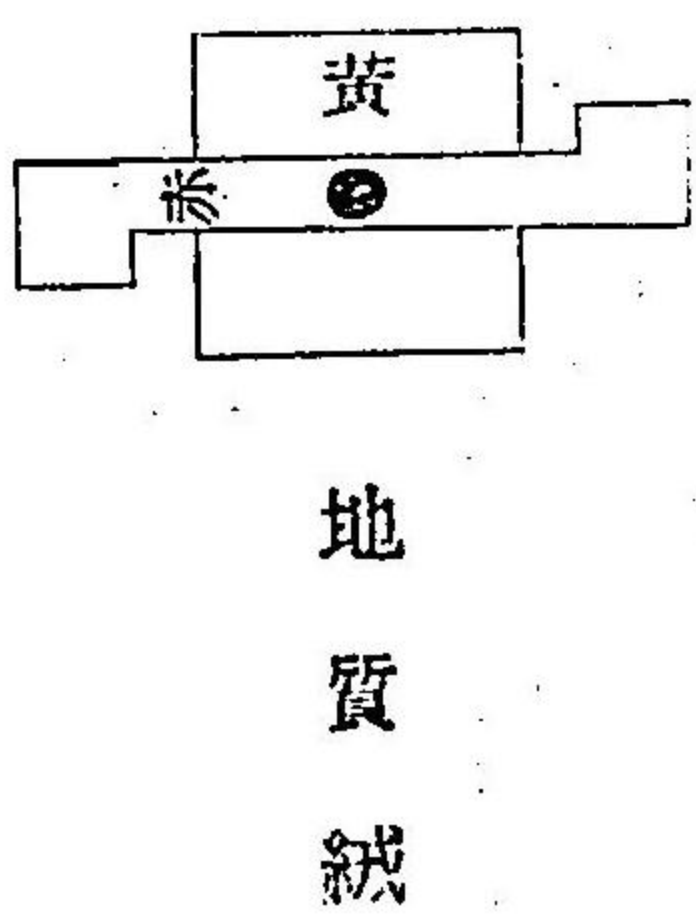
袖 將官ハ一條ノ金線分一及金星ヲ附ス其數各差アリ大將ハ五箇中將ハ三箇少將ハ二箇トス佐官ハ黃色近衛ハ細章一條及ヒ其上部間隙ニ金線分一條ヲ附ス尉官ハ黃色近衛ハ細章一條ヲ附ス會計監督長軍醫總官ハ一條ノ銀線分一ヲ附シ星章ヲ附スルヲ少將ニ同シ會計部佐官相當官ハ藍色軍醫馬醫部ノ佐官相當官ハ萌黃色ノ細章一條ヲ附シ而シテ共ニ其上部間隙ニ銀線分一條ヲ附ス會計部尉官相當官ハ藍色軍醫馬醫部ノ尉官相當官ハ萌黃色ノ細章一條ヲ附ス

陸軍服制圖中追加並改正

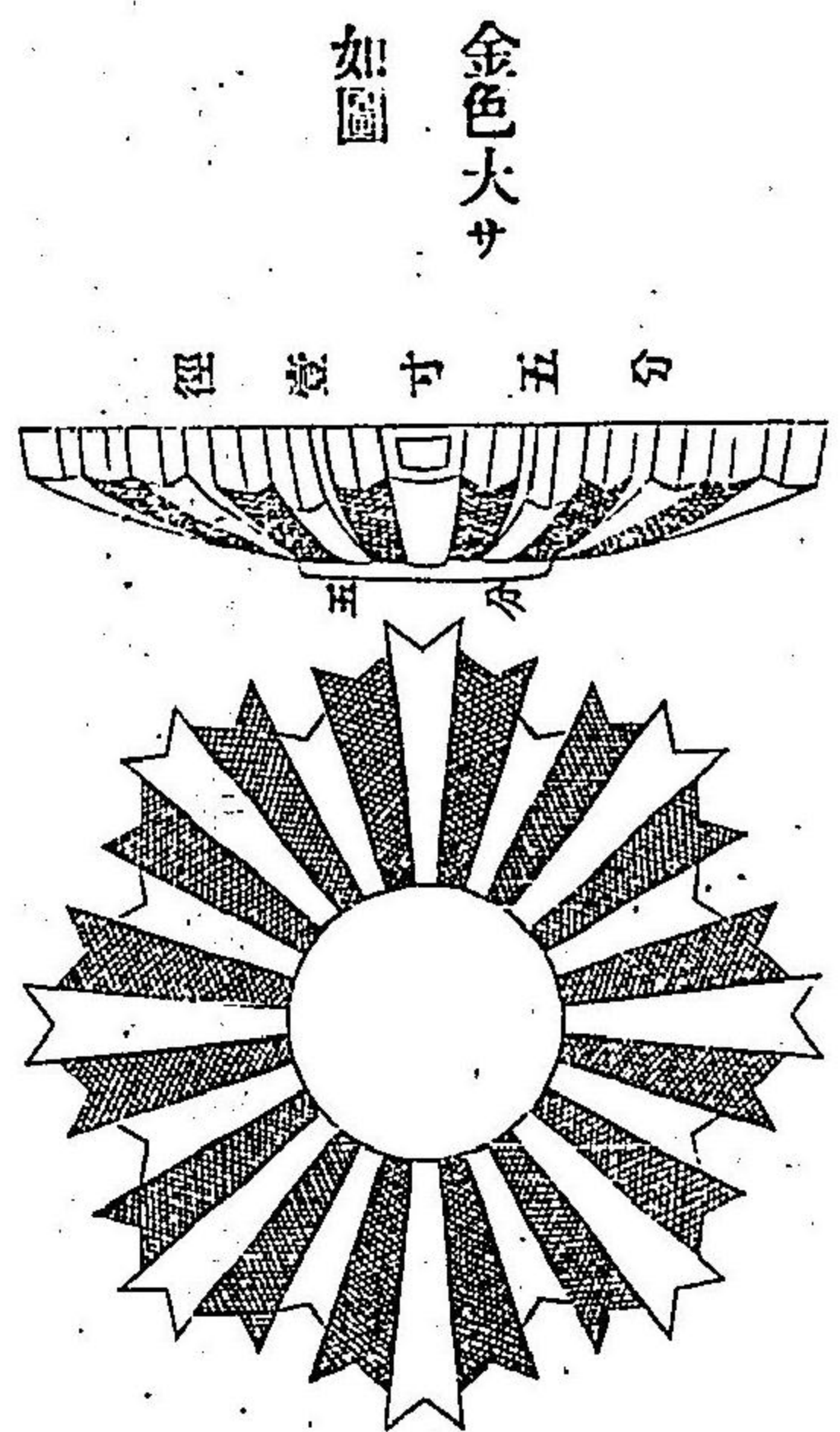
追加



軍用電信隊臂章 大サ如圖



改正  
將校及相當官正帽日章



陸軍將校馬具圖例中追加

軍醫總監馬具ノ次

將官及相當官略馬具

將官及相當官略裝ニ在テハ鞍褥ノ縁邊ヲ白絨トナシ鞍轡革鞞頭絡繩副轡ハ通常ノ茶革替衝副衝  
鍔及頭絡總金具類副繩鞍轡革鞞頭ノ金具ハ鐵服帶ハ白ヲ用ユ  
會計部佐官相當官衣囊ノ部

色 藍

軍醫馬醫部佐官相當官衣囊ノ部

色 萌黃

○第三十三號 (五月三十一日 陸軍附)

官省院使府縣

明治十二年六月第二十八號達警視局巡查制服夏衣地色ハ上下同内國製白雲才ト改定候條此旨相達候

事 ○第三十四號 (六月二十八日 陸軍附)

府縣東京府  
ヲ除ク

明治八年十一月第九十四號同十年三月第三十三號達中警部制服夏季ニ限リ白地相用不苦候條此旨相

達候事

但制服ヲ以テ禮服ニ換用ノ節ハ黒絹地ニ限リ候儀ト心得ヘシ

官省院使

○第三十五號 (六月二十九日 陸軍附)

明治十年十月第七十五號ヲ以テ法律布令上疑問ノ儀相達置候處右ハ相廢シ今般更ニ左ノ通相定候條

此旨相達候事

一 法律布令上疑義アルトキハ其旨趣ヲ詳記シ該長官ヨリ法制部ニ質問スヘシ  
一 各府縣ヨリ各廳ニ伺出タル事件前項ノ疑義ニ關スルモノハ法制部ニ移牒シ其回答ヲ得テ後チ指

明治十三年五月六月 太政官 達 第三十三號 第三十四號 第三十五號

第五十六號達ヲ以  
テ改定

十五年太政官第十  
三號達ニ依リ消滅

十四年太政官第八  
十八號達ニ依リ消  
滅



令スヘシ

但既ニ回答ヲ得タルモノト同一ノ事件ハ更ニ移牒スルニ及ハスト雖モ苟モ異義ニ涉ルモノハ必ス移牒スヘシ

府 縣

○第三十六號 (六月二十九日 輪原附)  
明治十年十月第七十五號達相廢シ候條自今法律布令執行上疑義アルトキハ其主管ノ上司ニ伺出ヘシ此旨相達候事

但別紙ノ通官省院使ニ相達候條此旨心得ヘシ (別紙ハ前ノ第三十五號達ニ同シ)

官省院局

○第三十七號 (七月七日 輪原附)  
明治十三年度以降經費金ノ備通常ノ費用ハ其歲額ヲ十二分ニ其他ハ實際支消ノ期節ニ臨ミ大藏省ニ請求可致此旨相達候事

府 縣東京府 縣 除ク

○第三十八號 (七月七日 輪原附)  
明治十三年度以降地方稅ト連帶支辨ノ國庫下渡金即チ警察費土木費學校補助金ハ其年額ヲ四分ニテ請求シ其他經費金ハ從前ノ通可心得此旨相達候事

府 縣

○第三十九號 (七月二十八日 輪原附)  
本年六月第三十一號布告備荒儲蓄法ノ儀ハ當分沖繩縣ヘハ施行ニ及ハス就テハ該縣ヘ配付スヘキ補助金ノ儀ハ各府縣ヘ配付候條此旨爲心得相達候事

官省院使局府縣

○第四十號 (八月十日 輪原附)  
各廳經費及雜收入決算帳書式別冊ノ通相定候條左ノ順序ニ遵ヒ編成可致此旨相達候事  
但本年度ヨリ施行候儀ト可相心得事  
(別冊)

十四年太政官第八十八號達ニ依リ消滅

十四年太政官第三十三號達ニ依リ消滅

同上

二十三年法律第五號ニ依リ配付ヲ止

十四年太政官第三十三號達ニ依リ消滅

第一條 決算帳ハ該一周年中豫算金額ニ基キ若シハ別段許可ヲ收支セシ所ノ實額ヲ證明セシテ爲メ會計検査院ヘ送達スルモノトス其簿冊ヲ分ツテ二トス  
經費決算帳  
雜收入決算帳

雜收入決算帳

第二條 經費決算帳ハ第一號書式ニ準據シ期ヲ分ツテ編成スルモノトス其期ハ官省院局並東京府ハ每一箇月其他ノ使府縣ハ每三箇月在外公館ハ每六箇月トス

第三條 外國注文物品購入費等中仕切決算ニ難キ類ニシテ末期決算帳ニ編入シ難キモノアルハ第二號書式ニ準據追補決算帳ヲ設ケテ之ヲ整理スヘシ

第四條 雜收入決算帳ハ第三號書式ニ準據期ヲ分ツテ編成スルモノトス其期ハ官省院使局府縣ハ每三箇月在外公館ハ每六箇月トス

第五條 左ニ掲舉スル項目ハ第四號書式ニ準據例外經費受拂報告書ヲ設ケテ之ヲ編入シ每期決算帳ニ添附スヘシ

府縣屬官俸給史誌編輯費招魂社費等殘額據置ノ費項ニシテ其年度定額金ト連帶支辨ノ件  
懲役人傭工錢ノ收領ヲ以テ懲役人諸費ヘ填充ノ件  
官員俸給旅費其他諸費一旦決算ノ後事故アリテ還納スルモノヲ次期若クハ末期決算ニ於テ各其科目中ヘ差繼ノ件

官省院使局貸渡官舎修繕費受拂ノ件

第六條 史誌編輯費招魂社費懲役人諸費ノ類ニシテ據置金若クハ傭工錢ト連帶支辨スルハ決算帳ニ於テハ細科目記載ニ及ハス

第七條 雜收入ハ一期中大藏省ニ對シ納高即領收証ヲナキハ其實收額ノミヲ掲ケ實收ナキハ



共事由ヲ記載シ該期經費決算帳ニ添ヘ之ヲ申報スヘシ

第八條 決算帳及報告書中旨數科目等ノ改削塗抹ヲ爲スヘカラス

第九條 經費及雜收入決算帳ハ每期終了ノ翌月二十日ヲ限リ末期ノ分ハ其年十二月一日ヲ限リ追

補決算帳ハ翌年二月ヲ限リ各其本廳ヲ發遣スヘシ但支廳若シハ出張所等遠隔ノ地ニアルモノハ左ノ如シ

支廳若シハ出張所等ノ本廳ヲ距ル五十里以内ニ在ルモノハ本廳同期ニ編入スヘシ

其本廳ヲ距ル五十里以外二百里未滿ナル者ハ甲期分ハ本廳同期若シハ乙期ニ編入シ以下順次

此例ニ循フ

但末期ニ限リ彈テ本廳同期中ニ編入スヘシ次項モ亦同シ

其本廳ヲ距ル二百里以外五百里ナルモノハ甲期分ハ本廳乙期若シハ丙期ニ編入シ以下順次此

例ニ循フ

神社費決算帳モ亦前項ノ例ニ照シ整理スヘシ

在外公館ハ初期ハ各館精算帳卷皆到達ノ日ヨリ三十日ヲ限リ末期ハ同斷五十日ヲ期トス

(以下式略ス)

○第四十一號 (八月十三日 諭旨附)

本年二月十一號達外國品購求規則左ノ通追加候條此旨相達候事

第三條 大藏省ニ於テハ云々

但本條評決ノ上ハ便宜各官廳ニ於テ直ニ購求ノ取扱ヲ爲スコト得ヘシ

第六條 作業上ニ關スル外國品ハ毎月其在庫表ヲ製シ大藏省ニ申報スヘシ

○第四十二號 (八月十六日 諭旨附)

官省院使府縣

官省院使府縣

第四十八號達參看  
十四年太政官第五  
十八號達ヲ以テ廢  
止

十七年太政官第五  
十九號達ヲ以テ改

明治十年七月第五十號及ヒ第五十一號達各廳爲替方命令書案第十七條左ノ通改正候條此旨相達候事

第十七條

一各地方ニ爲替ヲ命シタルハ無期限ノ分ハ爲替切符該地ニ到達後何日(二日又ハ三日)限リ相納

ムヘシ右手數料ハ有期限無期限共一口金五拾圓未滿ハ下渡サス五十圓以上百圓未滿ハ遠近ニ

拘ハラス金壹錢ヲ下渡スヘシ又一ト口滿百圓以上ハ百圓ニ付十里毎ニ金何錢(貳錢ヨリ貳錢五厘

ニ)ヲ下渡スヘシ又一ト口滿百圓ナレハ増手數料トシテ里程ニ拘ハララス金貳錢其以上五拾圓毎

ニ金壹錢ヲ増シ毎年六月十二月ニ拂渡スヘシ

但書從前之通

○第四十二號 (八月三十日)

官省院使府縣

竊ニ大藏卿大隈重信ヨリ明治九年度歲入出決算報告書ヲ上呈ス乃チ會計検査院ニ於テ其計算ヲ審

査セシメ以テ其確實ナルコトヲ認認ス因テ爲心得相達候事

明治九年度歲入出決算報告書

本會計年度即チ明治九年七月ヨリ同十年六月ニ至ル一周年間ノ歲入出決算ハ明治十年一月二十日

ヲ以テ頒布アリシ其豫算ニ基テ收支スル所ノ金額ヲ法例ニ照シテ統計シ同十一月十一日大藏省乙第

五十二號達書ニ據リ同十二年一月二十日ニ於テ出納ヲ閉シ以テ之ヲ整理セルモノナリ故ニ會計

検査員ハ常ニ之カ法例ヲ遵行シ勉メテ其検査ヲ慎重ニセリ今其決算ヲ報告スルニ臨ミ本期ノ豫算

及ヒ前年ノ決算ニ比照シテ其出入ノ増減顛末ヲ詳述スル前ニ方リテ先ツ此決算完成ニ至ルノ順序

ヲ示スハ最モ緊要ニ屬スルヲ以テ茲ニ其要領ヲ掲載スル左項ノ如シ

第一 歲入検査ノ事

凡ソ一般ノ歲入ハ先ツ豫算決定高ニ基キ各部門ヲ分テ會計原簿大藏省檢査局辦理ニ登記シ而シテ諸稅ハ明

明治十三年八月 太政官 達 第四十二號 (明治九年度歲入出決算報告書)



治七年<sup>十二</sup>大藏省乙第四十七號達書同九年<sup>一</sup>第三號公布及<sup>七</sup>大藏省乙第十二號達書、稅外諸收納ハ同六年<sup>十二</sup>第四百二十七號第四百二十八號公達、諸貸出金返納ハ同八年<sup>九</sup>大藏省乙第百十八號同百二十號同九年<sup>七</sup>同省乙第五十六號達書ノ規則ニ遵ヒ時々國庫ヘ納入スルニ方リ當テ決定アル豫算ノ員額ニ照査シ之ヲ原簿ニ登錄シ以テ收入傳票大藏卿ヨリ出納ノ手續ヲ爲シ逐次之ヲ納了スルニ隨ヒ諸稅ハ同七年<sup>十</sup>同省乙第五號達書、稅外諸收納ハ同八年<sup>五</sup>同省乙第八十六號公達諸貸出金返納ハ同八年<sup>五</sup>同省乙第八十六號公達同年<sup>十二</sup>大藏省乙第六十三號同九年<sup>七</sup>同省乙第五十六號同年<sup>十一</sup>同省乙第九十四號達書ノ規則ニ遵ヒ各共勘定帳簿ヲ申牒爲サシメ曾テ登記スル所ノ原簿ニ據リ計數ト計簿例式トニ照シテ繕悉之ヲ檢査シ同七年<sup>十二</sup>大藏省乙第四十一號達書ノ規則ニ據リ決算證書ヲ交付シテ其差異無キヲ證明シ逐件此順序ニ隨ヒ以テ該部ノ全計ヲ統理ス

第二 歳出檢査ノ事

凡ソ一般ノ歳出ハ先ツ豫算決定高ニ基キ各部門ヲ分テ會計原簿ニ登記シ而シテ明治七年<sup>四</sup>第四十六號同八年<sup>三</sup>第三十六號及<sup>七</sup>同年五月十八日公達同九年<sup>七</sup>大藏省乙第六十四號同九年<sup>八</sup>內務大藏兩省乙第六十九號同十年<sup>二</sup>大藏省乙第八號達書ノ規則ニ遵ヒ各屬ヨリ要請スルニ方リ當テ決定アル豫算ノ員額ニ照査シ之ヲ原簿ニ登錄シ以テ支出傳票ノ手續ヲ爲シ實際之ヲ支消スルニ隨ヒ明治八年<sup>八</sup>第百四十九號第百五十號公達同九年<sup>七</sup>大藏省乙第五十六號同年<sup>十一</sup>同省乙第九十四號同十年<sup>五</sup>同省乙第二十號達書ノ規則ニ遵ヒ各勘定帳簿ヲ申牒爲サシメ曾テ登記スル所ノ原簿ニ據リ計數ト計簿例式トニ照シテ繕悉之ヲ檢査シ明治六年<sup>十</sup>大藏省乙第五十四號達書ノ規則ニ據リ決算證書ヲ交付シテ其差異無キヲ證明シ以テ該部ノ全計ヲ統理ス

第三 歳入出員額ノ査定スル事

歳入出ノ員額ハ第一項以下ニ掲ル順序ヲ查了シ出納領附ノ後會計原簿大藏會檢勘定帳簿各屬ヨリ國庫ノ出入ニシテ單ニ出納上ノ整理ヲ要スルカ爲メ之カ手續ヲ爲スニ止ルモノ經費仕拂殘ハ畢竟空額ニシテ全計上重複ニ屬スルヲ以テ之ヲ除却ス

第四 出納ノ重複ニ涉ルモノハ除算スル事

庫入出現計簿大藏省出トテ照査シ三者符合シテ釐毫ノ差違ナキヲ認メ之ヲ以テ決算ノ員額トス

第五 九州地方賊徒征討費ハ本部ノ歳出ニ關與セサル事

九州地方賊徒征討ニ係ル費途ハ明治十年<sup>十一</sup>第八十六號ヲ以テ其決算ヲ尋常歳入出ト別異ニスハヤ旨ヲ公達シ既ニ本年二月之カ決算ヲ公示セリ但タ本期ノ入出ニ屬スルモノニシテ兇徒ノ掠奪ニ係ルモノハ之ヲ損失ニ立ツ

以上數項ニ於テ歳入出決算完成ニ至ルノ順序ヲ略記セリ由テ以テ其要領ヲ知ルヘキナリ  
茲ニ歳入出ノ豫算及ヒ決算ノ大計ヲ掲ケ會計ノ全般ヲシテ一看明瞭ナラシム  
明治九年度歳入出豫算ハ左ノ如シ

歳入		歳出	
海關稅	一七六、二五五、四〇〇	國債元利	五五五、四四七、〇〇〇
地稅	四六、五五五、七四三	帝室及皇族	八二七、五〇〇、〇〇〇
各種稅	八一、三五五、八七〇	賞典家祿及社寺祿	一七七、〇五三、三七〇
官工收入	二、四五五、三六〇	官院省局	二六、一〇〇、〇〇〇
諸收入	四〇、八五三、九九〇	開拓使警視局府縣	七、二六三、一六〇
總計	六三九、九五六、四三三	雜件費	五、五四六、三五一
	〇〇〇	總計	六三九、九三八、四四七
	〇〇〇		〇〇〇



右豫算歳入ノ總計ヲ以テ其歳出ノ總計ニ比スレハ則チ千七百九拾六圓ノ餘贏ヲ生ス  
明治九年年度歳入出決算ハ左ノ如シ

歳入	
海關稅	一九八八、六六七
地稅	四三〇、三六四
各種ノ稅	六七一、八五四
官工收入	二、五九九、九九七
諸收入	三、二〇〇、四〇五
總計	五九、四八、〇三六

歳出	
國債元利	四九五〇、七九七
帝室及皇族	八二七、五〇〇
賞典家祿及社寺祿	一七、七三六、九〇六
官院省局	三、四八六、六〇三
開拓使警視局府縣	六、八五九、九六五
雜件費	五、四七、二八四
總計	五九、三〇、八九六

右決算歳入ノ總計ヲ以テ其歳出ノ總計ニ比スレハ則チ拾七萬貳千七拾九圓七拾壹錢六厘ノ餘贏ヲ生ス此餘贏金ハ明治七年十月十三日ニ於テ裁定アリシ會計規程ニ遵ヒ之ヲ準備金中ニ挿入シ以テ該年度間會計ノ全局ヲ結了スルモノナリ  
茲ニ歳入出決算ノ通常臨時トノ區別ヲ視ルハ財制上緊要ニ係ルヲ以テ特ニ之ヲ掲載スルヲ左ノ如

通常歳入	
海關稅	一九八八、六六七
地稅	四三〇、三六四

通常歳出	
國債元利	四九五〇、七九七
帝室及皇族	八二七、五〇〇

各種ノ稅	
官工收入	二、五九九、九九七
造幣局收入	一、五二〇、三七七
官有地及家屋敷料	一、五七八、二五五
森林諸收入	九四、五〇二
總計	五、五六八、四九六

賞典家祿及社寺祿	
官院省使府縣	二、八三五、九九二
雜件費	三、一二八、四四六
總計	五、九六四、四三八

臨時歳入	
官有物拂下代	八四九、二五三
稅外及雜收入	一、九〇三、九九七
諸返納	一、〇四二、八八八
總計	三、七九六、〇三九

臨時歳出	
興業費	一、九八六、六四三
諸貸出	一、一七三、九四〇
大和行京都行	一、一九九、六二二
雜件費	一、〇四〇、四三三
總計	四、三〇〇、六三六

右決算通常歳入ノ總計ヲ以テ其歳出ノ總計ニ比スレハ六拾九萬七千貳拾壹圓四拾四錢九厘ノ餘贏ヲ生ス  
又決算臨時歳入ノ總計ヲ以テ其歳出ノ總計ニ比スレハ五拾貳萬四千九百四拾壹圓七拾三錢三厘ノ不足ヲ生ス

此ノ如ク通常臨時トヲ區別シ以テ各自ニ比較セハ臨時ノ部ニ在テハ此不足ヲ視ルト雖モ齊シク歳入中ノ支辨ニ係ルモノナルカ故ニ全計ヲ以テ比較セハ則チ簡ニ記載セル如ク全ク拾七萬貳千七拾



九圓七拾壹錢六厘ノ餘額ヲ祝ルナリ

明治九年歳入決算歳入出ノ金額ハ即チ該年度ニ屬スル全般ノ收支ヲ統理セシモノニシテ其實際ニ至テハ或ハ之ニ先チ或ハ之ニ後レテ收支スルアリ是皆會計ノ規程ト約束トニ由ルモノナリ乃チ其收支三期ニ大別シテ其景況ヲ示スヲ左ノ如シ

區分	年 月 歳	
	入 歳	出
九年六月以前ノ分	五〇九一六四	一五三六四一〇
十年六月ニ至ル分	四五八三九八〇〇	〇九六
十年七月以降ノ分	一三三五〇三〇〇	五二七六七二二
合 計	五九四八一〇三六	一八四 五九〇五三三三

右實際收支ノ年月ニ就テ之ヲ觀レハ六月以前ニ於テ收入ノ金額ハ僅々ニ止リ其支出ノ超過スルモノハ在り海外公館ヲ始メ各地方等ノ經費ヲ年度ニ先チ交付セシモノ多キニ由ル而シテ此差額ハ前年度ニ屬スル歳入ヨリ一時ノ流用ヲ爲セシモノナリ  
以上列記スル處ノ豫算決算及ヒ通常臨時實際收支ノ年月區分等ニ就テ之ヲ看了セハ本年度會計ノ大要ヲ知了スヘシ依テ歳入出詳細ノ各科目ニ就キ豫算及ヒ前年度ノ決算ト對照シ以テ其増減伸縮アル所以ノ事蹟ヲ詳悉ス乃チ其序次ヲ分テ三節ト爲スヲ左ノ如シ

- 第一 歳入
- 第二 歳出
- 第三 國債、準備、貸付

第一 歳入ノ決算

明治九年歳入決算ノ總計ハ六千貳百九拾九萬五千六百四拾三圓ニシテ其決算ノ總計ハ五千九百四拾八萬三千三百六拾八錢四厘ナリ此總計ヲ以テ豫算ニ比スレハ其減少スルコト三百五拾壹萬四千六百六圓八拾壹錢六厘ナリ

又歳入決算ノ總計ヲ以テ前年度決算ノ總計六千九百四拾八萬貳千六百七拾六圓五拾六錢ニ比スレハ其減少スルコト千萬千六百四拾圓三拾七錢六厘ナリ

第一表

自明治九年七月會計年度歳入豫算決算増減比較表

(△印ハ赤字)

科 目	決 算 額		豫 算 額		八 年 度 決 算 額		本期決算ノ増減額(以下ニ同シ) 豫算ニ比シ	八年度決算ニ比シ
	海關 及 諸 收 入	入	入	入	入	入		
地 税	四三〇三、四七五	四三〇三、四七五	四三〇三、四七五	四三〇三、四七五	四三〇三、四七五	四三〇三、四七五	△	二六、九三三
鑛 山 税	八、九〇三、四三六	八、九〇三、四三六	八、九〇三、四三六	八、九〇三、四三六	八、九〇三、四三六	八、九〇三、四三六	△	二、九一三
官 祿 税	七、六八八、二九八	七、六八八、二九八	七、六八八、二九八	七、六八八、二九八	七、六八八、二九八	七、六八八、二九八	△	一、五七三
家祿並賞典祿税	二、一三〇、一八七、五三三	二、一三〇、一八七、五三三	二、一三〇、一八七、五三三	二、一三〇、一八七、五三三	二、一三〇、一八七、五三三	二、一三〇、一八七、五三三	△	五、五〇六
北海道物産税	三、八四一、五八三、九七五	三、八四一、五八三、九七五	三、八四一、五八三、九七五	三、八四一、五八三、九七五	三、八四一、五八三、九七五	三、八四一、五八三、九七五	△	四、二〇五
琉球藩貢納	三、六、九四四、九三六	三、六、九四四、九三六	三、六、九四四、九三六	三、六、九四四、九三六	三、六、九四四、九三六	三、六、九四四、九三六	△	一、一四四
酒 類 税	一、九一六、三三九、二六五	一、九一六、三三九、二六五	一、九一六、三三九、二六五	一、九一六、三三九、二六五	一、九一六、三三九、二六五	一、九一六、三三九、二六五	△	六、四三三
烟 草 税	二、四四一、四八六、七二七	二、四四一、四八六、七二七	二、四四一、四八六、七二七	二、四四一、四八六、七二七	二、四四一、四八六、七二七	二、四四一、四八六、七二七	△	三、七〇〇







茲ニ各科目ニ就キ豫算及ヒ前年度決算ニ比シ増減アル事由ヲ説明スル左ノ如ク  
(海關輸出入税及諸收入) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ貳拾貳萬六千百拾三圓六拾六錢五厘ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ貿易ノ景狀各港素ヨリ異同アリト雖モ其主要ナルモノヲ申明セハ輸出税ハ本年海外ニ於テ蠶種ノ産出非常ノ凶歉ニ會シ蠶繭紙及ヒ生糸ノ需求頗ル多キト昆布等ノ輸出ヲ増セシニ由リ拾萬三千六百圓餘ノ輸入税ハ綿布、毛布、木綿糸等ノ輸入ヲ増セシニ由リ拾三萬三千六百圓餘ヲ増加シ諸收入ハ入出船舶ノ數又ハ倉敷料等ノ寡キニ由リ壹萬千貳百圓餘ヲ減少セリ以上増減ヲ對計シテ前記ノ超過ヲ生スルナリ  
又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ貳拾六萬九千九百三拾四圓八拾四錢壹厘ヲ超過セリ此超過セシ所以ハ前述ノ如ク貿易ノ増進ニ由リ輸出税ニ於テ貳拾萬貳千七百圓餘ノ輸入税ニ於テ六萬七千七百圓餘ヲ増加セシニ由ルナリ  
(△印ハ朱書)

科 目	決 算 額		豫 算 額		決 算 額 比 豫 算 額 増 減
	決 算 額	豫 算 額	決 算 額	豫 算 額	
海關	六五、七二二	三三、六	五九、〇四七	〇〇、〇〇〇	二七、六六五
神 戶	一七、一七〇	八、〇五	一三、一〇九	〇〇、〇〇〇	三、八七八
大 坂	五、四〇〇	四、六一	八、八〇四	〇〇、〇〇〇	三、四〇三
長 崎	五、四八八	二、八六	六、四六二	〇〇、〇〇〇	九、七六一
新 潟	〇	〇	一、九三	〇〇、〇〇〇	△ 一、九三
函 館	二〇、九六六	五、七	一、七七〇	〇〇、〇〇〇	五、二三六

同 輸 入 税	決 算 額		豫 算 額		決 算 額 比 豫 算 額 増 減
	決 算 額	豫 算 額	決 算 額	豫 算 額	
計	八五、五〇八	四、五	七五、一四三	〇〇、〇〇〇	一〇、三六五
神 戶	八七、八三〇	九、八〇	七〇、七五〇	〇〇、〇〇〇	一七、〇七三
大 坂	一六、一九五	三、七九	一八、一八三	〇〇、〇〇〇	△ 一、九八七
長 崎	四、二九九	〇、三三	二六、一六八	〇〇、〇〇〇	△ 一〇、一四
新 潟	六、五	〇	五、〇六五	〇〇、〇〇〇	△ 一、四三五
函 館	六、九八	九、一五	五、九〇	〇〇、〇〇〇	一、〇八
計	一、〇〇、一五	七、五	九六、六四四	〇〇、〇〇〇	三、六六一
神 戶	一七、三四五	一、五	二二、八六九	〇〇、〇〇〇	△ 五、五三三
大 坂	五、八六〇	一、四二	七、八五三	〇〇、〇〇〇	△ 一、九九二
長 崎	八、二五八	〇、〇五	二、五〇八	〇〇、〇〇〇	△ 一、六二四
新 潟	一、七〇	六、二五	五、三三八	〇〇、〇〇〇	△ 三、六七
函 館	九、二六	二、五〇	一、一八九	〇〇、〇〇〇	△ 二、六二
計	三三、四四三	四、五	四四、七〇七	〇〇、〇〇〇	△ 一、二六三
計	二、九八、八六七	六、六五	一、七六、二五五	〇〇、〇〇〇	三、二六三

(地稅) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ三百五拾三萬三千三百拾七圓貳拾九錢六厘ヲ減少セリ



此減少セシ所以ハ明治七年以前ニ係ル地稅延納ノ分五萬五千六百圓餘ヲ増加スルト雖モ鹿兒島縣其他各縣下ノ騷擾ニ際シ賦徒ノ掠奪及ヒ災厄ニ罹リシモノ貳拾五萬六千四百圓餘、改租整頓ノ一部ニ於テ舊額ヨリ増加シ又ハ豫シメ概算ヲ以テ徵收セシ員額ヨリ超過セシモノ、一時之ヲ收了シ難ク延期年賦納其餘事故アリテ未納ノモノ三百三拾三萬貳千五百圓餘、併セテ三百五拾八萬八千九百圓餘ヲ減少セシニ由リ其増減ヲ對計スレハ此減少ヲ生スルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ七百三拾貳萬九千九百貳圓七錢六厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ明治七年以前ニ係ル地稅ノ延納ヲ收了セシニ由リ五萬五千六百圓餘ヲ増加スルト雖モ前述ノ如ク西南ノ騷擾ニ際シ賦徒ノ掠奪及ヒ災厄ニ罹リシモノ、又ハ改租ニ就テ稅額減少シ其餘延期年賦納等ニ因リ未納ニ係ルモノ併セテ七百三拾七萬七千五百圓餘ヲ減少セシニ由リ其増減ヲ對計スレハ前記ノ減少ヲ生スルナリ

又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

科 目	決 算 額	豫 算 額	豫 算 比 率	増 減
地 租	四二九四四、一三三	四六、四八八、五七七	△	三三、五四四、四四四
地 券 證 印 稅	七六、二九〇	七、一六六	△	八、一二四
通 計	四、三〇三、七五五	四、五五五、一三三	△	二五一、三七七

(鑛山稅) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ貳千五百五拾壹圓六拾五錢四厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ豫算ノ際當時鑛山借區ノ景狀ニ因テ豫定セシニ決算ニ至リ當初ノ目途ニ及ハサリシニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ千四百七拾貳圓五拾五錢貳厘ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ借區開鑛場ノ年々逐テ多キヲ加ヘシニ由ルナリ

(官祿稅) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ壹萬六千六百九拾三圓七拾錢貳厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ明治十年一月官制ノ改革ニ因リ尋テ同月第三號ノ公達ヲ以テ勅任官ノ課稅ヲ増スト雖モ奏任官ノ俸給ヲ削減セシニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ壹萬五千七百三拾九圓貳拾七錢三厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ前述ノ事由ニ同シ

(家祿並賞典祿稅) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ六萬八千七百貳拾六圓七拾四錢八厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ秩祿ノ整理ニ隨ヒ壹萬三千五百圓餘ヲ増加スルト雖モ鹿兒島縣下ノ騷擾ニ會シ賦徒ノ掠奪ニ係ルモノ八萬貳千貳百圓餘アリシニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ五萬五千六拾九圓貳拾壹錢三厘ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ本年度中除族ノ者收祿其餘合家分家等祿高ノ離合ニ因リ減少セシモノアリト雖モ西南賦徒ノ爲メ掠奪セラレシモノ前期ニ關スル金員ノ如ク多カラサリシニ由ルナリ

(北海道物產稅) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ壹萬三千九百九拾壹圓九拾七錢五厘ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ鹿角皮稅及ヒ氷專賣稅ヲ地方稅ヘ移セシニ由リ貳千五百圓餘ヲ減少スルト雖モ該地方產出ノ物品年々逐テ増殖セシト其價格ノ昂騰セシトニ由リ壹萬六千五百圓餘ヲ増加セシニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ四萬貳千五拾七圓七拾壹錢三厘ヲ超過セリ



此超過セシ所以ハ該地方産出ノ物品逐年増殖セシト其價格ノ昂騰セシトニ由ルナリ  
 (琉球藩貢納) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ貳千拾九圓九拾三錢六厘ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ該貢納ハ米額ヲ金ニ換ヘ收納スルモノニシテ前三年平均ノ米價ト本年ノ景況ヲ酌量シ壹石ニ付四圓貳拾五錢九厘餘ヲ以テ豫定セシニ實收ニ至リ四圓五拾錢五厘餘ニ騰リ  
 此ニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ壹萬千貳百四拾四圓五拾七錢八厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ前年度決算ノ價格五圓八拾七錢六厘餘ナリシニ本年度ハ四圓五拾錢五厘餘ナリニ由レリ

(酒類稅) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ四拾六萬貳千貳百拾九圓七拾三錢五厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ前年ノ收額ニ照量シ尙ホ當時ノ景況ヲ參酌シ以テ豫定セシニ實際ニ至リ酒價ノ低落、釀造額ノ減少及ヒ營業者ノ減員セシトニ由レリ今試ニ該稅ノ最著タル清酒稅ノ一部ニ就テ之ヲ略述セハ前年度ニ在テハ全國平均每壹石ノ價六圓七拾壹錢貳厘餘ナリシニ本年度ハ五圓五拾七錢三厘餘ニ止リ乃チ壹割七分弱ノ低落ナリ又前年度ノ釀造額ハ三百萬貳千九百石餘本年度ハ貳百四拾九萬千七百石餘ニ止リ乃チ壹割七分強ノ減少ナリ加ルニ前年度ノ營業者ハ貳萬八千三百名餘ニシテ本年度ハ貳萬六千九百名餘ニ止リ乃チ五分強ノ減少ナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ六拾四萬三千九百五拾五圓六拾七錢五厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ前述ノ事由ニ同シ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ但シ表中每科目ノ豫算額ヲ填記セサルモノハ豫算ノ際之カ區分ヲセサリシニ由ル以下此類之ニ同シ

科 目	決 算 額	豫 算 額	豫 算 額 比 増 減
釀 造 稅	一三三、八三五、六〇〇	六六、五〇〇	〇、〇〇
受 賣 稅	二八七、六四六、二〇〇	〇	〇
釀 造 營 業 稅	三〇五、六三六、四〇〇	〇	〇
通 計	一、九一、一六三、九〇〇	二、三三、八五九、〇〇〇	四、六二、二一九、七三五

(△印ハ朱書)

(煙草稅) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ貳拾九萬五千七百九拾九圓三拾貳錢三厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ明治九年一月以降始メテ該稅ヲ徵收セシヲ以テ豫算ノ際實際ノ日尙ホ淺ク遂ニ此減少ヲ生セシナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ三萬七千四百圓貳拾八錢ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ前述ノ如ク該稅ハ明治九年一月以降施行セシヲ以テ前期ニ在テハ六箇月間ノ收額ナリシニ本年度ハ全ク周歲ノ納額ナルニ由ルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

(△印ハ朱書)

科 目	決 算 額	豫 算 額	豫 算 額 比 増 減
卸 賣 稅	六三、五四五、〇〇〇	〇	〇、〇〇
小 賣 稅	一四、一三〇、〇〇〇	〇	〇
仕 入 鑑 札 料	三、四九〇、五〇〇	〇	〇



印紙	計	三、八六二	七、七	〇	〇
通	計	二、四四一、四八	六、七七	五、三九、九四八	二、九五、七九九
					三、三三

(證券印紙諸税) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ九萬七千七百貳拾五圓七拾五錢八厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ印紙賣捌高ノ寡カリシニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ六萬四千七拾三圓拾九錢六厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ前述ノ事由ニ同シ

又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

(△印ハ赤字)

科	目	決算額	豫算額	決算ノ比
印紙	税	三、七〇、六〇四	二、九四	△九二、三六
界紙	税	六、三、五五〇	九、四八	△五、三三九
通	計	四、三、一五五	二、四二	△九七、七三五
				七、五八

(郵便税) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ三萬六千三百四拾四圓六拾錢三厘ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ郵便線路ノ延長ヲ加ルト通信及郵便爲換等ノ數ヲ増セシトニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ拾萬五千九百六拾壹圓四拾六錢七厘ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ前述ノ事由ニ同シ

又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

科	目	決算額	豫算額	決算ノ比
内	郵便切手代	六、三、七、六九	八、三三	〇、〇
	爲換料	三、五、八、三七	〇、七〇	〇、〇
	私書函料	三、〇、三三	七、五〇	〇、〇
計		六、六、七、六三九	六、四、三	〇、〇
外	郵便切手代	二、〇、五、〇〇	八、一〇	〇、〇
	上海橫濱同英 郵便附送送料	一、〇、八八	一、五〇	〇、〇
計		二、一、五、八八	九、六〇	〇、〇
通	計	六、八、九、二二八	六、〇、三	三、六、三、四四
				六、〇、三

(訴訟野紙諸税) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ貳拾貳萬貳千貳百九拾九圓八拾五錢ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ該税ハ明治九年二月始メテ施行セシモノニシテ(烟草税)ノ部ニ掲グル事由ニ同シ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ壹萬六千七百九圓七拾七錢壹厘ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ前述ノ如ク該税ハ明治九年二月以降始メテ施行スルヲ以テ前期ニ在テハ僅々

五ヶ月間ノ收額ナリシニ本年度ハ全ク周歲ノ納額ナルニ由ルナリ

又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ



科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 比 豫 算 額 増 減
訴訟用紙稅	六、六六六	二九一	〇四
裁許用紙稅	三、八九一	〇九四	〇〇
文通用紙稅	一、四六六	七六五	〇
通 計	八、〇一七	一、一五〇	三、〇一七
			三、〇一七

(△印ハ朱書)

(代官免許料)

此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ七萬五千八拾圓ヲ減少セリ  
此減少セシ所以ハ該稅ハ明治九年二月規則ヲ創設セシモノニシテ(烟草稅)ノ部ニ掲ル事由ニ同

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ四千七百七拾圓ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ前述ノ如ク該稅ハ明治九年二月規則ヲ創設シ前年度ハ第一表詳報代其外ノ内ニ在テハ總ニ五ヶ月間ニ止リシモ本年度ハ全ク周歲ノ納額ナルニ由ルナリ

(蠶種紙印紙稅)

此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ貳千八百六拾七圓九拾四錢五厘ヲ超過セリ  
此超過セシ所以ハ蠶種紙ノ輸出多カリシヲ以テ之カ製造ヲ増加セシニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ壹萬九百七拾九圓四拾錢五厘ヲ超過セリ

(生糸、繭、真綿印紙代)

此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ九千九百六拾四圓九拾六錢六厘ヲ超過セリ  
此超過セシ所以ハ生糸輸出ノ數量常年ニ倍蓰セシヲ以テ之カ製造ヲ増セシニ由レリ但シ該稅ハ

明治十年四月第三拾七號公布ヲ以テ廢セシニ由リ十月間ノ實收ナリ  
又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ四千貳百六拾五圓八拾壹錢四厘ヲ超過セリ  
此超過セシ所以ハ前述ノ事由ニ同  
又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

(△印ハ朱書)

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 比 豫 算 額 増 減
生糸印紙代	三、〇一〇	一、九九三	一、〇一七
繭印紙代	一、三三二	一、〇〇〇	一、九三二
真綿印紙代	一、七二七	四一九	三、四七
通 計	六、〇六九	三、〇〇〇	三、〇六九

(生糸賣買鑑札料)

此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ貳千六百六拾七圓五拾錢ヲ超過セリ  
此超過セシ所以ハ前項(生糸、繭、真綿印紙代)ニ說明スルカ如ク生糸輸出ノ數量倍蓰セシニ隨ヒ該營業人ノ増加セシニ由ルナリ但シ該鑑札料ハ明治十年四月内務省乙第四拾八號達ヲ以テ廢セシニ由リ十月間ノ實收ナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ貳千三百拾圓八拾錢ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ前述ノ事由ニ同シ該稅ハ八年年度決算報告書ニ於テ第一表(生糸印紙代其外ノ内)ニアリ

(船稅)

此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ四千四百七拾八圓壹錢貳厘ヲ超過セリ  
此超過セシ所以ハ逐年船舶ノ多キヲ加ルニ由リ三千四百圓餘、開拓使ニ於テ新タニ五拾石積以下ノ船稅ヲ徵收セシニ由リ千圓餘ヲ増加セシニ由ルナリ



又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ四千六百四圓三拾三錢壹厘ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ前述ノ事由ニ同シ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 比 増 減
蒸氣船稅	四〇三六	九七六	〇
西洋形風帆船稅	五四二	二七一	〇
日本形船稅	二八五三九	七六五	〇
通 計	三三、一八九	一、八六一	〇

(車稅) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ三萬四千九百壹圓六拾四錢貳厘ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ諸車ノ數額增加セシニ由ルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ貳萬千七百八圓七拾九錢貳厘ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ前述ノ事由ニ同シ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 比 増 減
馬車稅	一〇一八	〇〇〇	〇
人力車稅	一六、〇〇七	三、〇一一	〇
牛車稅	一、五九九	〇〇〇	〇
通 計	一七、七〇四	三、〇一一	〇

荷 車 稅	計	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 比 増 減
通 計	七、二四七	三、〇〇〇	〇	〇

(會社稅) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ拾五萬四千貳百六拾六圓三拾八錢五厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ該稅ノ規則ハ明治九年八月第百五號ヲ以テ公布アリシモノニテ當初豫算ノ際  
 未ダ精確ノ目途ヲ得難ク當時ノ景況ニ就テ豫定セシニ實收ニ至リ此減少ヲ生セシナリ  
 (銃獵稅) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ九百四拾壹圓八拾貳錢九厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ獵獵營業人ノ減セシニ由ルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ貳百八拾九圓四拾貳錢九厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ前述ノ事由ニ同シ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ (△印ハ赤字)

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 比 増 減
遊獵稅	一、八一〇	〇〇〇	〇
職獵稅	四、四八二	一七一	〇
通 計	六、六三二	一七一	〇

(牛馬買賣免許稅) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ千百貳拾五圓四拾貳錢九厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ實收ニ至リ當初ノ目途ニ及ハサリシニ由ルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ貳萬九千九百三拾四圓八拾六錢貳厘ヲ減少セリ



此減少セシ所以ハ漸次牛馬買入ノ業ニ就クモノ、増殖セシニ由リ八百圓餘ヲ増加スルト雖モ前期ニ於テハ該稅收納ノ會計年度ニ適應セシメシカ爲メ明治八年十一月一號大藏省乙第四百四拾三號ヲ以テ府縣へ布達セシ旨趣ニ由リ同九年一月ヨリ六月ニ至ル半歲分ヲ編入シ併セテ一ケ年半ノ收額ナリシニ本年度ニ於テハ周歲ノ納額ナルニ由リ三萬八百圓餘ヲ減少セシニ由ルナリ

(度量衡稅) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ五千四百五拾四圓壹錢八厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ該稅取締條例及ヒ檢査規則ハ明治八年八月第百三拾五號ヲ以テ創メテ公達アリシモノニシテ(煙草稅)ノ部ニ掲グル事由ニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ七百圓四拾八錢貳厘ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ量器製造ノ漸次増加セシニ由ルナリ

(版權免許料) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ千五百六拾六圓七拾壹錢五厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ明治八年九月第百三十五號公布ヲ以テ該條例ノ發行アリシニ由リ(煙草稅)ノ部ニ掲グル事由ニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ貳千七百三拾八圓九拾五錢七厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ前年度ニ在テハ規則ノ創設ニ際シ從前藏版セシモノ、一時版權ヲ請願スルモノ、多カリシニ由ルナリ

(外國行其他免許手續料) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ千八百拾三圓九錢五厘ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ明治九年八月第百八十二號ヲ以テ公布アリシ海員技術試驗料ハ發ニ確實ノ豫算ヲ需メ難ク姑ク之カ編算ヲ缺キ又同年十二月第百五十四號公布ヲ以テ水先免狀手續料ヲ徵收セシ等ニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ貳千九百六拾六圓八拾四錢四厘ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ海員技術試驗料、水先免狀手續料等本年度以降創メテ之ヲ徵收シ其餘外國行免狀料、航海公證手續料ヲ該部へ移セシハ第一表雜入中ニアリ 等ニ由ルナリ

(賣藥稅) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ拾貳萬五千五百四拾五圓二拾八錢八厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ該稅ノ規則ハ明治十年一月第七號ヲ以テ創メテ公布アリシモノニシテ實收ノ比准ヲ見ルニ由シナク豫シメ概況ニ就テ豫定セシニ完結ニ至リ此減少ヲ生シナリ

又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如ク (△印ハ赤字)

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 比 豫 算 額 増 減
營業稅及鑑札料	二五、六四五	〇〇〇	〇〇〇
請賣行商鑑札料	二、八〇九	七〇〇	〇
通 計	二八、四五四	七二二	一五、〇〇〇
			〇〇〇
			△ 二、五五五
			二八八

(工部省所管鑛山) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ六拾萬九千九百七拾二圓五錢貳厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ各鑛山素ヨリ其景狀ヲ異ニシ偶超過セシモノアリト雖モ或ハ製煉ノ方法未ダ完全ニ至ラス或ハ鑛脈ノ變化ニ觸レ或ハ製煉用水ノ滲漏ニ會シ或ハ地方ノ騷擾ニ係リ一時事業ヲ停休スル等比々減少スルモノ多キニ由ルナリ今茲ニ各所ノ實況ヲ略述セハ

佐渡鑛山(銅、鐵)ハ製煉ノ方法充分ナラカ爲メニ收額減却ノ景況ヲ來レ依テ之カ方法ヲ改良シ稍曩日ノ損害ヲ償フト雖モ之ヲ舉行セシ時月ノ僅々ナルニ因リ畢竟拾壹萬七千三百圓餘ノ減少ヲ生セリ

生野鑛山ハ探鑛ニ臨ミ鑛脈ノ變化ニ觸レ鑛質ノ不良ナルニ屬シ加ルニ明治九年七月ノ頃製煉



用水ノ涸渇シテ屢停業セシ等ニ由リ貳拾萬四百圓餘ヲ減少セリ  
 小坂銀山ハ從前製煉方法ノ利ナキヲ考究シ更ニ器械ヲ改良シテ専ラ之ヲ用ユルノ見込ナリシニ  
 迅速功ヲ竟ヘ難キニ由リ壹萬五千圓餘ヲ減少セリ  
 大葛金山ハ既ニ新製煉器械ノ整備ニ隨ヒ探鑛モ亦増殖ヲ期セシニ新設ノ方法ヲ試業スルノ時月  
 ナ選シ實踐慣練ノ日淺キニ由リ營テ豫期スルノ成効ヲ奏シ難ク遂ニ三萬八千四百圓餘ヲ減少セ  
 リ  
 三池炭山ハ西南ノ事變ニ會シ一時停業シ又ハ鑛物ノ時價低下セリヲ以テ其賣却ヲ后期ニ譲ル等  
 ニ由リ貳拾萬千九百圓餘ヲ減少セリ  
 院內銀山ハ營テ豫期セシ如ク出鑛ヲ得サリシニ由リ九百圓餘ヲ減少スルト雖モ曩ニ小野組ヨリ  
 買收セシ鑛物及ヒ秋田縣假官業中ニ係ル鑛物等ヲ沽却セシニ由リ壹萬三千九百圓餘ヲ増加セリ  
 川口銅山ハ産鑛稀薄ニシテ加ルニ運搬不便ナルヲ以テ廢業セシニ由リ九千六百圓餘ヲ減少セリ  
 荒川銅山ハ人民ノ請求ニ任セ民坑ト爲セシニ由リ四千百圓餘ヲ減少セリ  
 阿仁銅山ハ營テ小野組ヨリ買收セシ鑛物ヲ沽却セシニ由リ壹萬千七百圓餘ヲ増加スルト雖モ該  
 山所屬八森銀山ハ每歲季秋ヨリ仲春ノ候ニ至リ大雪ニ封鎖セラレ屢人跡ヲ絶チ工業上ノ不便尠  
 カラス因テ之ヲ廢業シ其他阿仁銅山及ヒ該山所屬太郎鉛山ノ出鑛豫算目途ノ如ク至リ難キニ由  
 リ三萬九千六百圓餘ヲ減少セリ  
 以上増減ヲ對計シテ前記ノ減少ヲ生スルナリ  
 右ノ外釜石鐵山ハ明治七年ニ於テ之ヲ官坑ト爲シ爾來興業ニ着手スルト雖モ創基ニシテ未ダ採  
 鑛ノ期ニ至リ難ク故ニ收額ナシ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ五萬六千貳百三拾七圓七錢三厘ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ三池炭山ノ如キ前記ニ略述スルカ如ク西南ノ變故ニ會シ一時停業セシニ由リ  
 五萬六千三百圓餘、其他諸鑛山ニ於テ種々ノ事項ニ由リ壹萬貳千五百圓餘、併セテ六萬八千九百  
 圓餘ヲ減少スルト雖モ阿仁、院內鑛山ノ如キ前年度ニ在テハ之ヲ管理スルノ半途ニ起リ加ルニ  
 漸々産鑛ノ富厚ニ趨キ爲メニ九萬千三百圓餘、其餘佐渡、小坂、大葛鑛山ハ漸々出鑛ノ増殖ニ隨  
 ヒ三萬三千八百圓餘、併セテ拾貳萬五千百圓餘ヲ増加セシニ由リ其増減ヲ對計スレハ前記ノ超  
 過ヲ生スルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ (△印ハ未達)

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 比 増 減
佐 渡	七五、五五〇	九三、八	△一七、三〇〇
生 野	一〇一、九〇〇	三〇〇、〇〇〇	△一〇〇、一〇〇
小 阪	四八、〇〇〇	六三、〇〇〇	△一五、〇〇〇
大 葛	二〇、八九〇	五九、三〇〇	△三八、四一〇
三 池	七九、三〇六	二八、二八八	△五一、〇一八
院 內	九四、二九一	八二、二九六	△一二、九九五
川 口	三三、〇六	一三、〇〇〇	△二〇、〇六六
荒 川	七、八四二	三、〇〇〇	△四、八四二
阿 仁	一八〇、七四九	二〇八、六二八	△二七、八七九
通 計	六二〇、八五二	一、二二二、八三五	△六〇一、九八三



(廣島鐵山) 此決算額ハ貳拾壹萬六千三百六拾八圓六拾錢ナリ  
 該鐵山ハ前年度決算報告書ニ略述スルカ如ク明治八年十一月中坑主ノ請願ニ由リ地方廳ノ管理ニ歸セシメ爾來事業ノ實況ヲ視ル日尙ホ淺ク豫算ノ際未タ確實ノ用途ヲ需メ難ク姑ク編算ヲ缺クナリテ實際決算整理ノ高ヲ編入スルモノナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ貳拾壹萬三千五百七拾八圓八拾貳錢ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ前記ニ略述スルカ如ク前年度ニ在テハ業ヲ半途ニ起シ本期ニ至リ全ク周歲ノ額ヲ納了セシニ由リ拾四萬三千三百圓餘、彘ニ採録セシモノヲ本年度ニ於テ販賣セシヲ以テ七萬貳百圓餘ヲ增加セシニ由ルナリ

(工部省所管汽車) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ拾壹萬五千九百拾五圓六拾四錢七厘ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ東京橫濱間ハ乘客ノ寡カリシニ由リ四萬四千五百圓餘ヲ減少スルト雖モ京都神戸間ノ如キハ京坂間ノ鐵道明治九年七月第拾三號工部省布達ヲ以テ開業セシモノニシテ素ヨリ多少ノ收額ヲ期スルト雖モ創施ノ際之カ確實ノ計算ヲ需メ難ク姑ク豫算ニ編入ナカリシヲ以テ拾六萬四百圓餘ヲ增加セシニ由ルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ拾六萬六千六百七拾八圓貳拾六錢貳厘ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ東京橫濱間ハ前述ノ事由ニ同シク壹萬六千三百圓餘ヲ減少スルト雖モ京坂間ノ開業ニ因リ線路延長セシヲ以テ拾八萬三千圓餘ヲ增加セシニ由ルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如ク

科	目	決算額		豫算額		決算ト比 増減
		決	算	豫	算	
東京 橫濱間	乘客賃	三五四、六五九	九六七	〇四		〇四
	物品運輸	三七、九六一	八二〇	〇		〇
京都 神戸間	乘客賃	三九二、六一八	七八七	四三、一七八	〇〇〇	△四、五五九
	物品運輸	三六、五九四	七二七	〇		〇
通計	乘客賃	七四六、二七七	一、七六四	四三、一七八	〇〇〇	△一、六〇四
	物品運輸	七四、五三〇	九五三	〇		〇
計		八二〇、八〇七	二、七一七	四三、一七八	〇〇〇	△一、五九一

(△印ハ米世)

(工部省所管電信) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ六萬七千四百九拾七圓五拾三錢九厘ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ熊本鹿兒島間又ハ小倉大分間ノ新架アリシト西南ノ事變ニ會シ官報發信ノ度數平常ニ倍蕪セシトニ由ルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ六萬五千六百八拾四圓拾三錢五厘ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ前述ノ事由ニ同シ  
 (工部省所管各工作局) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ壹萬九千百拾六圓九拾壹錢六厘ヲ減



少セリ

此減少セシ所以ハ各所固ヨリ其現況ヲ異ニシ或ハ器械製作ノ注文多キト曩ニ豫算ニ編入セサリ  
 シ收額アリテ多少増加スト雖モ或ハ工作十分ナラサル等ニ由リ減スルモノ尠カラズ結局此減少  
 ナ來セシナリ今茲ニ各局ノ實況ヲ説明セハ

長崎工作分局 船修ハ管テ豫期セシ如ク工事ノ運ヒ難キ等ニ由リ七千七百圓餘ヲ減少セリ  
 兵庫工作分局 船修ハ注文品ノ減少セント業テ後年ニ譲リントニ由リ四萬百圓餘ヲ減少セリ  
 赤羽工作分局 船修等製造ハ該所製造品ノ漸次精良ニ進ミ注文品ノ大ニ増加セシニ由リ四萬六千五  
 百圓餘ヲ超過セリ

深川工作分局 製造ハ「セメント」製造粘土ノ乾キ方悪ク十分ノ工ヲ竟ヘ難キニ由リ壹萬八千  
 六百圓餘ヲ減少セリ

内山下町分局 工務ハ從前内務省ノ管理ナリシニ明治十年一月中工部省ノ所管ニ轉シ素ヨリ該部  
 ノ豫算ニ編入ナカリシヲ以テ實收ノ全額七百圓餘ヲ増加セリ

以上増減ヲ對計シテ前記ノ減少ヲ生スルナリ

右ノ外品川工作分局 製造ハ明治九年三月中ヨリ興業ニ着手スルト雖モ創基ニシテ未ク營業ノ期  
 ニ至リ難ク故ニ實收ノ金額無シ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ四萬八千八百六圓九拾六錢貳厘ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ兵庫工作分局ハ注文品ノ減少セシニ由リ貳萬五千八百圓餘、明治九年一月女  
 工所ヲ廢セシニ由リ八百圓餘併セテ貳萬六千六百圓餘ヲ減少スルト雖モ赤羽、長崎、深川工作分  
 局ハ漸々器械ノ整備ニ隨ヒ稍盛業ニ趨キ七萬四千六百圓餘、内山下町分局ハ前記ニ略述スルカ  
 如ク工部省ノ管理ニ歸セシニ由リ七百圓餘、併シテ七萬五千四百圓餘ヲ増加セシニ由リ之カ増

減ヲ對計スレハ前記ノ超過ヲ生スルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

(△印ハ未嘗)

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 比 率
長崎分局	一〇七,四六四	一〇〇,〇〇〇	△七,七五三 六九六
兵庫分局	一四,八九一	七,二五〇	△七,七四一 二七五
赤羽分局	四九,九九九	三〇,〇〇〇	△一九,九九九 八六六
深川分局	八,三四五	二七,〇〇〇	△一八,六五五 七二五
内山下町分局	七九九	〇	△七九九 九二四
通 計	一八一,〇八三	二〇〇,二〇〇	△一九,一六六 九一六

(内務省所管製絲所) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ貳拾萬四千六百拾圓六拾貳錢八厘ヲ超  
 過セリ

此超過セシ所以ハ前年度決算報告書(内務省所管製絲所)ノ部ニ説明セシカ如ク該期ニ屬スル收  
 入ヲ本年度ノ整理ニ讓ルヲ以テ豫算外納入セシモノ拾壹萬六千圓餘、絲價ノ騰貴セシニ由リ八  
 萬八千五百圓餘ヲ増加セシニ由ルナリ

又前期ニ於テハ該部ノ收入ヲ本期ニ讓リシヲ以テ決算額無シ

又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 比 率
-----	-------	-------	-----------







此超過セシ所以ハ東京横濱間ノ鐵道拂下ケ解約ノ請願ヲ聽許セシニ由リ右拂下ケ代價先收貳拾壹萬四千圓ヲ減少スルト雖モ當テ秩祿奉還者へ土地木石等拂下ノ處分未定ニ係ルモノアリシニ漸次整理ニ隨ヒ之カ處分ヲ決行セシニ由リ七萬六千五百圓餘、官地官倉木石拂代等ノ如キ豫算ノ際豫シノ現狀ニ就テ酌定セシニ社寺領上地拂下等漸次處分ヲ決セシモ、其他種々ノ事項ニ由リ貳拾九萬三千九百圓餘、併セテ三拾七萬四百圓餘ヲ増加セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記ノ超過ヲ生スルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ百五拾六萬九千七百七圓八拾八錢三厘ヲ減少セリ此減少セシ所以ハ森林諸收入ノ如キ別款ニ移セシト雖モ官地其他諸拂物代等ノ多キニ由リ五萬八千貳百圓餘ヲ増加セリ然レトモ秩祿奉還者へ官地官倉拂下代等ノ寡キニ由リ百四拾壹萬三千三百圓餘、東京横濱間鐵道拂下ケテ解約セシニ由リ先收金貳拾壹萬四千圓併セテ百六拾貳萬七千三百圓餘ヲ減少セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記ノ減少ヲ生スルナリ

科	目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 比 増 減
高島炭坑賣拂代年賦金		六九五〇〇	六五〇〇〇	四五〇〇〇
		〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
東京間鐵道賣拂年賦金先收		二一五〇〇〇	四八〇〇〇〇	二、六五〇〇〇〇
		〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
官地官倉官庫木石等拂代		五五五、七五三	一九九、七七三	三五五、九八一
		七六二	〇〇〇	七六二
通 計		八四九、二五三	六九二、七七一	一五六、四八一

(△印ハ朱書)

(官有地及家屋類貸下料) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ壹萬八千百拾貳圓五拾九錢五厘ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ明治九年五月第五十三號ヲ以テ官倉貸渡規則ノ公達アリシニ豫算ノ際該規則ニ照シ詳悉之ヲ調理スルニ至ラサリト官地官倉ヲ貸付スルモノ、増加セシトニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ百拾壹萬五百拾壹圓貳拾九錢五厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ前年度決算報告書第一表ニ掲ケル(諸拜借料其外)ニ編入アリシ準備金ニ屬スル各種ノ雜入ヲ本年度ニ於テハ、稅外雜入へ移算セシニ由リ百四萬三千四百圓餘ヲ減少シ又前年度ニ於テ秩祿奉還者へ官地官倉ヲ拂下ケシコ多ク爲メニ本年度ノ貸下料ヲ減シ其他種々ノ事項ニ由リ六萬七千圓餘ヲ減少セシニ由ルナリ

(森林諸收入) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ三萬五千貳百六拾六圓拾九錢八厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ林木拂下ケノ締約ヲ解キシ等ニ由ルナリ

又該部ハ前期ニ於テハ(官地官倉木石等諸拂物代)ニ編入アリシニ本年度ニ至リ之ヲ別款ニ分裂セシヲ以テ決算全額ノ増加ヲ視ルナリ

(稅外及雜收入) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ八拾七萬七千八百八圓五拾五錢貳厘ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ勸業試驗品ノ賣捌キ充分ナラサリシニ由リ五萬八千貳百圓餘、又諸證書印紙類製造利益ヲ(大藏省所管紙幣局)へ移シ其他種々ノ事項ニ由リ六萬八千三百圓餘、併セテ拾貳萬六千六百圓餘ヲ減少スルト雖モ各廳不用物品拂代等八拾萬七千五百圓餘、贖贖金拾貳萬七千五百圓餘、蠶種原紙賣下代六萬八千六百圓餘、併セテ百萬三千七百圓餘ヲ増加セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記ノ超過ヲ生スルナリ



又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ百貳拾八萬三千八百六拾三圓八拾三錢壹厘ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ前年度ニ限リ納入セシ千島樺太交換ニ付魯國政府ヨリ領收セシモノ、如キ本  
 期ニ於テ此收額無キニ由リ七萬四千六百圓餘、開拓使附屬船運賃及ヒ地所不用物品拂代等六萬  
 九千五百圓餘、併セテ拾四萬四千四百圓餘ヲ減少スル雖トモ前年度ニ於テ(諸拜借料其外)ハ編入  
 アリシ準備金ニ屬スル各種ノ雜入及ヒ(官地官舎木石等諸拂物代)ハ編入アリシ各廳不用物品拂  
 代ヲ該部へ移セシニ由リ百三拾三萬三千九百圓餘、蠶種原紙賣下代五萬六千六百圓餘、米國博覽會  
 出品ノ内該事務局ニテ購求ノ諸品賣却代其他種々ノ事項ニ由リ四萬三千四百圓餘、併セテ百四  
 拾貳萬八千圓餘ヲ増加セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記ノ超過ヲ生スルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

(△印ハ朱書)

科	目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額	豫 算 額	決 算 額	豫 算 額	決 算 額	豫 算 額	決 算 額	豫 算 額	決 算 額	豫 算 額
蠶種原紙賣下代	蠶種原紙賣下代	一四八、六四五	一四八、六四五	〇〇〇	〇〇〇	六八、六四五	六八、六四五	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
	蠶種原紙賣下代	三〇、五五六	三〇、五五六	〇〇〇	〇〇〇	一九、一〇〇	一九、一〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
書籍發賣代	書籍發賣代	八、四六四	八、四六四	〇〇〇	〇〇〇	五、二三四	五、二三四	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
	書籍發賣代	八、四六四	八、四六四	〇〇〇	〇〇〇	五、二三四	五、二三四	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
徵兵代人料	徵兵代人料	四、五〇〇	四、五〇〇	〇〇〇	〇〇〇	四、一八六	四、一八六	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
	徵兵代人料	四、五〇〇	四、五〇〇	〇〇〇	〇〇〇	四、一八六	四、一八六	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
不用物品拂代	不用物品拂代	四、五〇〇	四、五〇〇	〇〇〇	〇〇〇	四、一八六	四、一八六	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
	不用物品拂代	四、五〇〇	四、五〇〇	〇〇〇	〇〇〇	四、一八六	四、一八六	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
準備金ノ益	準備金ノ益	二、四七五	二、四七五	〇〇〇	〇〇〇	七、〇五一	七、〇五一	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
	準備金ノ益	二、四七五	二、四七五	〇〇〇	〇〇〇	七、〇五一	七、〇五一	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
贖 贖 金	贖 贖 金	一、二七五	一、二七五	〇〇〇	〇〇〇	一、二七五	一、二七五	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
	贖 贖 金	一、二七五	一、二七五	〇〇〇	〇〇〇	一、二七五	一、二七五	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
雜 入	雜 入	八、四九三	八、四九三	〇〇〇	〇〇〇	三、一五八	三、一五八	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
	雜 入	八、四九三	八、四九三	〇〇〇	〇〇〇	三、一五八	三、一五八	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
通 計	通 計	一、九〇三、九五七	一、九〇三、九五七	五五三	五五三	一、〇〇六、八四九	一、〇〇六、八四九	〇〇〇	〇〇〇	八七、七〇八	八七、七〇八	五五三	五五三

(諸貸出金返納) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ九萬三千九百拾貳圓四拾五錢六厘ヲ減少セ

此減少セシ所以ハ從前各廳於テ營テ貸與セシ金額ノ逐次整理ニ隨ヒ更ニ貸付ノ處分ヲ爲シ又ハ  
 事故アリテ還納ノ規約未定ナリシモノ、處分ヲ決セシ等種々ノ事項ニ由リ四萬四千六百圓餘ヲ  
 増加スルト雖モ負債主死亡跡相續人幼稚又ハ赤貧ニシテ屢災害ヲ累テ累日ノ規約ヲ遂フ能ハサ  
 ル等種々ノ情願ニ由リ延期ヲ聽許シ其餘負債主死亡絶家ニ由テ棄捐又ハ身代限等ニ由リ拾三萬  
 八千六百圓餘ヲ減少セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記ノ減少ヲ生スルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ百五拾萬六千七百八拾九圓三拾貳錢壹厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ救助等ノ爲メ貸出金ノ増セシニ由リ拾三萬五千五百圓餘ヲ増加スルト雖モ本  
 期豫算表例言第七項ニ略述セシ如ク準備金ノ運轉通融ニ屬スルモノハ歳入出ノ本部ヨリ除算セ  
 ニ由リ百六拾三萬八千三百圓餘ヲ減少セシニ由ルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

(△印ハ朱書)

科	目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額	豫 算 額	決 算 額	豫 算 額
救助貸出返納	救助貸出返納	六、五六〇	六、五六〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
	救助貸出返納	六、五六〇	六、五六〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
勸業貸出返納	勸業貸出返納	四、一九三	四、一九三	〇	〇	〇	〇
	勸業貸出返納	四、一九三	四、一九三	〇	〇	〇	〇
通 計	通 計	六、九七三	六、九七三	五五四	五五四	七九、九一〇	七九、九一〇

(右高貸下返納) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ四千五拾九圓六拾五錢四厘ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ負債主ノ逃亡等ニテ棄捐又ハ身代限其餘延期ヲ聽許セシ等ニ由リ壹萬七千貳



百圓餘ヲ減少スルト雖モ管テ前年度ニ於テ延期ヲ許可シ之ヲ本年度へ收納セシモノ貳萬千三百圓餘ヲ増加セシニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ貳萬千八百貳拾八圓七錢七厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ各其年賦ノ期約ヲ逐ヒ前年度ニ於テ債額ヲ還了スルト又本年度ニ於テ棄捐年延等ノ處分ヲ爲セシモノアルトニ由ルナリ

(舊藩々貸付返納) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ拾九萬貳千八百拾五圓三錢八厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ從前舊藩々ニ於テ既ニ貸付セシ金額ノ漸次之カ整理ヲ爲シ又ハ負債主絶家ノ故ヲ以テ棄捐セシ等ニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ壹萬六千貳百五拾八圓七錢ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ年賦ノ期約ヲ逐ヒ前年度ニ於テ債額ヲ還了セシモノアルニ由ルナリ

(港灣碇泊税)

該税ハ明治八年十一月第十六拾三號公布ヲ以テ當分停止セシニ由リ本年度ニ於テハ收額無シ

(秋田鑛山)

該部ハ前年度ニ於テハ別款ニ掲クト雖モ本期ニ至リ工部省所管鑛山へ併算セシヲ以テ茲ニ收入ノ員額無シ

(東京府下練石建築)

該部ハ準備金中一時貸ニ屬スルモノニシテ本年度豫算表例言第七項ニ略述スルカ如ク本期以降本表入出ノ款中ヲ除算セシモノナリ

第二 歳出ノ決算

明治九年年度歳出豫算ノ總計ハ六千貳百九拾九萬三千八百四拾七圓ニシテ其決算ノ總計ハ五千九百三拾萬八千九百五拾六圓四拾六錢八厘ナリ此總計ヲ以テ豫算ニ比スレハ其減少スルコト三百六拾八萬四千八百九拾圓五拾三錢貳厘ナリ

又歳出決算ノ總計ヲ以テ前年度決算ノ總計六千九百貳拾萬三千貳百四拾貳圓四拾錢三厘ニ比スレハ其減少スルコト九百八拾九萬四千貳百八拾五圓九拾三錢五厘ナリ

歳出ノ決算ヲ各科目ニ區分シ其豫算及ヒ前年度決算トニ比較シ以テ其増減ヲ示ス左表ノ如シ

第二表

自明治九年七月會計年度歳出豫算決算増減比較表

(△印ハ赤字)

科 目	決算額	豫算額	八年度決算額	本期決算ノ増減	
				豫算ニ比シ	八年度決算ニ比シ
内國債	元 金	一、九三三、四八二、四六九	一、九〇三、六六七、〇〇〇	△三〇、〇一五、四六九	△二、八一四、四六九
利子	一、九三三、四八二、四六九	一、九〇三、六六七、〇〇〇	一、九〇三、六六七、〇〇〇	△二、八一四、四六九	△一、八七五、五〇〇
計	三、〇九三、二〇七、六〇九	三、七三六、八一、九〇〇	二、七六一、〇五八、四六八	△六四三、六一、三九一	△三三、二、四九一
元 金	七、七三九、二〇〇、八	七、五六一、八〇〇、〇	七、四八三、九四〇、九	△七、七三三、〇〇八	△三、五一七、九九九
外國債	利子口	一、〇八三、六七七、五三〇	一、〇五八、四四八、〇〇〇	△二五、二二九、五三〇	△二、一七二、七五五
雜費共	一、八五七、五八八、五三三	一、八四六、二八〇、〇〇〇	一、八四四、二四三、二九四	△一、九六一、五三八	△二、六六五、三七六
計	一、八五七、五八八、五三三	一、八四六、二八〇、〇〇〇	一、八四四、二四三、二九四	△一、九六一、五三八	△二、六六五、三七六
皇室及皇族	八、二七五、〇〇〇、〇	八、二七五、〇〇〇、〇	〇	〇	八、二七五、〇〇〇、〇
賞典竝家祿	一、七六六、六五二、四九九〇	一、七五七、四四三、〇〇〇	一、七六五、八二七、五六〇	△九、二〇九、四九〇	△四、一五五、三九〇
社 寺 祿	一、一〇三、三三〇、五五四	一、八七九、二四〇、〇〇〇	一、二二、六九四、六六八	△六七、五九二、九四六	△一、三六二、四一四







合 計 五九三〇八、九五六、四六二、九九三、八四七、〇〇〇、九〇三、七四三、四〇三、  
 三、六八四、八八〇、五三三、  
 九、八九四、二八五、三五

茲ニ各科目ニ就キ豫算及ヒ前年度決算ニ比シ増減アル事由ヲ説明スル左ノ如シ  
 (内國債) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ六拾四萬二千六百拾壹圓三拾九錢壹厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ舊藩々負債高漸次整理ニ因テ新舊公債ノ元利及ヒ金札引換公債ノ元金拂出ヲ  
 増セシヲ以テ三萬七千二百圓餘、理財上ノ都合ニ由リ新公債及ヒ秩祿公債抽籤ノ高ヲ削減セシ  
 ニ由リ之ニ係ル利子壹萬六千圓餘、併セテ五萬三千三百圓餘ヲ増加スルト雖モ前述抽籤削減ノ  
 金額六拾八萬三千百圓餘、新公債ノ抽籤ハ十年二月ニ於テ施行スルヲ豫期セシニ九年八月ニ繰  
 上シテ以テ同年九月ヨリ十年二月ニ迄ル六箇月間ノ利子八千圓餘、秩祿公債ノ彙時奉還者へ下  
 付セシ證書高ノ内事故アリテ還付セシモノアル等ニ由リ利子五千八百圓餘、併セテ六拾九萬七  
 千圓餘ヲ減少セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記ノ減少ヲ生スルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ三拾三萬貳千四百拾九圓拾四錢壹厘ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ明治九年四月第五十號公布ヲ以テ新公債利子交付ノ期限改正ニ因リ前年度ニ在  
 テハ一箇年半分ヲ交付セシニ本年度ニ於テハ會計一周年間ノ高ヲ交付スルト逐年新公債ノ元金  
 ナ償還スルニ隨ヒ之カ利子ノ交付高ヲ減少セシトニ由リ貳拾八萬七千九百圓餘ヲ減少スルト雖  
 モ秩祿公債及ヒ金札引換公債償還ノ期約ニ遵ヒ本年度ニ於テ創メテ抽籤ヲ以テ之カ元金ヲ拂出  
 シ其餘新公債元金ノ拂出シヲ増シ又ハ一時現金渡ノ處分ヲ爲セシニ由リ五拾三萬六千七百圓  
 餘、秩祿公債ノ整理ニ因テ證書ノ増發行高ニ係ル利子又ハ明治八年八月第三百一十一號公布ヲ以テ  
 金札引換公債利子交付ノ期限ヲ改正セシニ由リ前年度ニ在テハ半歲分ノ交付高ナリシニ本年度  
 ニ於テハ全ク周歲ノ額ヲ給付セシヲ以テ八萬三千二百圓餘、併セテ六拾貳萬圓餘ヲ増加セシニ

由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記ノ超過ヲ生スルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

(△印ハ赤字)

科 目	決 算 額		豫 算 額		決 算 額 比 増 減	
	元 金	利 子	元 金	利 子	元 金	利 子
舊公債	三三、二五九、 八七三	四、一四一、 二六八	二八、五三七、 〇〇〇	五、二九七、 〇〇〇	△四、七二二、 八七三	△八、八四一、 二六八
新公債	四七、九二九、 一六五	八、九三三、 四三三	四六、五二九、 五〇〇	一〇、八三六、 五〇〇	△一、六〇〇、 三三三	△一、九〇三、 〇六七
換金公債引	一三、一六〇、 〇〇〇	一三、一六〇、 〇〇〇	一三、一六〇、 〇〇〇	一三、一六〇、 〇〇〇	〇	〇
秩祿公債	三九、九八五、 〇〇〇	三、六六六、 〇〇〇	九、〇〇〇、 〇〇〇	三、六六六、 〇〇〇	△三〇、九八五、 〇〇〇	△九、三三二、 〇〇〇
通 計	一、一六七、 七二六	一、一七四、 四五一	一、一八三、 五三二	一、一八〇、 三六七	△六、六四五、 四二五	△八、六六〇、 四六九
計	三〇、九三三、 三〇七	六〇九	三三、七三六、 八一五	〇〇〇	△六、八〇三、 五〇八	△三、九一

(外國債) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ四萬貳千九百六拾壹圓五拾三錢八厘ヲ超過セリ



此超過セシ所以ハ英貨一封度ヲ以テ我カ四圓八拾八錢ノ價格ニ積算セシニ實際ノ價格四圓九拾九錢貳厘餘ニ騰ルヲ以テ新公債ニ於テ貳萬四千七百圓餘、舊公債ニ於テ壹萬七千四百圓餘、其他廣告料竝諸手数料等七百圓餘ヲ増加セシニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ貳萬六千六百五拾三圓七拾五錢六厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ英貨交換ノ價格前期ヨリ昂騰セシニ由リ貳萬五千六百圓餘ヲ増加スルト雖モ逐年元金ヲ償還スルニ隨ヒ之カ利子五萬貳千貳百圓餘ヲ減少セシニ由ルナリ

又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

科 目	決 算 額		豫 算 額		決 算 下 比 増 減	
	元 金	利 子	元 金	利 子	元 金	利 子
舊 公 債	元 金	四九二、九八四	四八八、〇〇〇	〇〇〇	一一、二九八	〇七〇
	利 子	二六九、六〇〇	二六三、五三〇	〇〇〇	六、〇〇〇	九五八
新 公 債	元 金	七三三、一八四	七五五、二七八	〇〇〇	一七、九〇六	五三〇
	利 子	八〇四、一四	七八五、九〇〇	〇〇〇	一八、二四	五四八
通 計	元 金	一二二六、一六八	一二四三、二〇〇	〇〇〇	一六、六三二	九三八
	利 子	一、〇七三、九二二	一、〇五九、四三〇	〇〇〇	一四、四九二	五三二
計	雜 費 共 計	九、九四二	九、〇二八	〇〇〇	九、〇二八	〇二四
計	口 雜 費 共 計	一、八五七、五八九	一、八四六、二八	〇〇〇	一一、三〇九	五三八

(帝室及皇族) 此決算額ハ八拾貳萬七千五百圓ニシテ即チ豫算ノ金額ト増減無シ

該部ハ從前宮内省ノ經費中ニ編入アリヨリ本年度ヨリ別款ニ分裂セシニ由リ前年度ニ於テハ此費目支出ノ員額無シ

(賞典竝家祿) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ九萬九千百貳拾壹圓五拾九錢ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ除族ノ者收祿及ヒ終身祿ノ者死亡ニ由リ拾萬八千五百圓餘ヲ減少スルト雖モ金祿改定ノ石代豫定ノ價格ト差異ヲ生ズルニ由リ拾五萬貳千四百圓餘、事故アリテ祿高確定セサルモノアリヨリ本年度中ニ於テ之カ處分ヲ決シ追給セシモノ、五萬五千貳百圓餘、併セテ貳拾萬七千六百圓餘ヲ増加セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記ノ超過ヲ生ズルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ四萬五千五百五拾貳圓九拾七錢ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ明治九年六月京都府下仁和寺始メ貳拾八箇寺ノ秩祿ヲ廢シ爾後年々若干圓ヲ帝室ヨリ下賜スルノ制ニ改メシニ由リ三萬貳千圓餘、年限祿滿期又ハ除族ノ者收祿ニ由リ九千五百圓餘ヲ減少セシニ由ルナリ

(社寺祿) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ六萬七千五百九拾壹圓九拾四錢六厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ明治八年九大藏省乙第百拾九號達ヲ以テ舊來除地ノ稱アリト雖モ舊草高外ノ確證判然セサルモノハ一切給與セサルノ旨趣ニ據リ整理セシヲ以テ五萬四千五百圓餘、祿高未決ニ係ルモノハ其概額ノ幾分ヲ交付シ殘額ハ后期ノ整理ニ讓リシニ由リ壹萬三千圓餘ヲ減少セシニ由ルナリ



又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ千三百六拾貳圓四拾壹錢四厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ祿高ノ調査整理ニ隨ヒ増加スルモノアリト雖モ法規ニ據テ遞減額ノ多カリシ  
 ニ由ルナリ

(太政官) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ七萬千九拾七圓六拾壹錢壹厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ明治十年一月官制ノ改革等ニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ九萬六千七百九拾八圓九拾貳錢九厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ明治八年十月 第百八拾貳號公布ヲ以テ宮内省ノ所管ナリシ式部寮及ヒ同年九月  
 第百六拾七號公達ヲ以テ内務省ノ所管ナリシ地誌課ヲ該官ニ移セシニ由リ貳萬貳千八百圓餘ヲ  
 増加スルト雖モ同年九月 第百五十六號公達ヲ以テ該官ノ所管ナリシ元印書局ヲ大藏省ノ所管ニ移  
 セシニ由リ八千八百圓餘、從軍徽章並賞牌製造ニ係ル諸費八千五百圓餘、備外國人ノ減少セシニ  
 由リ三千八百圓餘、明治十年一月官制ノ改革其他種々ノ事項ニ由リ九萬八千三百圓餘、併セテ拾  
 壹萬九千六百圓餘ヲ減少セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記ノ減少ヲ生スルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

(△印ハ朱書)

科目	目	決算額	豫算額	決算ノ増減
俸給	給	二六八,九三四	一六八,〇〇〇	△一〇〇,九三四
	與	四〇,一五三	三九五,三三三	△三九五,三三三
旅費	費	一〇五,四四四	二六三,〇〇〇	△一五七,五五六
	費	八八,四〇〇	五,〇〇〇	△八三,四〇〇
營繕	費	一,九三七	一七,四四六	△一五,五〇九
	費	一,九三七	一七,四四六	△一五,五〇九
勳章製造費	費	一,九三七	一七,四四六	△一五,五〇九
	費	一,九三七	一七,四四六	△一五,五〇九
總計		四三三,九〇一	四九七,〇〇〇	△六三,〇九九

海外行諸費	備外國人諸費	雜費	通計
一四,四三三	一八,七九九	六六,一九二	四三三,九〇一
〇〇〇	九〇〇	〇〇七	三八九
一六,六六六	一,三三〇	八〇,七一九	四九七,〇〇〇
六六六	〇〇〇	九三六	〇〇〇
七,七五五	五三九	一四,五二七	七,〇九七
三三七	九〇〇	九〇九	六二一

(元老院) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ三萬貳千四百七拾四圓六拾四錢八厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ議官ノ關員アルヲ以テ貳萬三千四百圓餘、明治十年一月官制ノ改革ニ由リ九  
 千圓ヲ減少セシニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ三萬五千七百七十九錢七厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ前年度ニ於テハ本院ノ創立ニ際シ議事堂及ヒ倉庫ノ新築其餘一時支出ノ多カ  
 リシモ本年度ニ於テハ之ヲ要セザリシニ由リ貳萬二千三百圓餘、明治十年一月官制ノ改革其他種  
 種ノ事項ニ由リ壹萬三千八百圓餘ヲ減少セシニ由ルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

(△印ハ朱書)

科目	目	決算額	豫算額	決算ノ増減
俸給	給	二六,四〇三	〇七,八	△一七,三三六
	與	八〇,七一	三三〇	△二四九
旅費	費	三,四四七	一,五二二	△一,九二五
	費	三,三三〇	一,一〇〇	△二,二三〇
營繕	費	三,三三〇	一,一〇〇	△二,二三〇
	費	三,三三〇	一,一〇〇	△二,二三〇
備外國人諸費	費	二〇,八九一	一三,一〇〇	△七,七九一
	費	二〇,八九一	一三,一〇〇	△七,七九一
總計		三三,九四一	二六,〇〇〇	△七,九四一



雜	費	二一、三三二	二、九四	一〇、五〇三	〇〇〇	一、八四九	二、九四
通	計	一、四七、五二五	三、五三二	二〇、七〇〇	〇〇〇	三、三、四七四	六、四一八

(會議院)

該部ハ會期ニ際シ京都ハ

行幸加ルニ西南ノ事變等ニ因テ開院セカリシニ由リ決算ノ員額無シ

(外務省) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ三萬千七百八拾七圓四拾錢七厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ在英全權公使特命使節トシテ西班牙、葡萄牙兩國ハ派遣ニ係ル諸費七千三百

圓餘ヲ増加スルト雖モ明治十年一月官制ノ改革ニ由リ壹萬六千五百圓餘、海外行諸費ノ寡キト

其他種々ノ事項ニ由リ貳萬貳千五百圓餘、併テ三萬九千九百圓餘ヲ減少セシニ由リ之カ増減ヲ對

計スレハ前記ノ減少ヲ生スルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ壹萬六千五百圓七拾四錢壹厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ外務卿官舎建築費前期ヨリ多カリシニ由リ壹萬四千七百圓餘、西班牙、葡萄牙

兩國ハ特命使節派遣ノ諸費七千三百圓餘、併セテ貳萬貳千五百圓餘ヲ増加スルト雖モ前年度ニ於

テ一時支出ヲ要セシ延送館備付器具ノ代價本年度ニ於テ之ヲ要セカリシニ由リ六千四百圓餘、

備外國人ノ解約ニ由リ六千三百圓餘、海外使節等ノ接遇寡シ其他種々ノ事項ニ由リ貳萬圓餘、併

セテ三萬貳千七百圓餘ヲ減少セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記ノ減少ヲ生スルナリ

又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

(△印ハ赤字)

俸	給	六、四〇七	六、六六六	八〇、六七〇	〇〇〇	△一、六、五九三	三、三、三三〇
給	與	二〇、二五八	〇、八八	一五、四三〇	〇〇〇	四、八〇八	〇、八八
旅	費	二七、〇五	九、五〇	六、三〇〇	〇〇〇	△三、五九四	〇、五〇
營	繕	三三、一〇九	一、六七	三〇、九五〇	〇〇〇	二、二五九	一、六七
海	外	七、九六四	四、八二	六、〇〇〇	〇〇〇	一、九六四	四、八二
備	外	八、八三六	三、九一	一五、九三〇	〇〇〇	七、〇九三	六、〇九
雜	費	一六、八六三	八、四九	三〇、三〇〇	〇〇〇	一、三、四三六	一、五二
通	計	一、五三、八二二	五、九三	一、八五、六〇〇	〇〇〇	三、一、七八七	四、〇七

(内務省)

此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ七拾貳萬千八百拾七圓八拾三錢六厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ明治十年一月教部省ヲ廢セラレ更ニ社寺局ヲ設置セシニ由リ壹萬圓、西南ノ

騷擾ニ際シ飛信遞送ヲ要セシニ由リ之ニ係ル諸費其他種々ノ事項ニ由リ壹萬五千圓餘、併セテ

貳萬五千圓餘ヲ増加スルト雖モ明治十年一月官制ノ改革ニ由リ三拾壹萬九千七百圓餘、第一第

二綿絲紡績所ノ起業ヲ後期ニ讓リ又ハ勸業ニ係ル事業ノ緩急ヲ參査シ曩日ノ用途ヲ轉セシニ由

リ貳拾五萬七千九百圓餘、諸營繕其餘一般ノ諸費ヲ節縮セシニ由リ拾三萬五千六百圓餘、明治十

年一月東京府下内山下町試驗所ヲ工部省ノ所管ニ轉セシニ由リ貳萬八千五百圓餘、同年一月地

租改正局ハ出仕兼務ノ者該局專補ノ命アリシニ由リ之カ俸給ヲ同局於テ給付スルヲ以テ五千

圓餘、併セテ七拾四萬六千八百圓餘ヲ減少セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記ノ減少ヲ生ス

ルナリ



又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ六拾萬五千八百三拾九圓拾四錢三厘ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ前年度ニ於テ一時支出ヲ要セシ本省火災ニ付假屬營繕、器械書籍ノ購求及ヒ  
 文書整理ニ係ル諸費又ハ上野公園地修繕費、澳國博覽會ヨリ歸航ノ際沈没船荷物引揚費等本年  
 度ニ於テハ之ヲ要セサリシニヨリ七萬七千四百圓餘、明治八年九月該省所屬地誌課ヲ太政官ノ  
 管理ニ移シ同年一月東京府下内山下町試驗所ヲ工部省ノ所管ニ轉シ同年一月土木局大坂分局  
 ヲ廢セシニ由リ貳萬八千五百圓餘、廳舎建築費前期ヨリ多カリシニ由リ壹萬貳百圓餘、地租改正  
 局へ出仕兼務ノ者該局へ專補ノ命アリシニ由リ五千圓餘、同年一月官制ノ改革其他種々ノ事項ニ  
 由リ六萬五千四百圓餘、併セテ拾八萬六千七百圓餘ヲ減少スルト雖モ千住製絨所創設ニ係ル諸  
 費及ヒ下總牧羊場ノ事業ヲ擴張スル等ニ由リ五拾壹萬千五百圓餘、郵便遞送ノ年々逐テ増加ス  
 ルト西南ノ騷擾ニ際シ信書ノ配達陸路運送ノ多キ等ニ由リ八萬六千八百圓餘、三菱會社助成金  
 及ヒ商法學校補助金ノ如キ前年度ニ在テハ半途ニ興リシヲ以テ其若干圓ヲ給付セシニ本年度ニ  
 至リ全ク周年ノ額ヲ給付セシニ由リ六萬八千七百圓餘、山林ノ事業ヲ擴張セシニ由リ五萬百圓  
 餘、明治九年八月小笠原島出張所ヲ設置シ及ヒ琉球藩出張所ノ諸費ヲ増加セシニ由リ三萬貳千  
 五百圓餘、同十年一月第七號公布ヲ以テ賣藥規則ヲ施行セシニ由リ之ニ係ル諸費壹萬七千六百圓  
 餘、同九年八月内務省甲第三十二號達ヲ以テ橫濱司藥場ヲ設置セシニ由リ壹萬五千貳百圓餘、前述  
 社寺局設置ニ由リ壹萬圓、併セテ七拾九萬貳千六百圓餘ヲ増加セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレ  
 ハ前記ノ超過ヲ生スルナリ

(△印ハ朱書)

科	目	決算額	豫算額	決算ノ増減
給	與	170,118	184,749	△14,630
旅	費	106,730	118,610	△11,880
農業	試驗費	39,008	58,744	△19,736
工業	試驗費	187,997	307,333	△119,335
商業	試驗費	57,411	88,422	△31,011
郵便	費	62,766	50,118	△12,648
山林	費	57,799	41,449	△16,350
三菱會社	助成金	25,000	0	△25,000
營繕	費	318,046	392,237	△74,191
生徒	費	177,077	92,150	△84,927
海外	諸費	41,691	44,196	△2,505
備外國人	諸費	156,519	180,096	△23,577
雜費	計	190,489	284,773	△94,284
通計	右通計ノ金額ヲ以テ諸局ノ區分ヲ示ス左ノ如シ	2,977,999	3,699,812	△721,812

科	目	決算額	豫算額	決算ノ増減
給	與	170,118	184,749	△14,630
旅	費	106,730	118,610	△11,880
農業	試驗費	39,008	58,744	△19,736
工業	試驗費	187,997	307,333	△119,335
商業	試驗費	57,411	88,422	△31,011
郵便	費	62,766	50,118	△12,648
山林	費	57,799	41,449	△16,350
三菱會社	助成金	25,000	0	△25,000
營繕	費	318,046	392,237	△74,191
生徒	費	177,077	92,150	△84,927
海外	諸費	41,691	44,196	△2,505
備外國人	諸費	156,519	180,096	△23,577
雜費	計	190,489	284,773	△94,284
通計	右通計ノ金額ヲ以テ諸局ノ區分ヲ示ス左ノ如シ	2,977,999	3,699,812	△721,812
本	省	2,517,181	3,140,854	△623,673
勸	農	1,013,033	1,444,002	△430,969
勸	商	85,213	141,150	△55,937
釋	遞	1,077,420	1,510,966	△433,546



地 理 局	二六三、六七八	八七、四	三〇二、四〇〇	〇〇〇	△	三八、七二二	一一六
土 木 局	七五、二〇八	〇九、六	九九、一三〇	〇〇〇	△	三三、九二二	九〇、四
衛 生 局	一七、七五五	五、一	九五、七四〇	〇〇〇	△	三三、〇一五	五、二
博 物 局	五、一三三	六、六九	五八、五八〇	〇〇〇	△	七、二五五	三三、七
米國博覽會事務局	九、三三三	八、八一	八、一六〇	〇〇〇	△	一、一六三	八、八一
琉球藩出張所	一、三七九	二、四〇	三九、五〇〇	〇〇〇	△	二、五七一	七、六〇
小笠原島出張所	一、九〇九	〇〇〇	一、九二〇	〇〇〇	△	一一〇	〇〇〇
通 計	二、九七、七、九五四	一、六、四	三、六九、九、八二二	〇〇〇	△	七二、八、一七	八三、六

(大藏省) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ貳拾三萬八千貳百八圓六拾三錢五厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ内外人民ノ日ヲ逐テ硫酸ヲ需求スルモノ、夥多ナルト金銀地金ノ精製ヲ要ス  
 ルモノ、多キヲ以テ之カ製造ノ諸費五萬九千六百圓餘ヲ増加スルト雖モ明治十年一月官制ノ改  
 革又ハ省中全般ノ諸費ヲ節縮セシニ由リ拾八萬貳千九百圓餘、訴訟用野紙、證券印紙、烟草印紙、  
 生糸印紙等ノ製造ヲ減セシニ由リ之ニ係ル 諸費七萬五千五百圓餘、明治十年一月地租改正局へ出  
 仕兼務ノ者同局出仕專補ノ命アルヲ以テ同月以降ノ俸給同局於テ給付セシニ由リ壹萬貳千六百  
 圓餘、尺度製造ノ器械購求ヲ止メ其他種々ノ事項ニ由リ三萬七百圓餘、併セテ貳拾九萬七千八百  
 圓餘ヲ減少セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記ノ減少ヲ生スルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ七萬四千九百九拾九圓八拾壹錢壹厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ訴訟用野紙、煙草印紙製造費ノ如キ前年度ニ於テハ創施ニ際シ一時製造ノ多

カリシニ由リ三萬貳千四百圓餘、明治十年一月地租改正局へ出仕兼務ノ吏員同局出仕專補ノ命  
 アルヲ以テ同月以降ノ俸給壹萬貳千六百圓餘、同十年一月官制ノ改革其他種々ノ事項ニ由リ貳  
 萬九千九百圓餘ヲ減少セシニ由ルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ (△印ハ朱書)

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 比 増 減
體 給	五、四八、三三七	四、七七一	△ 一、四一、八四八
給 與	一、七九、七八七	七、四四〇	△ 五、六四二
旅 費	二、三三八	三、八五四	△ 一、四一七
印紙類製造費	一一、四七六	一、六三三	△ 九、八四三
印刷器械購求費	八、〇二五	七、三三	△ 七、六九二
營 繕 費	三、〇四九	九、五三	△ 六、四八二
海外行諸費	六、三六八	九、七〇	△ 三、三三二
海外留學費	一、三三〇	〇〇〇	△ 一、三三〇
備外國人諸費	七、七四五	一、三三八	△ 六、三六六
雜 費	三、〇三三	六、二七	△ 三、二四四
通 計	一、五六、〇三九	三、六六五	△ 二、一〇六
右通計ノ金額ヲ以テ諸局ノ區分ヲ示ス左ノ如シ	一、七九、九八〇	〇〇〇	△ 一、七九、九八〇
本 省	三、〇〇、二四四	一、九一五	△ 一、〇八五







通計	本 省	本 州	近 衛	軍 備	砲 兵	工 兵	諸 學 校	教 導 院	本 病 院	裁 判 所	軍 馬 局	病 馬 廐
六九〇四八二八	一三〇八二八八	一〇九五三三六	三九八四四六	二六七四一六八	六三〇八六六	一〇一〇六九七	二二五六四七	二七三六九一	九八四二一	一八五七五	九七三〇六	一九二二二
九九一	二四〇	三三三	七三二	六六七	三三八	六四九	五三七	七〇八	七八九	二六四	六三一	二〇四
七二五〇〇〇〇	一四二七五八八	一三三二七〇	四五一八四八	三、四六一六六一	四〇〇〇〇〇	四四三六〇一	三〇七二〇〇	二九八八〇〇	二六七六〇	二五九〇八	二八、三六〇	二五、五八四
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
△ 三、四五一七、一〇九	△ 七、九三七、九	△ 二、三二、七三	△ 五、三三、四〇一	△ 七、八七、四九二	△ 二、〇八、六六	△ 五、六七、〇九六	△ 八、一五、五二	△ 二、五、〇八	△ 一、八三、四八	△ 七、三三、二	△ 四、一〇、五三	△ 六、二、九一
〇〇九	七六〇	六四七	二六九	三三三	三二八	六四九	四七三	二九二	二二一	七三六	三六九	七六六

右通計ノ金額ヲ以テ諸局ノ區分ヲ示ス左ノ如シ

通計 六九〇四八二八 九九一 七二五〇〇〇〇 〇〇〇 △ 三、四五一七、一〇九 〇〇九

(海軍省) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ拾貳萬四千七百貳圓貳拾七錢九厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ西南ノ事變ニ際シ賊徒出征ノ艦船航海ノ多キカ爲メ通常航海ノ進ナシノカ要  
 需ノ器具ハ勿論石炭ノ購求艦船ノ修繕其他諸雜費ニ至ルマテ概シテ賊徒征討費ヨリ之ヲ辨給セ  
 シモノ、多カリシニ由ルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ五拾九萬九千五百拾四圓五拾五錢三厘ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ前年度ニ於テ一時支出ヲ要セシ龍驤外二艦蒸氣罐代四萬千八百圓餘、橫須賀  
 造船所電信新架ノ諸費五千九百圓餘ハ、本年度ニ於テ之ヲ要セサリシニ由リ悉皆減少シ清輝、迅  
 鯨兩艦新造ノ諸費前期ヨリ少カリシニ由リ壹萬九千五百圓餘、西南ノ事變ニ會シ通常航海ノ費  
 用少シ其他種々ノ事項ニ由リ九萬七千貳百圓餘併セテ拾六萬四千五百圓餘ヲ減少スルト雖モ英  
 國ヨリ甲鐵艦購求代價ノ内本年度ニ於テ支出ヲ要セシモ、七拾四萬九千三百圓餘、龍驤外二艦  
 蒸氣罐代價壹萬四千三百圓餘、併セテ七拾六萬三千六百圓餘ヲ増加セシニ由リ之ヲ増減ヲ對計  
 スレハ前記ノ超過ヲ生スルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ  
 (△印ハ未費)

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 ノ 増 減
文 官 俸 給	一七、七六、六	一八、三、一八、一	△ 一、〇、四、七
武 官 俸 給	二、五、四、二七	二、七、九、七、三	△ 二、五、四、四
給 與	二、七、八、七〇	二、九、七、五、八三	△ 一、〇、七、一三



旅費	五八、五九九	二、二五	五五、五八四	〇、六〇	三〇、一五	〇、六五
兵器費	一八、六四九	〇、五五	一八、〇四八	一、六二	六、八二九	一、〇七
彈藥費	三三、二二五	四、二二	六、六一一	五、八〇	一、六四六	八、四二
水兵諸費	三三、三九四	〇、〇〇	二、八〇〇	四、八六	三、五九〇	五、三四
艦船製造費	一〇、二九一、七三	一、四一	一、九七〇、四八	〇、〇〇	一、六七、八七五	八、五九
艦船修繕費	三三、七六七	二、五六	一、五三六、四三	四、〇九	一〇、一三三	八、四七
造船所機械費	二七、五九五	八、二四	四、〇〇〇	〇、〇〇	一、二四〇、四	一、七六
石炭購求費	五〇、四二六	八、四二	六、七七八	一、五〇	一、七三、五	三、〇八
檻獄費	四、七八七	四、二四	五、二五二	〇、〇〇	四、六	五、七六
營繕費	二二、三三九	五、六〇	二〇、三九九	三、八三	九、三三〇	一、七七
生徒費	四、八四九	八、七二	四、七八七	六、五	三、〇三七	七、七九
海外行諸費	三〇、二六	四、四〇	一、三〇〇	〇、〇〇	八、九七三	五、六〇
海外留學費	四、一三三	七、七四	四、三三〇	〇、〇〇	一、三六六	三、二六
備外國人諸費	一、二六六、四七	四、四二	三〇、一五九	八、三九	三、六二	三、九七
雜費	三、六〇〇、八	五、一六	三、五七、四八五	〇、九九	一、一五三	四、一七
通計	三、四三、九九七	七、二	三、四、九、〇〇	〇、〇〇	一、四、七、〇	二、七九
右通計ノ金額ヲ以テ諸局ノ區分ヲ示ス左ノ如キ						
本省	一、四、五〇、三二八	九、〇二	一、六、〇、七、七五	九、五八	一、六〇、四、四	〇、五八
軍務局	一、五九、〇、四八	二、七	一、六、二、四、二二	二、八五	三、三、七三	〇、四

主船局	四七、〇、二八八	三、〇三	四一、三、〇〇〇	〇、〇〇	五、七、二、八八	三、〇三
水路局	四、九、五、三三九	七、四七	五、一、八、五〇	〇、〇〇	三、三、一〇	三、五三
醫務局	六、九、九、七一	〇、〇二	九、一、七、五	〇、〇〇	三、三、一〇、三	九、九八
兵器局	一、五、八、八、四	五、〇七	一、八、八、七、六九	〇、〇〇	二、九、九、五、四	四、九三
東海鎮守府	五、五、〇、一六	六、五二	八、一、三、〇〇	〇、〇〇	二、六、二、八三	三、四九
裁判所	二、四、二、六三	六、四〇	三、五、六、〇〇	〇、〇〇	一、三、三、六	三、六〇
兵學校	一、六、一、六、〇	一、三八	一、九、三、八、一七	〇、〇〇	三、一、一、五六	八、六二
横須賀造船所	二、七、三、七、一	四、四八	一、七、九、二、二	〇、〇〇	九、四、〇、七九	四、四八
長崎出張所	七、六、七、四	七、五九	一、八、五、〇〇	〇、〇〇	一、〇、八、二、五	二、四一
唐津石炭用所	三〇、五、一、九	〇、〇〇	三、八、四、〇〇	〇、〇〇	七、八、八〇	九、八〇
兵庫用所	一、七、四、三	八、八八	一、五、六、〇	〇、〇〇	一、八、八	八、八八
浦賀屯集所	一、四、六、〇三	七、七	二、四、〇、〇〇	〇、〇〇	六、三	七、七二
鹿兒島製造所	三、三、五、六三	四、六〇	三、四、一、〇〇	〇、〇〇	五、三、六	五、四〇
七尾造船所	三、五、六	七、五七	三、五、六	七、五七	〇	〇
各船	四、五、五、二、四三	四、五、六	四、三、三、七、九三	〇、〇〇	二、一、四、五〇	四、五、六
通計	三、四、二、四、九九七	七、二	三、四、四、九、七〇〇	〇、〇〇	一、四、七、〇	二、七九

(文部省) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ九千四百八拾八圓九拾九錢四厘ヲ減少セリ  
此減少セシ所以ハ諸學校補助金トシテ貳萬貳千四百圓餘ヲ増加スルト雖モ明治十年一月官制ノ



改革其他種々ノ事項ニ由リ三萬千九百圓餘ヲ減少セシムルナリ。  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ四萬八千貳百圓八拾四錢八厘ヲ減少セリ。  
 此減少セシムル所以ハ府縣公立師範學校補助金貳萬八百圓餘、本省新營費前期ヨリ多カリシニ由リ  
 壹萬五千圓、併セテ三萬五千八百圓餘ヲ增加スルト雖モ、愛知英語學校外八校ヲ廢シ其他直轄諸  
 學校補助金ヲ削減シ又ハ明治十年一月官制ノ改革其他種々ノ事項ニ由リ八萬四千圓餘ヲ減少セ  
 シニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前期ノ減少ヲ生スルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

(△印ハ赤字)

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 比 豫 算 額 増 減
俸 給	二〇〇三八六	二二五〇五〇	△二四六六四
旅 費	五七、七九〇	六四、二二三	△六、四三三
營 繕 費	六〇、二九〇	七〇、七九一	△一〇、五〇一
府縣公立師範學校補助金	一五三、九五五	一六、〇〇九	△一三七、九四六
府縣小學校補助金	二〇、八三三	〇	△二〇、八三三
生徒 費	七〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	〇
海外行諸費	九二、〇六八	一三三、〇五九	△三九、九九一
海外留學費	一七、五二〇	一七、五一九	〇
備外國人諸費	三、一九三九	三、三三六	△一、四四七
計	一、九六、〇九七	二、六、四四八	△一、〇、三五〇

右通計ノ金額ヲ以テ本省諸學校ノ區分ヲ示ス左ノ如シ

通 計	雜 費	本 省	諸 學 校	府 縣 學 校 補 助 金	通 計
一、六九五三	三二八七〇六	二九六六二	六七四八四	七〇、八三三	一、六九五三
〇〇六	三五五	九七二	七〇一	三三三	〇〇六
一、七〇四、八〇〇	一九三、〇八三	三〇、二七一	七〇、二一八	七〇、〇〇〇	一、七〇四、八〇〇
〇〇〇	六二八	七七八	三三三	〇〇〇	〇〇〇
九、四八八	二五、六三二	三、〇〇八	二七、三三三	二〇、八三三	九、四八八
九、九四四	七三七	八〇六	五二二	三三三	九、九四四

(教部省) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ貳萬六千拾圓七拾八錢壹厘ヲ減少セリ。  
 此減少セシムル所以ハ明治十年一月第四號公布ヲ以テ該省ヲ廢セラレ其實費ハ七月十年一月ヨリ間  
 ニ止ルニ由ルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ貳萬三千六百九拾九圓拾三錢七厘ヲ減少セリ  
 此減少セシムル所以ハ前述ノ事由ニ同シ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

(△印ハ赤字)

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 比 豫 算 額 増 減
俸 給	三、〇七二	五、八五二	△二、七八〇
旅 費	七、五五二	四、五三〇	△三、〇二二
營 繕 費	五、六〇六	四、四四〇	△一、一六六
計	一、七七八	一、四九〇	△二、七八八



雜	費	計	通
二五九	一四七	四〇六	二五三
四六九	二二九	七三〇	二六〇
		〇〇〇	七八一

(工部省) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ五拾五萬六千七百四圓五拾壹錢七厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ明治十年一月官制ノ改革其餘鑛山、鐵道、燈臺、電信、工作ノ事業等各變遷盈縮  
 アリテ畢竟此減少ヲ生セシナリ茲ニ各事業ニ就テ之ヲ略陳セハ  
 鑛山ノ事業ハ阿仁、院內鑛山ニ於テ坑夫飯米代等豫算ノ際編入アリシニ實際ニ至リ之ヲ準備金  
 ヨリ辨給セシニ由リ四萬九百圓餘、歲入(工部省所管鑛山)ノ部ニ略述スルカ如ク該山所屬八森  
 及ヒ川口鑛山ヲ廢シ荒川鑛山ヲ民坑ト爲シ其餘出鑛ノ算カリシ等減スルモノ、多カリシニ由リ  
 六萬貳千三百圓餘、小坂鑛山ハ該山所屬十和田鑛山ヲ廢シ尋テ全山ヲ民坑トスルノ締約ヲ爲シ  
 事業ヲ減縮セシニ由リ五萬四千五百圓餘、大葛鑛山モ小坂鑛山ニ同シク貳萬六千六百圓餘、佐渡鑛山ハ  
 採鑛ノ事業嘗テ豫期セシ如ク運ヒ難キニ由リ貳萬九千三百圓餘、生野鑛山ハ採鑛ノ事業ヲ減縮  
 スルト銅坑ノ開鑿ヲ廢シトニ由リ三萬六千圓餘、三池鑛山ハ西南ノ事變ニ因リ一時停業セシ  
 ヲ以テ五萬九千九百圓餘、併セテ三拾萬貳千九百圓餘ヲ減少セリ  
 鐵道ノ事業ハ明治九年七月京都大坂間ノ線路開業ニ因リ運輸ニ係ル諸費貳萬六千圓餘ヲ增加シ  
 諸器械ノ購求ヲ減セシニ由リ四萬貳千九百圓餘ヲ減少セリ  
 燈臺ノ事業ハ貯蓄物品ノ購入ヲ節縮セシニ由リ四萬五千六百圓餘ヲ減少セリ  
 工作ノ事業ハ明治十年一月內務省ノ管掌タリシ東京府下内山下町試驗所ヲ本省ノ管理ニ歸セシ  
 ニ由リ壹萬五千六百圓餘ヲ增加セリ  
 右ノ外前述官制ノ改革其餘諸費ヲ節縮セシ等ニ由リ貳拾萬六千八百圓餘ヲ減少セリ

以上増減ヲ對計シテ前記ノ減少ヲ生スルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ貳拾八萬七千七百七拾圓七拾九錢九厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ前述ノ如ク明治十年一月官制ノ改革其餘各工業上ノ伸縮アリシニ由ル茲ニ各  
 事業ニ就テ之ヲ略述セハ  
 鑛山ノ事業ハ阿仁、院內鑛山ハ前年度ニ於テ一時支出ヲ要セシ該山所屬品小野組ヨリ購入代本  
 年度ニ於テ之ヲ要セサリシニ由リ拾六萬三千五百圓餘、小坂鑛山及ヒ大葛鑛山ヲ民坑トスル締  
 約ヲ爲セシニ由リ六萬六千五百圓餘、阿仁、院內兩山所屬八森鑛山及ヒ川口鑛山ヲ廢シ荒川、細  
 地鑛山ヲ民坑ト爲セシ等ニ由リ壹萬七千七百圓餘、併セテ貳拾四萬七千八百圓餘ヲ減少シ釜石  
 鑛山ニ於テ大ニ事業ヲ擴充シ諸器械ノ購入或ハ運搬車道ノ修築鑛爐建設其餘鑛物運漕ノ爲メ新  
 船製造等ニ係ル諸費貳拾五萬九千九百圓餘、三池鑛山モ逐年事業ヲ擴張セシニ由リ開鑿又ハ坑  
 路ノ修築等一般ノ諸費七萬九千九百圓餘、併セテ三拾三萬九千九百圓餘ヲ增加セリ  
 鐵道ノ事業ハ東京橫濱間六郷川鐵橋建設費前期ヨリ多カリシニ由リ八萬七千七百圓餘、京都大坂  
 間ノ開業ニ因リ運輸等ノ費途七萬四千九百圓餘、併セテ拾五萬六千六百圓餘ヲ增加シ該鐵道ノ  
 新築落成シ大坂神戸間ノ諸工事モ漸次整頓ニ隨ヒ之ニ係ル諸費四拾七萬三千三百圓餘、京都以東  
 線路測量ニ關スル費用本年度ニ於テハ之ヲ要セサリシニ由リ五萬六千六百圓餘、東京橫濱間ニ於テ  
 備外國人ノ減少スルト鐵道及ヒ瀨車修繕ノ算カリメントニ由リ三萬六千六百圓餘、併セテ五拾五萬  
 九千八百圓餘ヲ減少セリ  
 電信ノ事業ハ各地ノ電線年々逐テ増架セシヲ以テ之カ修繕ヲ要スルモノ、多キニ由リ拾三萬九  
 百圓餘、本年度ニ於テ新架ノ費用多カリシニ由リ五萬四千六百圓餘、併セテ拾八萬五千六百圓餘  
 ヲ増加セリ



工作ノ事業ハ兵庫分局ニ於テ事業ヲ減縮セシカ爲メ三萬四百圓餘、前年度ニ於テ一時支出ヲ要セシ品川硝子製造所買上代本年度ニ於テ之ヲ要セサリシニ由リ三萬圓、併セテ六萬四百圓餘ヲ減少シ品川分局工場建築及ヒ長崎分局修船所建築費前期ヨリ多カリシニ由リ八萬八千貳百圓餘、内務省ノ管掌ナリシ東京府下内山下町試驗所ヲ本省ノ管理ニ歸セシニ由リ壹萬五千六百圓餘、併セテ拾萬三千八百圓餘ヲ増加セリ

右ノ外明治十年一月官制ノ改革其餘種々ノ事項ニ由リ貳拾萬五千六百圓餘ヲ減少セリ以上増減ヲ對計シテ前記ノ減少ヲ生スルナリ

又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

(△印ハ赤字)

科目	決算額	豫算額	豫算ノ増減
俸給	三七一,七五〇	一八三,〇〇〇	△一五五,九八三
旅費	二六七,〇六三	二六二,六二五	△四,四三八
採鑛及製鑛費	六八,二五六	八三,四〇〇	△一五,一三四
鐵道新築費	一〇,五六三	一〇,五二六	△六三
鐵道運轉費	二七三,二〇七	三三三,〇七〇	△五九,八六三
鐵道運轉費	三五五,二八七	一八八,六三七	△一六六,六四九
電線新架修費	二六,八六八	三三,五二〇	△六,六五二
燈臺標新築修費	三〇,六六五	三〇,〇〇〇	△六六五
修船所建築費	一,八八八	三,八〇三	△一,九一五
修船所建築費	一,八八八	四,五三三	△二,六四五
修船所建築費	一,八八八	四,九二六	△三,〇三八

科目	決算額	豫算額	豫算ノ増減
工作費	二二三,六七四	二一九,〇〇〇	△四,六七四
貯蓄品購求費	九五,四七八	四三,九〇〇	△五一,五七八
生徒費	一九八,三九五	六二,二二二	△一三六,一三三
海外行諸費	四,〇二八	〇	△四,〇二八
備外國人諸費	五八,四三九	四九,九	△八,四四〇
雜費	三三,二五七	五九,二	△二六,〇〇五
通計	四三三,三九五	四八三,〇〇〇	△四九,六四五
右通計ノ金額ヲ以テ諸局ノ區分ヲ示ス左ノ如シ			
本省	一七〇,四四五	一六〇,〇〇〇	△一〇,四五五
鑛山局	一四二,二七七	一七九,七三六	△三七,四五九
鐵道局	一〇三,八二七	一,一四四,四三四	△一,〇四〇,六一一
燈臺局	二九,三四七	六〇,〇〇〇	△三〇,六五三
電信局	五七,九六三	一八,六〇〇	△三九,三六三
工作局	七八,二二八	七八,九六二	△七三四
營繕局	五五,九二八	八四,六四九	△二八,七二一
通計	四三三,三九五	四八三,〇〇〇	△四九,六四五



(司法省) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ三萬五千四百四拾圓六拾六錢ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ明治十年一月官制ノ改革等ニ由ルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ貳拾七萬三千九百五拾四圓四拾六錢ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ大審院及ヒ各裁判所管轄ノ費用寡カリシニ由リ五萬五千五百圓餘、糧倉ノ事  
 務ヲ内務省ノ所管ニ轉セシニ由リ四萬五千三百圓餘、明治十年一月官制ノ改革其他種々ノ事項  
 ニ由リ貳萬四千八百圓餘、併セテ拾貳萬五千七百圓餘ヲ減少スルト雖モ各裁判所ノ増置及ヒ所  
 在ノ位置ヲ更メシ等ニ由リ三拾九萬九千六百圓餘ヲ増加セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記  
 ノ超過ヲ生スルナリ

又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

(△印ハ朱書)

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 ノ 比 較
俸 給	七九八八一五	六五一	△一四六二
給 與	一三三二八六	一七九六三	△一四六三
旅 費	七九三〇七	七三三九八	△五九〇九
營 繕	一七五七九〇	一〇〇五五	△七五七三五
生 徒	一〇九五九	一〇七四四	△六八五
海 外 留 學 費	一三二七三	一三二七三	△
備 外 國 人 諸 費	四三八三九	九五七	△三九〇八
雜 費	一四〇一八七	二四八	△一三九四一
通 計	一三八五五五九	三三〇	△一三八五二二九

右通計ノ金額ヲ以テ諸局ノ區分ヲ示ス左ノ如シ

本 省	大 審 院	裁 判 所	通 計
二九〇五〇	五九二九	一〇九七〇三	一三八五五五九
五三〇	〇八七	七三三	三三〇
二四三二六	五九二八九	一一三六八八	一三八五五五九
一六九	四九五	三三六	〇〇〇
四六七九	一一九	三九八四九	△一三八五二二九
三六一	五九二	六二二	六六〇

(宮内省) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ貳萬五千三百六拾貳圓八拾錢七厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ明治十年一月官制ノ改革ニ由リ諸費ヲ節縮シ加ルニ大和竝京都  
 行幸 行啓ニ付 御駐蹕中ハ該費ノ支辨ニ出ルモノ、妙カラサリシニ由ルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ六拾四萬貳千五百七拾三圓八拾貳錢六厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ帝室及ヒ皇族費ハ本年度ヨリ區分メテ別款へ掲載スルヲ以テ六拾壹萬六千圓  
 餘、明治八年十月十二號公布ヲ以テ式部寮ヲ太政官ノ所轄ニ轉セシニ由リ貳萬五千九百  
 圓餘、其他種々ノ事項ニ由リ五百圓餘ヲ減少セシニ由ルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

(△印ハ朱書)

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 ノ 比 較
俸 給	二九三三三	七五〇	△二八五八三
給 與	四四六七五	八五六	△四三八一九
旅 費	一〇四〇五	三三七	△一〇〇六八
營 繕	二二三〇	四三七	△一七八六三
通 計	四四一七三	二二〇〇	△四三九五三



雜	費	一三七八一	八二三	一四九一四	〇〇〇	△	一三三三	一八七
通	計	二九〇、六三七	一九三	三六〇、〇〇〇	〇〇〇	△	二五七、六二二	八〇七

(開拓使) 此決算額ヲ以、其豫算額ニ比スレハ千七百九拾壹圓六拾錢五厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ該使ノ經費タル前年度決算報告書ニ申明スルカ如ク壹千萬圓ヲ以テ明治五年  
 以降十箇年間ノ定額又六拾八萬圓ヲ以テ同七年以降三箇年間屯田兵ノ費額ト爲シ其他該管下ヨ  
 リ徵收スル租稅及ヒ諸收入ハ一旦國庫ニ納入シ更ニ之ヲ交付スルノ例規ナリ而シテ歲入(北海  
 道物產稅)(船稅)ノ部ニ申明スルカ如ク該地方產出物品ノ増殖スルト新タニ五拾石積以下ノ船  
 稅ヲ徵收セシヲ以テ壹萬七千圓餘ヲ增加スルト雖モ該地方物產稅ノ內鹿角皮稅及ヒ氷專賣稅  
 ナ地方稅ニ移シ其他種々ノ事項ニ由リ壹萬八千九百圓餘ヲ減少セシニ由ルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ貳萬六千六百圓三拾七錢三厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ前述屯田兵ノ費額年延ノ高ヲ本年度ニ於テ交付セシニ由リ八萬圓、歲入ノ部  
 ニ略述スルカ如ク北海道物產稅ノ超過セシニ由リ四萬貳千圓餘、併セテ拾貳萬貳千圓餘ヲ增加  
 スルト雖モ前年度ニ於テ一時交付セシ千島樺太交換ニ係ル諸費本年度ニ於テ要セサリシニ由リ  
 七萬四千六百圓餘、該使附屬船運賃及ヒ地所拂代其餘諸雜入ニ於テ七萬二千九百圓餘、併セテ拾  
 四萬八千六百圓餘ヲ減少セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記ノ減少ヲ生スルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ但シ玆ニ表上スル決算ノ金額ハ百七拾  
 八萬圓餘ニシテ第二表ニ掲上スル決算額百九拾萬圓餘ト比較シテ拾壹萬圓餘ノ差違ヲ視ルハ前  
 記ノ如ク十箇年ヲ以テ該使定額ノ一期トスルカ故ニ第二表ニ編算セシ員額ハ本年度該使ニ交付  
 セシ高ニシテ玆ニ表上スルハ該使ニ於テ實際消費ノ員額ナルニ由ルナリ故ニ規約ニ遵ヒ十箇年

ナ收束スルニ至テハ毫モ差額ヲ視ルヲ無シ (△印ハ未詳)

科	目	決	算	額	豫	算	額	決	算	ノ	比
科	目	決	算	額	豫	算	額	決	算	ノ	比
俸	給	三〇、六〇一	二〇八	二六、九一四	二五、六	△	四、八五四	九四八			
給	與	九九、八八九	四九一	七三、一九	二一五	△	二六、六九七	二七六			
旅	費	五、六九〇	九五八	六、〇七三	五〇二	△	四、〇四〇	五四四			
開	墾	三、九五〇	五三三	四、九八七	一、六四	△	一〇、三九六	六四二			
勸	業	一、七六八	四三三	二、〇三三	二〇七	△	三、〇四四	七五五			
鑛	山	一、九一七	六九四	一、五七六	九九〇	△	三、一六〇	七〇四			
學	校	一、四一八	九六七	一、六七一	七九三	△	二、五五〇	八二六			
病	院	一、八九二	七七四	二、四〇四	八八五	△	五、五三二	一一一			
驛	遞	四、三三三	〇五七	三、七二四	六六三	△	六、三〇	三九四			
電	信	一〇、八五六	一四六	一〇、六五三	一五〇	△	二、〇一一	九九六			
船	費	一、二八四	一〇六	一、六六〇	七三六	△	四、五三三	三八〇			
警	察	三、七四三	六〇一	三、〇一六	四四八	△	七、三三三	一五三			
檻	獄	一、五五三	八八七	一、四八二	〇五二	△	七、四九九	八三三			
屯	田	六、九二八	〇一一	一、八〇〇	〇〇〇	△	一〇、八七一	九八九			
土	殖	一〇、八六四	五〇八	九、七〇〇	〇〇〇	△	一、一六四	五〇八			
營	繕	一〇、九八三	一〇八	七、〇八一	七七〇	△	三、八九〇	三三八			

明治十三年八月 太政官 達 第四十三號 (明治九年年度歲入出決算報告書)



開拓費借入金	大藏省へ償還	神 社 費	海 外 留 學 費	備外國人諸費	雜 費	通 計
六二五〇〇〇	〇〇〇	八二九	四五七八	二七二四九	二〇六四二	一七八八九二
三六〇〇〇〇	〇〇〇	九二九	九四〇	五七五	二二七	〇七二
二七九〇〇〇〇	〇〇〇	一三六〇	三〇〇〇	二七四八八	一五、三五七	一六二、二〇七
〇〇〇	〇〇〇	九四五	〇〇〇	〇〇〇	二八四	九五〇
二七九、〇〇〇	〇〇〇	五三一	一五七八	三三八	一五、二八四	一六六、七二三
〇〇〇	〇〇〇	〇一六	九四〇	四三五	八五三	一、二二

(地租改正局) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ三拾六萬五千五百四拾壹圓貳拾七錢ヲ減少セ

此減少セシ所以ハ内務大藏兩省ヨリ兼務ノ吏員明治十年一月該局へ專補ノ命アルヲ以テ同月以降該局ニ於テ俸給ヲ付與スルニ由リ壹萬七千六百圓餘ヲ増加スルト雖モ改租ノ事業本年ヲ以テ一般ノ整頓ヲ期セシニ西南ノ騷擾其他事故アリテ成功ヲ奏シ難キニ由リ三拾八萬三千貳百圓餘ヲ減少セシニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ四萬三千拾四圓八拾七錢七厘ヲ超過セリ此超過セシ所以ハ改租ノ事業漸次竣成ニ隨ヒ一時ニ券狀ヲ付與スルモノ、多キカ爲メ之カ遞送ノ諸費貳萬千圓餘、明治十年一月内務大藏兩省ヨリ兼務ノ吏員該局出仕專補ノ命アルヲ以テ同月以降ノ俸給ヲ交付シ其他種々ノ事項ニ由リ貳萬千九百圓餘ヲ増加セシニ由ルナリ又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

(△印ハ未盡)

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 比 豫 算 額
俸 給	二六、七七一	五〇〇	四、六七九
給 與	一六、五五	八〇八	一、八八三
旅 費	五、二〇七	七〇〇	一、八八三
營 繕 費	二二	五九五	〇、四七
地券用紙遞送費	二、〇三七	〇七三	二、九三
地租改正補助費	〇	三、〇〇〇	〇、〇〇
雜 費	三、八九九	〇五四	七、五三九
通 計	一〇五、四五八	七、三〇	一、四四五

(府縣) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ四拾五萬三千六百六拾壹圓二拾五錢九厘ヲ減少セリ

此減少セシ所以ハ明治九年八月第百拾貳號公布ヲ以テ府縣ノ廢合ニ由リ拾二萬四千七百圓餘、同十年一月以降警部俸給及ヒ警察ニ關スル諸費ヲ府縣警察費へ移シニ由リ八萬七千二百圓餘、潰地購買處分ノ整理未済ニ係ルモノアリ其他種々ノ事項ニ由リ貳拾三萬千圓餘ヲ減少セシニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ百三拾六萬六千八拾四圓六拾七錢壹厘ヲ減少セリ此減少セシ所以ハ前年度半途ニ於テ施行セシ判任官月給定額ノ改正及ヒ從前司法省ノ管理タリシ糧倉ノ事務ヲ府縣へ移シ又ハ訴訟用野紙、度量衡諸費等ノ如キ本年度ニ至リ全ク周歲ノ費途ヲ要セシニ由リ拾萬五千二百圓餘、東京府下京橋以南煉化石造家屋建築ニ付民有地購買代及ヒ道路修築費等前期ヨリ多カリシニ由リ八萬六千貳百圓餘、若松縣土族救助ノ爲メ授産資本トシ



テ五萬四百圓餘、併セテ貳拾四萬千九百圓餘ヲ増加スルト雖モ明治九年<sup>四</sup>第五拾三號同年<sup>八</sup>第百拾貳號公布ヲ以テ府縣ノ廢合ニ由リ五拾五萬貳百圓餘、前年度ニ於テ一時支出ヲ要セシ神奈川縣下吉田新田埋立費同縣下横濱北方村諏訪町燒失跡民有地買上代新瀨、宮城、舊磐井縣水害救助等本年度ニ於テハ之ヲ要セサリシニ由リ四拾六萬千五百圓餘、地方裁判所増置ニ付從前地方廳ノ經費ニ包含セシ裁判ニ係ル諸費九萬四千六百圓餘、明治十年一月以降警部俸給及ヒ警察ニ關スル諸費ヲ府縣警察費ヘ移セシニ由リ八萬七千三百圓餘、同八年九月以降新瀨關稅關ヲ大藏省ノ直轄ト爲シ同年<sup>十一</sup>第百六拾三號公布ヲ以テ船政所ヲ廢シ同年十二月東京府囚獄總役ノ事務ヲ警視局ヘ移セシヲ以テ本年度ニ於テハ費用ヲ要セサリシニ由リ八萬三千六百圓餘、濱地買上代前期ヨリ少カリシニ由リ五萬三千三百圓餘、同年<sup>十</sup>第百七拾八號公達ヲ以テ九年一月以降宿代ノ給與ヲ廢シ又ハ同年<sup>六</sup>第百六拾四號公達ヲ以テ旅費規則ノ改正其他種々ノ事項ニ由リ貳拾七萬七千貳百圓餘、併セテ百六拾萬八千圓餘ヲ減少セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記ノ減少ヲ生スルナリ

又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ但シ每科目ノ決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ増加スルモノアリト雖モ豫算ノ際増費ヲ要スヘキ件々ヲ概算シ別ニ補充金未ニヲ設ケ以テ其増加ノ金額ヲ支辨セシニ由リ結局四拾五萬圓餘ノ減少ヲ生セシナリモノハ概シテ本文ノ事由ニ

科 目	決 算 額		豫 算 額		決 算 額 比 増 減	
	給 與	給 付	給 與	給 付	比 率	増 減
旅 費	四〇、二六七	七七一	三〇、四二六	〇〇〇	一〇七、八四一	七七一
軍 人 恩 給	一七、四九一	九〇四	一七、三三三	五九〇	一七、二一八	三三四
賑 恤	一〇、〇〇〇	一五〇	三、三三三	八三三	七、〇六六	三二七
史 誌 編 輯 費	三、四九四	四五〇	三、三三三	〇〇〇	一、四四五	五五〇
招 魂 社 費	七、九七〇	七三五	四、九二九	〇〇〇	三、〇四一	七三五
檻 獄 費	五、四七〇	四一三	四、八八九	〇〇〇	五、五七二	四一三
民 有 地 購 求 費	八、八九〇	九五七	〇	〇〇〇	八、八九一	九五七
難 破 船 諸 費	三、九九六	九九七	一、三三五	〇〇〇	二、七六一	九九七
備 外 國 人 諸 費	一、五八七	六六五	一、五八六	〇〇〇	六三一	六六五
雜 費	四、三八五	五六一	四、八二五	八五〇	二〇、三五八	七一一
補 充 金	〇	〇	八、四六三	四一〇	八、四六三	四一〇
通 計	三、七〇九	六四一	四、一六二	〇〇〇	四、五三一	三五九

右通計ノ金額ヲ以テ各府縣ノ區分ヲ示ス左ノ如シ

府 縣	給 與	給 付	比 率	増 減
東 京 府	二、六四三	八〇九	一、六一二	八〇九
京 都 府	一、九三六	三三二	一、五九七	三三二
大 阪 府	一、〇九八	九一九	一、三六三	〇〇〇
神 奈 川 縣	一、三〇四	五五一	一、二七三	〇〇〇
兵 庫 縣	一、二六〇	〇五二	五七、九六〇	〇〇〇
長 崎 縣	一、二二五	四八一	七、七三三	七五〇
通 計	三、七〇九	六四一	四、一六二	〇〇〇



テ五萬四百圓餘、併セテ貳拾四萬千九百圓餘ヲ増加スルト雖モ明治九年四月第五拾三號同年八月第百拾貳號公布ヲ以テ府縣ノ廢合ニ由リ五拾五萬貳百圓餘、前年度ニ於テ一時支出ヲ要セシ神奈川縣下吉田新田埋立費同縣下横濱北方村諏訪町燒失跡民有地買上代新堀、宮城、舊磐井縣水害救助等本年度ニ於テハ之ヲ要セサリシニ由リ四拾六萬千五百圓餘、地方裁判所増置ニ付従前地方廳ノ經費ニ包含セシ裁判ニ係ル諸費九萬四千六百圓餘、明治十年一月以降警部俸給及ヒ警察ニ屬スル諸費ヲ府縣警察費ヘ移セシニ由リ八萬七千三百圓餘、同八年九月以降新編稅關ヲ大藏省ノ直轄ト爲シ同年十一月第六拾三號公布ヲ以テ船政所ヲ廢シ同年十二月東京府囚獄總役ノ事務ヲ警視局ヘ移セシヲ以テ本年度ニ於テハ費用ヲ要セサリシニ由リ八萬三千六百圓餘、潰地買上代前期ヨリ少カリシニ由リ五萬三千三百圓餘、同年十月第七拾八號公達ヲ以テ九年一月以降宿代ノ給與ヲ廢シ又ハ同年六月第六拾四號公達ヲ以テ旅費規則ノ改正其他種々ノ事項ニ由リ貳拾七萬七千貳百圓餘、併セテ百六拾萬八千圓餘ヲ減少セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記ノ減少ヲ生スルナリ

又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ但シ毎科目ノ決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ増加スルモノアリト雖モ豫算ノ際増費ヲ要スヘキ件々ヲ概算シ別ニ補充金表ニテ設ケ以テ其増加ノ金額ヲ支辨セシニ由リ結局四拾五萬圓餘ノ減少ヲ生セシナリ  
以下補充金表ニテ設ケアルモノハ概シテ本文ノ事由ニ  
(△印ハ朱書)

科	目	決算額	豫算額	豫算ト比シ増減
俸給		一六八、九九七	一七七、七六一	△八、七六四
給與		八二四	〇〇〇	△八、七六四
總計		三五一、二六八	二六八、八八九	△八三、八三八

旅	軍人恩給	賑恤	史誌編輯費	招魂社費	檻獄費	民有地購求費	難破船諸費	備外國人諸費	雜費	補充金	通計
四〇、二六七	一七、四九一	九〇四	一〇、〇〇〇	七、九七〇	五、四七〇	八、八九〇	三、九九六	一、五八七	四、三八五	〇	三七〇、九三三
七七一	九〇四	三三三	四、四九〇	七、三三五	四、一三三	〇	一、三三五	一、八六六	四、一八二	八、一六三	四、一六三
三〇、二四二	五九〇	八三三	〇〇〇	四、九二五	四、八九九	〇〇〇	〇〇〇	一、八六六	二〇、二五八	四、一六三	四、一六三
一〇、七八四	一七、二二八	七〇、二六九	一、四五〇	三〇、四一七	五、七二二	八、八九一	二、七六一	六、三二一	二〇、二五八	四、一六三	四、一六三
七七一	三二四	三二七	五五〇	三〇、四一七	四、一三三	九、九七	六、六六五	六、三二一	二〇、二五八	四、一六三	四、一六三
右通計ノ金額ヲ以テ各府縣ノ區分ヲ示ス左ノ如シ											
東京府	二六、四三〇	八〇九	一六、一六二	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇	二六、四三〇
京都府	九、三六七	三三二	一五、九七四	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇	九、三六七
大阪府	一〇、九八六	九一九	一三、一六四	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇	一〇、九八六
神奈川縣	一三、三〇四	五五一	一七、三三八	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇	一三、三〇四
兵庫縣	一六、〇九七	〇五二	五、七九六	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇	一六、〇九七
長崎縣	一三、五四九	四八一	七、七五二	七、五〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇	一三、五四九



磐前縣	福島縣	宮城縣	長野縣	筑摩縣	岐阜縣	滋賀縣	山梨縣	靜岡縣	濱松縣	愛知縣	三重縣	堺縣	栃木縣	茨城縣	千葉縣	群馬縣	埼玉縣	新潟縣
一九三三〇	二二〇九八	五三三三二	七〇一四一	一七〇五一	五〇〇〇七	六七〇七	五〇八三三	七九三三四	二五三三九	八八一六四	八五三四六	六七一四五	六六四一五	八五四八〇	八六五七一	七二〇七一	七八八〇〇	七〇八五五
五五四	七八四	〇二九	〇九七	八二	三三一	四四五	五五九	九四三	七八〇	三三六	三九六	六三〇	二七六	七八三	八六三	七八七	四八五	五五五
四五〇九五	四七一六六	四八八二九	四八三七四	四六九八一	五、五三一	七三、八一七	四四、八六六	四四、三三二	三九、九四五	九〇、九三四	五、六八五二	四〇、三三二	六、六六三	九四、六一〇	八四、五四六	七〇、八四〇	五、四六八五	七、二七九
〇〇〇	〇〇〇	二五〇	〇〇〇	〇〇〇	二四〇	五〇〇	〇〇〇	二五〇	〇〇〇	〇〇〇	二五〇	〇〇〇	五〇〇	二五〇	〇〇〇	七五〇	〇〇〇	〇〇〇
△三五七四	△七、九三二	△七、三九一	△二、七六七	△二、九二九	△六、一〇〇	△二、四七六	△六、六四七	△三、三二二	△二、四八六	△二、七六九	△二、八四四	△二、六八三	△一九八	△九、三九	△二〇、二五	△三、三	△二、一五	△八一、九三三
四五四	七八四	七七九	〇九七	一七九	二四一	二四一	五五九	六九三	二二〇	六七四	一四六	六三〇	二二四	四六七	八六三	〇三七	四八五	四四五

香川縣	名東縣	和歌山縣	山口縣	廣島縣	岡山縣	飾磨縣	島根縣	鳥取縣	豐岡縣	石川縣	敦賀縣	秋田縣	鶴岡縣	置賜縣	山形縣	青森縣	巖手縣	若松縣
一八九九八	二六四三〇	六四六七一	七六一〇七	八〇四九四	八六、九三〇	一九五三三	九五、四七〇	三三、六五五	一六、五三二	九八、九二五	二、四三九	六、二八九	二、三六四	八、七六六	六三、九九七	六六、三三六	六八、三六九	一、四三〇九
六〇七	五四〇	四〇六	四九六	〇三六	二二〇	二二七	六六七	九九六	五三九	八〇六	八〇八	八八三	六七四	六八五	五八四	九八〇	八九八	二八八
五四、五四四	五四、五六六	五六、四七〇	七四、四九六	五六、〇七三	七五、四一七	六七、九三三	四三、〇〇九	五二、〇〇九	四、一九七六	六六、七七六	五七、四三五	四七、六八一	三二、八四一	三〇、四八八	四四、八八五	四九、六六六	四七、〇三三	四一、六八〇
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	二五〇	七五〇	八〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	五〇〇	六七〇	〇〇〇	七五〇	〇〇〇	〇〇〇	七五〇	三五〇	七五〇
△三五、五四五	△二、八、三三	△八、一〇一	△一、六一	△二、四、四二〇	△一、五、二	△四、八、三九八	△五、〇、四六一	△二、八、三三三	△三、一、四九	△三、三、〇、一、五	△一、四、六、〇、八	△二、〇、五、七、七	△二、二、七、二	△二、七、二、一	△一、九、一、二	△一、六、五、七〇	△二、一、三、三六	△二、七、三、七一
三九三	四六〇	四〇六	二四六	二八六	四一〇	七六三	六六七	五〇四	四六一	三〇六	八六二	八八三	〇七六	三一五	五八四	三三〇	六四八	四六二



愛媛縣	八五七一	八九九	五二〇四二	三三〇六七	六四九
高知縣	九七、四九三	六四七	五五、〇〇三	四二、一九〇	六四七
福岡縣	一〇〇、七〇二	四九二	五六、〇五四	四四、六四八	二四二
三瀨縣	三三、七八八	四六一	四八、一五九	二五〇	二四二
大分縣	五八、〇〇三	一七七	四九、九〇〇	〇〇〇	八、〇三
熊本縣	七、六六三	一六八	七五、二五九	九八〇	三五九六
宮崎縣	一七八〇七	五四一	五四、八〇二	七五〇	三六、九九五
鹿兒島縣	二六、四四一	三〇六	二二、九五二	五〇〇	四、四八九
補充金	〇	八、四六三	四一〇	八、四六三	四一〇
通計	三七〇、九三三	六四一	四、六二五〇〇	〇〇〇	四、五三一、六一

(警視局) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ五萬千七百五拾八圓六厘ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ明治十年一月大和竝京都、  
 行幸ニ付警視官以下旅費ヲ始メ一切之ニ係ル諸費三萬五千圓餘、該局負擔ニ屬セシ從前東京  
 府囚獄懲役場營繕ニ係ル諸費ヲ府縣營繕費ヨリ該部へ移シ其他種々ノ事項ニ由リ壹萬六千五百  
 圓餘ヲ増加セシニ由ルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ拾五萬四千七百六拾四圓八拾三錢ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ東京府ノ管理タリシ囚獄懲役ノ事務ヲ明治八年十二月拘留無籍人ノ取扱ヲ同  
 九年十月、司法省ノ管理タリシ糧倉ノ事務ヲ同年二月該局ノ所管ニ屬セシニ由リ四萬六千九百

圓餘、大和竝京都、  
 行幸ニ付警備ニ係ル諸費三萬五千圓餘、各方面各分署へ電線架設ノ諸費壹萬八千八百圓餘、河  
 海警察ノ事務ヲ施行シ其他種々ノ事項ニ由リ五萬二千七百圓餘ヲ増加セシニ由ルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ (△印ハ朱書)

科目	目	決算額	豫算額	決算ノ増減
俸給	給與	六七一、五三七	六六三、三九〇	八、一四七
旅費	與	二六〇、二三四	二六七、〇九三	△六、八六九
給與	給與	五、九一一	一七、五〇〇	△一、五八九
旅費	費	七、三九九	四、一五	三、二四四
檻獄	費	四、三三三	三六、一五四	△三、二二一
營繕	費	二、一四四	一、九四	〇
備外國人諸費	費	一、四二七	二、八六二	△一、四三五
雜費	費	一、二四六	一、〇〇〇	〇
通計	計	一、二四六、七五八	一、一九五、〇〇〇	五、七一九

(府縣警察) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ八萬四千四百四拾五圓七拾三錢ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ府縣經費中ニ含有セシ警部俸給及ヒ警察ニ屬スル諸費ヲ該部へ移シ又ハ  
 皇太后宮 皇后宮京都へ 行啓ニ付警備ニ係ル諸費ヲ増加セシ等ニ由ルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ貳拾四萬四百貳圓四拾五錢四厘ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ地方警察ノ事務ヲ擴張スルト前述警部俸給及ヒ警察ニ屬スル諸費ヲ該部へ移



セシト 皇太后宮 皇后宮京都へ 行啓ニ付警備ニ係ル諸費ヲ要セシトニ由ルナリ

又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

科 目	決 算 額	豫 算 額	豫算ノ増減
俸 給	五七五二九	六七九	〇
給 與	一四六二〇	七七五	〇
旅 費	九七、〇一一	四二一	〇
備外國人諸費	四三八一	八一	〇
雜 費	五九、二二一	〇四四	〇
通 計	八三、四四五	七三〇	八四、四四五

(神社) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ貳萬千七百三拾九圓貳拾錢八厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ新タニ別格官幣社ニ列セラル、如キ増加スルモノアリト雖モ神官ノ闕員多カリント其餘全般ノ諸費ヲ節縮セシトニ由ルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ壹萬貳千貳百四拾六圓四拾貳錢七厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ前述ノ事由ニ同シ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ 神宮司廳ハ官費支給ノ分ト社入金トヲ分スル能ハス故ニ單ニ神宮支給ノ目ヲ設ケ官費支給ニ係ル金額ヲ表止ス

科 目	決 算 額	豫 算 額	豫算ノ増減
神宮司廳	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	〇
神官俸給	一六、五一一	一三、〇五〇	△三、四六一
給 與	三、八三八	二、三三〇	△一、六一八
祭 典 費	一、五五二	一、四九九	△三
營 繕 費	五、三九六	八、二二九	△二、八三三
雜 充 金	二、九九九	二、六九二	△〇、三〇七
通 計	一、九八、三六〇	二、〇〇〇、〇〇〇	△一、〇一六、六四〇

(△印ハ朱筆)

(府縣營繕) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ九萬九千三百七拾八圓六拾貳錢ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ明治九年八月第百拾貳號公布ヲ以テ地方廳ノ廢合ニ因リ縣廳及ヒ官舎修繕ノ減少セシト其他已決概ノ新營、神社、諸官舎等實際ノ緩急ヲ量リ業チ後期ニ譲リシトニ由リ九萬千貳百圓餘、警視局所管ニ屬セシ囚獄懲役場ニ係ル營繕費ヲ同局ヘ分裂セシニ由リ八千百圓餘ヲ減少セシニ由ルナリ  
 又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ七千五百五拾六圓三拾貳錢三厘ヲ超過セリ  
 此超過セシ所以ハ檻獄新營ノ前年度ヨリ多カリシニ由ルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ



科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 比 増 減
陵墓修繕費	二、二九四	六〇五	△一、六八九
府縣廳新營費	五、一五一	三、四二二	△一、六八九
同修繕費	九、三六〇	四、八七	△四、四八三
警察所新營費	二、四三二	七三六	△一、六九六
同修繕費	一、三六三	九二一	△四四二
權獄新營費	三、二七四	七〇一	△二、五七三
同修繕費	四、〇〇八	一、五四〇	△二、四六八
神社新營費	一、〇〇二	三三三	△六六九
同修繕費	二、六〇六	一、四九	△二、一〇七
補充金	〇	六、九三九	△六、九三九
通 計	一、三九六二	三、八〇〇	△二、四〇四

(△印ハ朱書)

(府縣堤防) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ六圓拾四錢四厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ京都府及ヒ神奈川県外拾縣管下水害劇シク堤塘ノ破壞頗ル多ク加ルニ新道開  
 鑿等ノ支出ヲ要シ當テ分賦セシ豫算額ヲ以テ支ヘ難ク遂ニ四拾萬貳千圓餘ヲ増加セシト雖モ  
 當初豫算ノ際豫シメ各地ノ實況ヲ稽查シ不虞ノ要ニ供センカ爲メ四拾萬貳千貳百圓餘ノ補充ニ  
 表上ヲ準備セルカ故ニ此金額ヲ以テ右増加ヲ補填セシニ由リ之ヲ對計スレハ此減少ヲ生セシナ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ三萬二千九百貳拾七圓ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ前年度ニ於テ一時支出ヲ要セシ新潟縣下信濃川分水路掘割ノ停業ニ因テ之ニ  
 係ル地所購買代ノ如キ本年度ニ於テ之ヲ要セサリシ等ニ由ルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ (△印ハ朱書)

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 比 増 減
治水費	九、三六〇	六、五五〇	△二、八一〇
橋梁新架修繕費	二、四七〇	八九二	△一、五七八
新架修繕費	一、五九七	一〇八	△一、四八九
道路修築費	一、六五二	一、七三三	△八一一
港灣修築費	一、四一七	七二四	△七九三
補充金	〇	六、九三九	△六、九三九
通 計	一、三九六二	三、八〇〇	△二、四〇四

(外國公使館及領事館) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ拾六萬七千六拾八圓四拾四錢六厘ヲ  
 減少セリ

此減少セシ所以ハ遣外公使以下俸給ノ如キ豫算ノ際定員ヲ以テ概定セシニ佛、伊、澳、清國等公  
 使不在其餘官吏ノ闕員鮮カラサル等ニ由リ八萬七千圓餘ノ公事旅行ノ募ク其他種々ノ事項ニ由  
 リ八萬圓餘ヲ減少セシニ由ルナリ



又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ九萬九千貳百九拾壹圓三拾八錢三厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ英國倫敦、魯國哥爾薩港、清國天津、布哇領事館ノ如キ何レモ前年度中ノ創設  
 ニ係ルヲ以テ本年度ニ於テハ全ク周歲ノ費途ヲ要セシニ由リ貳萬六千九百圓餘、魯國浦潮貿易  
 事務館、清國芝罘領事館ノ新設及ヒ朝鮮國草梁館へ醫院ヲ設置セシニ由リ壹萬千六百圓餘、併セ  
 テ三萬八千六百圓餘ヲ増加スルト雖モ前年度ニ於テ一時支出ヲ要セシ清國上海領事館地所購入  
 代、同國天津領事館建築費及ヒ各館備付器具ノ購求其餘赴任ノ旅費等本年度ニ於テ之ヲ要セサ  
 リシニ由リ五萬千圓餘、明治九年七月以降各國公館費用條例ノ改正其他種々ノ事項ニ由リ八萬  
 六千八百圓餘、併セテ拾三萬七千九百圓餘ヲ減少セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記ノ減少  
 ヲ生スルナリ

又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

(△印ハ朱書)

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 増 減	豫 算 額 増 減
俸 給	二七四、九六九	五四九	三六二、〇一六	八七、〇四七
給 與	四、九三三	四四〇	五、九三九	九四五
旅 費	二、三三三	七七六	三、七五〇	一、六一九
營 繕 費	七〇九七	〇二七	七、四七〇	三三三
備外國人諸費	二、三三三	二六四	三、五〇四	一、一七九
雜 費	四、九四二	四九八	一、〇〇三	六六五
通 計	三八一、三三一	五五四	五四八、三〇〇	一、六七〇

(宮殿造營)

該部ハ造營ノ事業姑ラク停延セラレシヲ以テ決算ノ員額無シ

(救助及勸業ノ爲メ貸出) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ六拾七萬三千九百四拾圓七拾六錢

九厘ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ主トシテ兵庫、靜岡、岡山、山梨、島根縣下ノ如キ水害旱損ヲ被ル頗ル夥多ニシ  
 テ之カ救恤ニ充ル貸付ノ金員巨額ニ昂リシニ由ルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ五拾貳萬三千貳拾七圓貳拾四錢五厘ヲ減少セリ  
 此減少セシ所以ハ水旱ノ損害ヲ被リ之カ救恤ニ充ル如キ増加セシモノアリト雖モ本期豫算表例  
 言第七項ニ述ル一時ノ繰替ニ關スルモノ則チ地租改正ニ付テノ地方ニ係ル諸費又ハ鑛山坑夫飯  
 米代等ノ如キハ歳入出ノ本部ヨリ除算シ準備金中ヲ以テ貸與セシニ由ルナリ  
 又各科目ヲ支分シ其豫算決算ノ増減盈縮ヲ示ス左ノ如シ

科 目	決 算 額	豫 算 額	決 算 額 増 減	豫 算 額 増 減
救 助 貸 出	一〇九、三五八	七六九	〇	〇
勸 業 貸 出	八〇、三五二	〇〇〇	〇	〇
通 計	一、七三、九四〇	七六九	五〇〇、〇〇〇	〇〇〇

(廣島鑛山) 此決算額ハ拾五萬九千貳百九拾三圓四拾三錢貳厘ナリ

該部ハ歳入ノ部ニ略述スルカ如ク豫算ノ際未ク算入ノ順序ニ至ラサルヲ以テ實際支消ノ金額ヲ  
 掲上スルモノナリ



又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ五萬七千五百九拾九圓壹錢三厘ヲ減少セリ  
此減少セシ所以ハ歳入ノ部ニ略述スルカ如ク前年度 於テハ業ヲ半途ニ興シ本年ニ至リ全ク周  
歲ノ費途ヲ要セシト雖モ前期ニ於テ一時支出ヲ要セシ舊蹟主ヨリ買收セシ諸蹟物代ノ如キ本年  
度ニ於テハ之ヲ要セサリシニ由ルナリ

(大和竝京都へ行幸行啓) 此決算額ハ拾壹萬九千九百六拾貳圓四拾五錢壹厘ナリ

該部ハ明治九年十一月公布アリシモノニシテ豫算決定ノ後ニ起リ固ヨリ編算無キヲ以テ實際支  
消ノ金額ヲ掲上スルモノナリ

(雜支出) 此決算額ヲ以テ其豫算額ニ比スレハ五拾八萬三千三百八拾三圓拾貳錢五厘ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ交換紙幣及ヒ金祿公債證書ノ製造營テ豫期セシ如ク運ヒ難キニ由リ拾九萬三  
千三百圓餘、金銀精製費ヲ豫算ノ際編入セシニ實際ニ至リ計算ノ方法ヲ改メ地金益金ノ内ヲ以  
テ辨償セシニ由リ五萬九千五百圓餘、東京府下四大橋新營等ヲ後期へ譲リシニ由リ四萬五千圓  
餘、併セテ貳拾九萬七千九百圓餘ヲ減少スルト雖モ茨城縣外六縣管下暴動鎮撫ニ係ル諸費五拾  
九萬九千六百圓餘、經費金ノ内火盜ノ難ニ罹リ之ヲ補填セシ高拾貳萬八千四百圓餘、民有ノ山林  
ヲ買收セシニ由リ九萬圓、開拓使士族稻田邦植外貳名へ北海道舊支配地開拓費償却其他種々ノ  
事項ニ由リ六萬千貳百圓餘、併セテ八拾七萬九千三百圓餘ヲ増加セシニ由リ之カ増減ヲ對計ス  
レハ前記ノ超過ヲ生スルナリ

又決算額ヲ以テ前年度決算額ニ比スレハ貳拾七萬五千九百三圓五拾七錢五厘ヲ超過セリ

此超過セシ所以ハ前年度ニ於テ一時支出ヲ要セシ郵便蒸氣船會社ノ船舶及ヒ所有品購入代三拾  
貳萬五千圓、正金兌換證券引換手数料八萬千六百圓、舊藩縣ノ會計整理ニ由リ七萬五千八百圓  
餘、高島炭坑舊坑主へ下附金貳萬五千五百圓ハ本年度ニ於テ之ヲ要セサリシニ由リ悉皆減少シ

安石代舊收額ト改正増加額トノ間金ノ内規約ニ遵ヒ勸業授産ノ爲メ支給セシ高貳萬貳百圓餘、  
併セテ五拾貳萬八千貳百圓餘ヲ減少スルト雖モ前述縣下暴動鎮撫ニ係ル諸費五拾九萬六千八百  
圓餘、民有ノ山林ヲ買收セシニ由リ九萬圓、金祿公債證書及ヒ交換紙幣製造ニ係ル諸費八萬圓、  
開拓使士族稻田邦植外貳名へ北海道舊支配地開拓費償却其他種々ノ事項ニ由リ三萬七千貳百圓  
餘、併セテ八拾萬四千百圓餘ヲ増加セシニ由リ之カ増減ヲ對計スレハ前記ノ超過ヲ生スルナリ  
(非常豫備)  
該部ハ前條豫算外増加ヲ要セシ件々ヲ支辨シ其金額ハ各費ニ分入セシニ由リ特ニ此科目ヲ以テ  
支出ノ員額無シ

(米國博覽會)  
該部ハ前年度ニ限り支出ヲ要セシモノナリ故ニ本年度ニ於テハ支出ノ員額無シ

(金銀精製)  
該部ハ前年度ニ限り支出ヲ要セシモノナリ故ニ本年度ニ於テハ支出ノ員額無シ

(秩祿奉還賜金)  
該部ハ雜支出へ編入セシヲ以テ茲ニ支出ノ員額無シ

(東京府下四大橋新營其外)  
該部ハ前年度マテニ於テ悉皆之カ給付ノ金額ヲ整理セシヲ以テ本年度ニ於テハ支出ノ員額無シ

(東京府下煉化石建築家屋民費繰替)  
該部ハ雜支出へ編入セシヲ以テ茲ニ支出ノ員額無シ

(三菱會社へ貸下金)  
該部ハ本期豫算表例言第七項ニ略述スルカ如ク本期以降歳出入ノ本部ヲ除算シ準備金中ヲ以テ  
貸與セシニ由リ茲ニ支出ノ員額無シ



該部ハ前項ノ事由ニ同シ  
 (東京爲換會社へ貸出)  
 該部ハ前項ノ事由ニ同シ  
 (朝鮮國事件ニ關スル諸費)  
 該部ハ前年度ニ於テ一時支出ヲ要セシモノナリ故ニ本年度ニ於テハ支出ノ員額無シ  
 (秋田鑛山)  
 該部ハ明治八年十一月工部省ノ管理ニ歸セシヲ以テ本年度ニ於テハ同省經費中ニ包括セリ故ニ  
 茲ニ支出ノ員額無シ  
 (奥羽御巡幸)  
 該部ハ前年度ニ於テ一時支出ヲ要セシモノナリ故ニ本年度ニ於テハ支出ノ員額無シ

第三 國債、準備、貸付ノ計算

明治九年會計歲首ノ國債現額總計ハ壹億四千八百九拾壹萬四千百拾八圓三拾四錢六厘ニシテ其歲尾ノ現額總計ハ壹億四千七百八萬三千八百三拾七圓六錢五厘ナリ此總計ヲ以テ歲首ノ總計ニ比スレハ其減少スルコト百八拾三萬貳百八拾壹圓貳拾八錢壹厘ナリ  
 明治九年會計歲首ノ準備金及ヒ貸付金現額總計ハ三千七百四拾五萬三千八百拾八圓三拾貳錢貳厘ニシテ其歲尾ノ現額總計ハ四千七百九萬八千八百三拾三圓八拾錢八厘ナリ此總計ヲ以テ歲首ノ總計ニ比スレハ其增加スルコト九百六拾四萬五千拾五圓四拾八錢六厘ナリ  
 國債ノ種類及ヒ準備金貸付金ヲ區分シ明治九年七月一日ヨリ同十年六月三十日ニ至ル一周年間ノ増減ヲ示ス左表ノ如シ

第三表 自明治九年七月一周年間國債、準備、貸付増減比較表

科 目	國債之部		總計	內 國債			外 國債			總計	
	歲首現額	歲尾現額		増減現額	新公債	舊公債	無利息	新公債	舊公債		無利息
國債	二,四七五,八〇〇	二,四七五,八〇〇	〇	二,四七五,八〇〇	二,四七五,八〇〇	〇	二,四七五,八〇〇	二,四七五,八〇〇	〇		
準備金	二,八三四,一四一	三,九〇三,一五三	一,〇六九,〇一二	二,八三四,一四一	二,八三四,一四一	〇	二,八三四,一四一	二,八三四,一四一	〇		
貸付	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	〇		
總計	六,三一九,九四一	六,三七八,九五三	八八,〇一二	六,三一九,九四一	六,三七八,九五三	八八,〇一二	六,三一九,九四一	六,三七八,九五三	八八,〇一二		



諸	貸	付	金	計
				三、七、四、五、三、八、一、八、三、三
				八〇、六、七、二、九、五、七、四、九
				一〇、四、五、一、〇、五、七、六、九
				八〇、八
				九、六、四、五、〇、二、五、四、八、六
總				四七〇、九、八、八、三、三

茲ニ各科目ニ就キ其増減盈縮ノ事蹟ヲ説明スル左ノ如シ

(内國舊公債無利) 此現額ハ本會計歳首ヨリ其歳尾ノ減少スルヲ拾五萬七千八百八拾五圓九拾六錢九厘ナリ即チ其計算ヲ左ニ列舉ス

增加高 六六、六四四<sup>四</sup> 二一〇  
 償還高 二二三、八三〇 一七九  
 增加高 一五七、一八五 九六九  
 差引減少高  
 增加高ハ該公債ハ明治六七年間既ニ一般ノ處分ヲ爲スト雖モ或ハ審査精訂ノ爲メ時月遷延シ尙ホ本年度ニ至リ處分ヲ爲セシニ由ルナリ  
 償還高ハ定規ニ遵ヒ本年度間ニ於テ年賦金及ヒ前記増加高ノ内一時償却スヘキ宮方負債並ニ拾五圓未滿ノ小數ヲ拂出セシニ由ルナリ但シ第二表ニ編入セル償還高ト差違ヲ生スルハ茲ニ計上スル金額ハ一周年間現支出ノ高ヲ以テシ第二表ニ掲出スル金額ハ現支出ノ時月ニ拘ラス會計年度ニ關スル員額ナレハナリ以下國債償還高諸貸附金返納及ヒ貸出高ト第一二表ニ掲出スル員額ト差違アル所以ノ理由モ之ニ同シ  
 (内國新公債無利) 此現額ハ本會計歳首ヨリ其歳尾ノ減少スルヲ三拾四萬六千九百七拾圓三拾壹錢貳厘ナリ即チ其計算ヲ左ニ列舉ス  
 增加高 五七、一一一<sup>四</sup> 七七二  
 償還高 四〇四、〇八二 〇八四

差引減少高

三四六、九七〇 三一二

增加高ハ舊公債ノ部ニ説明スル事由ニ同シ

償還高ハ定規ニ遵ヒ本年度間ニ於テ抽籤ヲ以テ償還シ及ヒ前記増加高ノ内一時償却スヘキ宮方負債並ニ拾五圓未滿ノ小數ヲ拂出セシニ由ルナリ

(金札引換公債無利) 此現額ハ本會計歳首ヨリ其歳尾ノ減少スルヲ三萬貳千六百圓ナリ

右減少高ハ定規ニ遵ヒ本年度間ニ於テ抽籤ヲ以テ償還セシニ由ルナリ

(秩祿公債無利) 此現額ハ本會計歳首ヨリ其歳尾ノ減少スルヲ四拾三萬七千百貳拾五圓ナリ即チ其計算ヲ左ニ列舉ス

償還高 三九九、八五〇<sup>四</sup> 〇〇〇  
 減少高 三七、二七五 〇〇〇  
 計 四三七、一二五 〇〇〇

償還高ハ定規ニ遵ヒ本年度間ニ於テ抽籤ヲ以テ償還セシニ由ルナリ

減少高ハ曩時秩祿奉還者へ公債證書ヲ下付セシモノ、内情願ニ由リ其奉還ノ取消ヲ聽許シ該證書ヲ還納爲サシメシニ由ルナリ

(外國舊公債無利) 此現額ハ本會計歳首ヨリ其歳尾ノ減少スルヲ四拾八萬八千圓ナリ

右減少高ハ定規ニ遵ヒ本年度ニ於テ償還セシニ由ルナリ但シ國債原簿ニ記入ノ價格ハ英貨壹封度ヲ以テ我カ通價四圓八拾八錢ニ積算セリ然リ而シテ本年度償還ノ實額ハ四拾九萬九千貳百九拾八圓七錢ニシテ英貨交換價格ノ平均四圓九拾九錢貳厘餘ニ至レリ今其償還ノ實額ヲ表出セスシテ前述ノ計算ニ由ルモノハ前期決算報告書ニ説明セシ如ク債額ニ差違ヲ生スレハナリ



(外國新公債七分) 此現額ハ本會計歳首ヨリ其歳尾ノ減少スルコト貳拾六萬八千四百圓ナリ

右減少高ハ舊公債ノ事由ニ同シ且英貨交換價格ノ計算ニ於ルモ亦同シ

(準備金) 此現額ハ本會計歳首ヨリ其歳尾ノ増加スルコト千六拾九萬百貳拾壹圓貳拾五錢五厘ナリ  
即チ其計算ヲ左ニ列舉ス

歳入剩餘金挿入高	九、八二一、八一三	九二二
諸向繰替金挿入高	八六八、三〇七	三三二
計	一〇、六九〇、一一一	二五五

歳入剩餘金挿入高ハ八年六月以前ニ屬スル歳入剩餘ノ内本年度ニ於テ該部ニ編入セシ員額ナリ但シ前期決算報告書諸貸付金ノ部ニ掲載スル通常貸下金ノ内一時繰替金除算高三拾壹萬貳千六百七十五圓五十三錢四厘ハ八年六月以前地租改正ニ付地方ニ屬スル一時繰替金ニシテ即チ該期ノ剩餘金中ナルヲ以テ茲ニ編算セリ

諸向繰替金挿入高ハ從前歳入ヲ以テ處辨セシ一時繰替金ヲ爾後渾テ準備金ヨリ支辨スヘキコトニ更正セシニ由リ前期以前ニ於テ繰替アリシ金額ヲ悉皆茲ニ編入セシナリ

(諸貸付金) 此現額ハ本會計歳首ヨリ其歳尾ノ減少スルコト百四萬五千五百圓七十六錢九厘ナリ即チ其計算ヲ左ニ列舉ス

貸付高	八六九、九一一	五九五
追加高	二三八、一五七	八六七
計	一、一〇八、〇六九	四六二
返納高	一、四三一、三〇四	三〇六
除算高	六二二、九一五	一二五

差減

差引減少高

貸付高ハ本期一周年間ニ於テ救助及ヒ勸業ノ爲メ新タニ貸與セシモノナリ	一〇八、九五五	八〇〇
追加高ハ發時舊藩々於テ貸付セシ金額ノ内本年度間ニ於テ之ヲ整理シ更メテ貸付ノ順序ヲ了セシモノナリ	二、一五三、一七五	二二二
返納高ハ年賦ノ期約ヲ逐ヒ返納セシモノ及ヒ公債證書又ハ壹割利引ノ計算ヲ以テ一時返納ノ情願ヲ聽許シ之ヲ收了セシモノナリ	一、〇四五、一〇五	七六九

除算高ハ窮民其他已ムヲ得サル事故アリテ棄捐ノ處分ヲ爲シ又ハ負債者身代限リノモノハ他日還納ノ期ニ於テハ雜入ヘ納入スルノ例規ナルヲ以テ貸付高ヲ除算セシモノナリ  
差減ハ糞ニ米穀洋銀等ヲ以テ貸付セシモノハ豫シメ其價格ヲ參酌査定セシニ返納ニ至リ時價低下シ又ハ公債證書ヲ以テ返納セシモノ價格ノ差減其他壹割利引ノ計算ヲ以テ一時返納セシモノ利引ノ高ヲ計上セシナリ

○第四十四號 (八月三十日)

官省院使府縣

十三年度歳入出豫算ノ儀ニ付會テ内閣特別會議ニ於テ決定ノ旨ニ依リ大藏卿ニ於テ定式ノ豫算書編成ニ付更ニ會計検査院ヲシテ審査セシモノ別冊ノ通確定候條此旨相達候事

(別冊)

明治十三年度歳入出豫算表

明治十三年度豫算表例言  
本年ノ歳入出各項ニ就キ前年ニ比シテ其増減アルノ事由ヲ陳叙スル前ニ於テ先ツ數件ノ略述セサ



ルヘガラサル者アリ乃チ左ノ如シ  
一明治八年會計年度設爲ノ際出納ノ條規ヲ釐革シ經費ノ科目ヲ定立シ大ニ財政ノ面目ヲ改良セシト雖モ其細目ノ如キハ分合未タ宜ヲ得ルニ至ラザリキ既ニシテ客歲十二月第五拾號ヲ以テ經費科目條例ヲ頒布シ會計ノ條規稍整備スルニ至レリ因テ本年度ノ豫算表ハ該條例ニ遵依セル各廳ノ計簿ニ憑リ之ヲ調理シ増付スルニ明細表ヲ以テ是ニ於テ乎綱目相聯繫シ細大相統屬ス蓋シ此ノ如キハ將來豫算ノ比較ヲシテ更ニ一層ノ詳密ヲ加ヘシムヘキノミナラス決算ノ精且確ナルヲ得ル亦疑ヲ容レサルナリ

一本年豫算ノ全計上ニ於テハ歳入歳出相適シテ過不及ナシト雖モ經常臨時ノ區別ニ就キ其増減盈縮ノ景狀ヲ明示スルハ寔ニ緊要ノ事トス因テ先ツ本年ノ經常歳入ヲ舉レハ其額五千六百六拾壹萬六千圓餘ニシテ臨時歳入ハ三百三拾壹萬六千圓餘ナリ乃チ其歳入總額ニ對スルノ比例ハ左ノ如シ

經常歳入 九四、五  
臨時歳入 五、五

而シテ前年ノ比例ヲ視ルニ經常歳入ハ九四、七ニシテ臨時歳入ハ五、三ナルカ故ニ是レニ對スレハ經常歳入ノ割合ハ前年ヨリ稍退縮スルカ如シト雖モ要スルニ臨時歳入ノ前年ヨリ頗ル多キニ由テナリ次テ又經常歳出ヲ舉レハ其額五千六百四拾九萬四千圓餘ニシテ臨時歳出ハ三百四拾三萬八千圓餘ナリ乃チ其歳出總額ニ對スルノ比例ハ左ノ如シ

經常歳出 九四、三  
臨時歳出 五、七

而シテ前年ノ比例ヲ視ルニ經常歳出ハ九三、八ニシテ臨時歳出ハ六、二ナルカ故ニ是レニ對スレ

ハ臨時歳出ノ割合ハ前年ヨリ頗ル減少スト雖モ要スルニ經常歳出ノ前年ヨリ稍多ヤヲ以テナリ然レモ其經常歳入ヲ以テ經常歳出ヲ支辨シ猶ホ餘裕アルニ至テハ復タ前年ト異ナルナシ

一前年度ノ豫算表ニ掲載セシ救荒貯蓄補助金百貳拾萬圓ノ内三拾六萬圓ハ已ニ之ヲ救助貸ニ供充シ其殘餘八拾四萬圓ハ中央貯蓄金トシテ後年ニ保存スヘキニ因リ此際之ヲ公債證書ニ更換スルヲニ議定セリ而シテ本年豫算スル所ノ該補助金モ亦百貳拾萬圓ヲ以テスト雖モ本年六月第三十一號ノ公布ニ據リ一般ニ該法ヲ施行スルハ明年一月已後ニ在ルカ故本年度ノ上半年分即チ六拾萬圓ノ内十二月マテハ現今ノ成規ニ基キ救助貸ニ充テ其殘額ノ多少ハ今日ニ前言スル能サルモ宜ク前年ト同一ノ例ヲ逐ヒ之ヲ中央貯蓄金ト爲スヘキナリ

一内外國債ノ未償額ハ前年ニ比シテ五百貳拾八萬六千八百八拾三圓四拾錢ヲ減少セリ蓋シ此ノ如キハ前年度間内國債ノ於テ三拾五萬圓餘ノ増加アリト雖モ内國債四百八拾壹萬五千圓餘外國債八拾壹萬六千圓餘ヲ減少セシニ由テナリ而シテ内債ノ一部タル紙幣ニ就キ其流通高ノ減少ヲ舉レハ總計四百七拾四萬四千七百八拾八圓四拾錢ニシテ其貳百萬圓ハ減債方法ニ據リテ消却シ其貳百七拾三萬圓ハ人民ノ請願ニ從ヒ金札引換公債ニ換ヘテ截斷シ其壹萬四千圓餘ハ交換整理ニ因テ散失ニ歸セシモノナリ又茲ニ本年度間ニ至リ減少ノ目途アルモノヲ豫言スレハ本表ニ掲出セシ貳百萬圓ノ消却額ニ加フルニ前條ニ陳言セシ救荒貯蓄金ノ金札引換公債證書ニ換フヘキハ八拾四萬圓ト前年既ニ金札引換ノ請願ヲ許セシ分之ヲ本年ニ實行スヘキ貳百貳拾萬五千圓トヲ以テモハ少クモ五百四萬五千圓ノ紙幣ヲ本年度ニ減少シ得ヘキナリ

一本年度ノ歳首即チ七月一日ノ準備金有高ハ五千五百三拾貳萬五千五百拾五圓四錢四厘ニシテ前年ニ比シ四拾貳萬六千六百四拾三圓五拾四錢三厘ノ増加ヲ見ルニ至レリ今此増加ヲ生セシ所以ヲ略陳スレハ十一年度ノ歳計タルヤ決算完結ニ至ラサルヲ以テ殘額挿入ノ順序ヲ施行セスト雖



十年度ハ出納ヲ閉鎖シ會計稍完結セシニ由リ彙ニ紙幣支消ニ供充セシ三百貳拾萬圓七百拾六  
額内ノ外更ニ七拾萬九千八百八圓四拾九錢四厘ノ歳入剩餘ヲ得テ之ヲ會計ノ規法ニ從ヒ準備有  
高ノ内ニ繰入シ其他貸金等ヨリ生スル收入ヲ併セテ前年度間増加ノ總額ハ貳百四萬九千圓餘ノ  
多キニ上レリ然レモ又減債方法ニ據リ國債償還ノ爲メ支出セシ金員等百六拾貳萬貳千圓餘ヲ扣  
除スレハ増加ノ實額ハ則チ前ニ掲記セル如ク四拾貳萬六千圓餘ナリ但往年減債方法ヲ設立セシ  
時準備金額ノ内ヨリ該基金トシテ貳千萬圓ヲ分割セリ然レモ此豫算表ニ於テハ概シテ準備金ト  
稱シ其區別ヲ示サハルナリ

一本會計年豫算歳入ノ總計ハ五千九百九拾三萬三千五百七圓ニシテ前年ニ比スレハ四百貳拾八萬  
貳千百貳拾七圓九拾六錢六厘ヲ増加セリ因テ其各項ニ就キ増加ノ事由ヲ左ニ列記ス但レ事由ノ  
指示ヲ要セサル者ハ之ヲ略ス

〔海關稅〕ハ客歳六月第二十一號本年六月第二十九號ノ公布ヲ以テ輸出品ノ無稅ニ歸スルモノア  
ルニ付或ハ其幾分ヲ減スヘシト雖モ貿易ノ景況ハ概シテ逐年益繁盛ナルニ由ル

〔地稅〕ハ稅法改正ノ整理ニ隨ヒ漸ク其實額ヲ得ルト地券書換ノ逐年多數ニシテ印稅ノ收入ヲ増  
ス、又前年沖繩縣ノ豫算編入高ハ舊前ノ實額ニ止リシニ本年度概額五拾壹萬七千圓餘ヲ得テ茲  
ニ加算スルトニ由ル

〔鑛山稅〕ハ其個所ヲ增シ或ハ借區ノ域ヲ擴ムルニ由ル  
〔北海道物產稅〕ハ該地ノ漁業漸ク繁盛ナル等ニ由ル

〔酒類稅〕ハ釀造石數及營業者ノ増加スルニ由ル  
〔證券印紙諸稅〕ハ貼用者ノ増加スルニ由ル

〔郵便稅〕ハ逐年郵書ノ多數ナルト郵便爲換及私書函借受ノ増加スルトニ由ル

〔船稅〕ハ漕運漸ク開ケ隨テ船數ヲ増スニ由ル  
〔車稅〕ハ車數ノ逐年増加スルニ由ル

〔牛馬賣買免許稅〕ハ營業人ノ増加スルニ由ル  
〔海外旅券其他免許手數料〕ハ客歳五月第十九號ノ公布ヲ以テ航海公證規則ヲ廢シ因テ該手數料  
ヲ減スト雖モ海外行ノ旅客及航海術ノ試驗ヲ受クル者ノ多キ等ニ由ル

〔内務省製作益金〕ハ千住製鐵所ノ營業日尙ホ淺ク未タ收益ヲ見ス又新町紡績所ノ購入資材代價  
太々昂シテ收支相償ハスト雖モ製鐵所内ノ工場及愛知廣島ノ兩紡績所ハ本年開業ノ見込ア  
ルト東京製藥所ハ藥品求需ノ稍多キトニ由ル

〔海軍省造船益金〕ハ工事ノ漸ク盛ナルニ由ル  
〔海軍省石炭益金〕ハ稍產出ノ増スニ由ル

〔工部省鑛山益金〕ハ各坑其景狀ヲ同セスト雖モ其主要ヲ概陳スレハ鑛物ノ值稍騰貴スルニ由ル  
〔工部省鐵道益金〕ハ東京橫濱間ノ線路ニ屬スル客車ノ製造廢舍ノ増築等漸ク竣功ニ歸シテ其經  
費ヲ減少スルト京都大津間ノ瀛車轉運ヲ始メ收益ノ見込アルト加フルニ旅客貨物ノ搭載逐年多  
數ナルトニ由ル

〔工部省電信益金〕ハ局數ヲ増シ線路ヲ延ルニ隨ヒ通信亦漸ク增多ナルニ由ル  
〔開拓使諸作業益金〕ハ官有物拂下代ノ下ニ陳言セル如ク之ヲ別掲セシニ由ル

〔森林收入〕ハ別科目ヲ設ケシニ由ル但前年豫算ノ該收入ハ壹萬圓ヲ内務省所管ノ作業益金ニ編  
入シ又五萬四千圓餘ヲ官有物拂下代官有物貸下料ノ二科目中ニ包含シ其合計僅ニ六萬四千圓餘  
ナリシニ本年此ノ増加アルハ他ナシ該作業ヲ停メ收入全額ヲ茲ニ集計セシヲ以テナリ

〔開市港場官地貸下料〕ハ横濱ニ於テ英國海軍病院ノ地所及居留地ノ區域ヲ擴メ又東京ニ於テ新



地ヲ貸渡セシ等ニ由ル

〔諸貸出金返納〕ハ納濟、年延又ハ棄捐ニ歸スルアリテ若干ヲ減スト雖モ前年新タニ貸付セシモノ及前年マテ据置キノ分ヲ本年度ヨリ納入スルモノ等ノ多キニ由ル

〔官有物拂下代〕ハ森林ニ屬スルモノヲ該收入へ組換又開拓使作業上ノ收入ヲ益金ノ部ニ移算シ若干ノ減少アリト雖モ前年作業益金ニ屬セシ下總種畜場ノ改羊場羊毛拂下代及陸軍ノ被服保存滿期ニ付其拂下代等各收入ノ増加セシニ由ル

〔雜入〕ハ前年宮殿造營費ニ充テシ人民獻納金ノ内該年間實際ニ於テ支出セシ分ヲ扣除シ其殘餘ヲ再ヒ茲ニ編算セシヲ以テ其差額六萬三千圓餘ヲ減スト雖モ減債部ヨリ編入高ノ増加貳拾五萬四千圓餘其他種々ノ増加拾六萬千圓餘ナルニ由ル

以上二十三件ノ外訴訟野紙諸稅其他四件ヲ併セ其増加ノ總額ハ四百七拾三萬六千九拾八圓四拾八錢三厘ナリ

又歳入科目ノ内前年ヨリ減少セシ者ノ事由ハ左ノ如シ

〔諸會社稅〕ハ將來ノ景況ヲ酌量スルニ由ル

〔官祿稅〕ハ客歲十二月五拾貳號ノ令達ヲ以テ之ヲ廢セシニ由ル

〔大藏省造幣益金〕ハ硫酸製造所ノ鉛室破壞セルヲ以テ之ヲ葺修シ其竣功ニ至ルマテ該製造ヲ延停スル等ニ由ル

〔工部省工作益金〕ハ赤羽、深川及長崎ノ分局ニ於テ各種ノ工業稍盛ンニシテ若干ノ收益アリト雖モ兵庫分局ハ其收益ノ減少スルニ由ル

〔内務省山林益金〕ハ作業ヲ停メ森林收入ニ編入セシニ由ル

〔官有物貸下料〕ハ官舎ノ増設、官地ノ貸下等ニ由リ若干ノ増加アリト雖モ森林收入ト開拓使作

業益金トニ分離セシモノアルニ由ル

以上六件ノ外賣藥稅其他二件ヲ併セ其減少ノ總額ハ四拾五萬四千七拾圓五拾壹錢七厘ナリ

右減少ノ員額ヲ増加ノ員額中ヨリ扣除スレハ本年歳入増加ノ實額ハ即チ前ニ提記セシ如ク四百貳拾八萬貳千貳拾七圓九拾六錢六厘ナリ

一本會計年ノ歳出ハ五千九百九拾二萬三千五百七圓ニシテ前年ニ比シ四百貳拾八萬貳千貳拾七圓九拾六錢六厘ヲ増加セリ因テ各項中増加セシ者ニ就キ其事由ヲ列記スル左ノ如シ

〔内國債〕ハ前年豫算中神官配當祿ノ處分ニ係ル貳拾五圓未滿現金渡ノ分ヲ併算セシニ本年ハ右ノ仕拂ナシト雖モ其増加ハ主トシテ起業公債及神官配當祿公債ノ償還ヲ本年ヨリ創始スルニ由ル

〔外國債〕ハ舊公債償還ノ額前期ニ同シト雖モ新公債ハ利拂遞減ノ度ニ從ヒ年々其額ヲ増加スルノ方法ナルニ由ル

〔内國債利子〕ハ前年元金ノ償還又ハ整理ニ因リ隨テ若干ノ減少ヲ生スト雖モ其増加ヲ概舉スレハ金札引換公債ノ額ヲ増スト金祿公債證書ヲ華族尙泰へ給付セシト其他整理増アルトニ由ル

〔帝室及皇族費〕ハ明宮御膳料ノ編入、皇族膳料ノ増加及内務省ヨリ禁國費ノ組換等アルニ由ル

〔賞勳年金〕ハ功勳ノ査定ニ從ヒ領受者ノ數ヲ増スニ由ル

〔沖繩縣士族金祿〕ハ從前ノ廩米及領地收納等ヲ金祿ニ改メ支給スルモノニシテ前年ハ之ヲ豫算表出セサリシニ由ル

〔太政官〕ハ本年三月官制ノ釐革及會計檢査院ノ設立アリシ等ニ由ル

〔外務省〕ハ外國交際費等ノ増加セシニ由ル

〔内務省〕ハ勸農局試驗場ヲ禁園ニ分屬シ舊琉球藩出張所ヲ廢停シ守衛巡查ノ俸給ヲ警視局ノ支



出ニ歸スル等ノ故ヲ以テ若干ノ減少アリト雖 監獄總管ノ費途及集治監ノ經費ヲ編入シ又山林及種畜場ノ作業費ヲ組換ヘ其他古社寺保存費、中央衛生會費等ノ増加アルニ由ル

〔陸軍省〕ハ主トシテ輸卒ノ新設、輜重兵及豫備軍ノ増員其他糧食被服買上代ノ増加アルニ由ル

〔海軍省〕ハ主トシテ兵員ノ新募、水雷練習所ノ新設、新艦ヘ器械ノ裝置及食卓料ノ増加アルニ由ル

〔文部省〕ハ職工學校ノ新設アル等ニ由ル

〔司法省〕ハ刑法治罪法ノ頒布ニ付事務擴張ノ見込アルニ由ル

〔宮内省〕ハ禁園ニ關スル費途ヲ内務省ヨリ組換ル等ノ増加アルニ由ル

〔元老院〕ハ主トシテ議員ノ増員アルニ由ル

〔開拓使〕ハ各種製造所ノ建築費等作業ニ關スル分ヲ別項ニ分離セシヲ以テ若干ノ減少アリト雖 物産稅其他收入ノ多キニ隨ヒ交附ノ金員モ亦増加スルニ由ル

〔外國公館〕ハ費用條例ノ改正、交際官吏ノ補缺及公館ノ新設等アルニ由ル

〔驛遞局〕ハ事務ノ擴張ニ從ヒ脚夫賃、取扱人手數料及ヒ切手製造費等ノ増加アルニ由ル

〔工部省鑛山缺額補填〕ハ釜石中小坂ノ兩鑛山共ニ近年ノ創始ニ係リ收入未タ多カラサルニ由ル

〔工部省工作缺額補填〕ハ品川分局ニ於テ板硝子ノ製造ヲ創メ費用ヲ増加スル等ニ由ル

〔府縣費〕ハ前年十二月第五拾三號及本年二月第拾六號ノ令達ニ由リ俸給ノ増加、沖繩德島兩縣經費ノ編入第二回博覽會、酒造檢査及衛生課設置其他物價騰貴等ノ爲メ諸費ノ増加セシニ由ル

〔府縣警察費〕ハ往年熊本大分山口鹿兒島ノ四縣ニ允許セシ増費ノ遞減アリト雖 警察本分署修造費ヲ府縣營繕費ヨリ茲ニ移算シ又沖繩縣ニ係ル本費ノ編入等種々ノ増加アルニ由ル

〔内務省製作興業費〕ハ千住製絨所ノ興業已ニ畢リ又愛知廣島兩紡績所ノ建築其功半ニ過キ以テ

若干ノ減額アリト雖 製絨所内ノ工毛場及北海道製糖所諸費ヲ要スルノ多キニ由ル

〔陸軍省兵器製造興業費〕ハ前年十月准許ヲ經テ着手セシ藥筒製造所及火藥製造所ノ建築本年度ニ巨ルニ由ル

〔海軍省造船興業費〕ハ十一年已後數年ニ巨ルモノニシテ本年特ニ戶船代ノ仕拂ヲ増加スルニ由ル

〔海軍省火藥製造興業費〕ハ陸軍省興業費ノ事由ニ同シ

〔工部省鑛山興業費〕ハ阿仁ノ坑道開鑿ヲ起業基金ノ支辨ニ移スト雖 生野ハ更ニ坑道ヲ新鑿シ三池ハ器械ヲ設置シ佐渡ハ混濬所、釜石ハ鐵路支線及鍛鍊場ヲ建築シ小阪及中小阪ハ熔鑛爐ヲ増築スル等ノ増築アルニ由ル

〔工部省鑛道興業費〕ハ京神間ノ線路ニ於テ既ニ鍊桁架換等ノ功ヲ竣ルト雖 尙ホ貨物運送車數十輛ノ新製アルニ由ル

〔工部省工作興業費〕ハ深川赤羽兵庫ノ三分局ニ於テ工事既ニ了ルアリ或ハ了ルニ近キアリ以テ若干ノ減額アリト雖 品川長崎ノ兩分局ニ器械及工場ヲ増設スルニ由ル

〔工部省採油興業費〕ハ遠、越等ノ國ニ於テ本年油井ノ開鑿ニ着手スルニ由ル

〔開拓使興業費〕ハ該使經費ノ下ニ陳言セシ如ク之ヲ別掲セシニ由ル

〔内國勸業博覽會費〕ハ本年度開會ノ期ニ際シ支給額ノ多キニ由ル

〔蒙洲メルボルン府博覽會費〕ハ客歲六月第二十號公布ノ如ク本年度間ニ該會ノ開設アルニ由ル

〔雜出〕ハ警視官ノ一時外國行費ヲ全減スト雖 太政官ノ廩舍修展費、刑法、治罪法、陸軍刑法及海上裁判所訴訟規則等ノ審査費其他地租改正ノ完整ニ臨ミ該補助費ノ増加ヲ要スル等ニ由ル

以上三十四件ノ外外國債雜費其他一件ヲ併セ共増加ノ總額ハ五百六拾五萬五千八百五拾七圓九



錢ナリ

又歳出科目ノ中前年ヨリ減少セシ者ノ事由ハ左ノ如シ

〔外國債利子〕ハ前年元金ノ償還アリシニ由ル

〔軍人恩給〕ハ負傷者療養費及一時限ノ給與ヲ全減シ又タ死亡等ノ爲メ該遺族ノ減少スルニ由ル

〔大藏省〕ハ酒造検査、外國品調度掛ノ新置等ニ付若干ノ増費ヲ要スト雖モ諸般ノ費途ヲ節減セシニ由ル

〔工部省〕ハ諸般ノ費途ヲ節減セシニ由ル

〔地租改正局〕ハ事務ノ整頓ニ隨ヒ官吏減少スルニ由ル

〔内務省製作缺額補填〕ハ千住製絨所ノ營業仍ホ補填ヲ要スト雖モ富岡製絲所ノ收入多キニ由ル

〔内務省牧畜缺額補填〕ハ作業ヲ停メ通常經費ニ轉換セシニ由ル

〔工部省電信缺額補填〕ハ該益金ノ下ニ解説セシカ如キノ事故アルニ由ル

〔警視局〕ハ内務海軍兩省守衛巡查ノ俸給ヲ本局ノ支辨ニ關スル等ニ由リ若干ノ増費アリト雖モ

監獄ノ事務ヲ内務省ニ統屬セシト又局中諸般ノ費途ヲ節減セシトニ由ル

〔警備費〕ハ沖繩縣廳舎建築ノ爲メ若干ノ増加アリト雖モ警察署修造費ヲ警察費へ組換ヘ且工事

ヲ減少スルニ由ル

〔土木費〕ハ皇城周圍ノ道路修繕費ヲ増スト雖モ府下新大橋ノ修繕費ヲ減少スル等ニ由ル

〔工部省電信興業費〕ハ架設ノ工事稍減スルニ由ル

〔内務省牧畜興業費〕ハ作業ヲ停メ通常經費ニ轉換セシニ由ル

〔大藏省造幣興業費〕ハ炭酸曹達製造所ノ工事ヲ畢ルニ由ル

〔舊近衛兵賞典祿〕ハ本年一月限り滿期ナルニ由ル

〔宮殿造營費〕ハ雜入ノ下ニ於テ説明スルカ如キノ事故アルニ由ル

〔屯田兵給助〕ハ前年滿期ナルニ由ル

以上十七件ノ外社寺祿其他四件ヲ併セ其減少ノ總額ハ百三拾七萬三千七百貳拾九圓拾貳錢四厘

ナリ 右減少ノ員額ヲ増加ノ員額中ヨリ扣除スレハ本年歳出増加ノ實額ハ則チ前ニ提記セシ如ク四百貳

拾八萬貳千百貳拾七圓九拾六錢六厘ナリ

明治十三年度歳入出豫算表

歳入之部

經常歳入

第一款 租 稅 金五千四百五拾五萬八千三百四圓

內 譯

海關 稅 金貳百五拾六萬九千四百六拾貳圓

地 稅 金四千九百九拾萬四千四百四拾壹圓

鑛山 稅 金壹萬貳千五百四拾四圓

北海道物産稅 金六拾六萬九百七拾九圓

酒類 稅 金五百九拾六萬五千貳拾九圓

烟草 稅 金三拾四萬八千六百七拾四圓

證券印紙諸稅 金六拾五萬拾圓

郵便 稅 金百四拾壹萬圓

訴訟野紙諸稅 金八萬五千四百拾五圓



代言免許料	金壹萬圓
船 稅	金拾四萬六千貳百七拾圓
車 稅	金三拾萬九千貳百七拾圓
諸會社稅	金三拾萬圓
銃 獵 稅	金四萬五千九百拾七圓
免牛馬稅	金六萬七千五百八拾九圓
賣 藥 稅	金六萬五千八百七拾九圓
度量衡稅	金三千六圓
版權免許料	金三千五百五拾六圓
海外旅券其他免許手数料	金三千貳百六拾三圓
第二款 作業益金	金百四拾萬七千六百四拾七圓
內務省製作	金貳千六百五拾貳圓
大藏省造幣	金四拾三萬四千圓
大藏省印刷	金三萬圓
海軍省造船	金壹萬五千圓
海軍省石炭	金九百貳拾三圓
工部省鑛山	金貳拾四萬千貳百六拾九圓
工部省鐵道	金六拾壹萬六千七百六拾貳圓
工部省電信	金貳萬五千七拾壹圓

工部省工作	金八千八百貳拾九圓
開拓使諸作業	金三萬三千百四拾壹圓
第三款 雜 收 入	金六拾五萬九百五拾六圓
內 譯	
森林 收入	金四拾五萬貳千四拾六圓
官有物貸下料	金拾壹萬六千六百四拾貳圓
開市 港場官地貸下料	金八萬貳千貳百六拾八圓
經常 歲入	小計金五千六百六拾壹萬六千九百七圓
臨時歲入	
第四款 諸 返 納	金八拾壹萬六千貳百七拾五圓
內 譯	
諸貸出金返納	金五拾六萬三千貳百七圓
官方及借 貸金返納	金拾八萬貳千七百六拾六圓
石高貸下返納	金七萬三百貳圓
第五款 雜 收 入	金貳百五拾萬三百貳拾五圓
內 譯	
官有物拂下代	金五拾萬六百五拾三圓
雜 入	金百九拾九萬九千六百七拾貳圓
臨時 歲入	小計金三百三拾壹萬六千六百圓
歲入總計	金五千九拾三萬三千五百七圓



歲出之部

經常歲出

第一款 國債償還 金五百八拾壹萬七千五百三拾八圓

內 譯

內 國 債 金貳百九拾七萬八千七百七拾八圓

外 國 債 金八拾三萬九千三百六拾圓

紙幣消却 金貳百萬圓

第二款 國債利子 金千五百六拾三萬三千三百六拾九圓

內 譯

內國債利子 金千四百八拾三萬貳千貳拾七圓

外國債利子 金七拾九萬四千九百九圓

外國債雜費 金八千八百三拾三圓

第三款 皇室及皇族費 金九拾六萬百圓

第四款 年金恩給諸祿 金五拾九萬六千七百四拾四圓

內 譯

賞勳年金 金拾五萬貳千五百七拾貳圓

軍人恩給 金拾七萬八千六百六拾貳圓

社 寺 祿 金拾萬四千四百圓

沖繩縣士族 金拾六萬千六百拾圓

第五款 官省院使局費 金貳千三百五萬四千四百九圓

內 譯

太 政 官 金五拾萬圓

外 務 省 金貳拾萬圓

內 務 省 金百六拾四萬七千五百五拾圓

大 藏 省 金百四拾八萬七千七百圓

陸 軍 省 金八百拾五萬圓

海 軍 省 金三百壹萬五千圓

文 部 省 金百拾八萬千圓

工 部 省 金五拾四萬五千八百六拾圓

司 法 省 金百七拾八萬五千圓

宮 內 省 金三拾四萬八千圓

元 老 院 金拾八萬四千圓

開 拓 使 金百八拾三萬四千九百九拾九圓

外 國 公 館 金八拾貳萬圓

地 租 改 正 局 金九萬四千圓

驛 遞 局 金百貳拾六萬圓

第六款 營業額補填 金拾萬三千七百七拾貳圓

內 譯

內務省製作 金三萬圓

工部省鑛山 金四萬四千貳百拾壹圓



第七款	工部省工作	金貳萬八千九百六拾壹圓
第八款	府 縣 費	金四百五拾三萬九千貳百八拾圓
	內 費	金貳百五拾七萬五千五百九拾六圓
	警 視 局	金百貳拾六萬千五百圓
	二府各縣	金百三拾壹萬四千九拾六圓
第九款	神 社 費	金拾三萬五千圓
第十款	土 府 營 繕	金百八拾八萬四千四百拾五圓
	內 繕	金四拾五萬圓
	土 木	金百四拾三萬四千四百拾五圓
第十一款	救荒貯蓄補助	金百貳拾萬圓
	臨時歲出	金百貳拾萬圓
第十二款	業 費	金百三拾三萬千五百五拾九圓
	內 譯	金八萬三千三百拾四圓
	陸軍省兵器	金拾六萬五千三百圓
	海軍省造船	金拾萬六千六百四拾六圓
	海軍省火藥	金拾貳萬七千五百五拾九圓

第十三款	工部省鑛山	金四拾四萬三千八百四拾圓
	工部省鐵道	金六萬三千圓
	工部省電信	金拾三萬九千圓
	工部省工作	金拾七萬五千圓
	工部省探油	金壹萬五千圓
	開拓使諸作業	金壹萬三千三百圓
	支 出	金六拾萬七千三百貳拾五圓
	內 譯	金七百八拾五圓
	近衛 兵	金貳萬六千八百三拾貳圓
	上野 物 館	金三萬六千貳百五拾四圓
	建 築 費	金貳拾萬圓
	宮殿造營費	金拾萬四千八百九拾圓
	內 國 勸 業	金三萬三千拾四圓
	博覽會費	金貳拾萬五千五百五拾圓
	雜 出	金百五拾萬圓
第十四款	臨時 小計	金三百四拾三萬八千八百八拾四圓
	歲出總計	金五千九百九拾三萬三千五百七圓
	內國債	



有利息債 金貳億貳千九百拾三萬九千六百拾五圓

內

- 金千百拾五萬貳千六百五拾圓
- 金四百六拾萬三千三百圓
- 金千百八拾貳萬九千九百五拾圓
- 金壹億七千三百六拾三萬八千三百九拾圓
- 金三千百四拾壹萬貳千五百五拾五圓
- 內 金貳千五百萬千貳拾圓
- 內 金壹億八百拾三萬九千九拾圓
- 金九百九萬三千六百貳拾五圓
- 金四拾貳萬三千三百貳拾五圓
- 金千貳百五拾萬圓
- 金千五百萬圓
- 無利息債 金九百貳拾壹萬千七百七拾六圓
- 紙幣流通高 金壹億八百六拾八萬三千貳百三圓六拾錢
- 合金三億四千七百三萬四千五百九拾四圓六拾錢
- 內 金三百八萬八百六拾圓

新 公 債 四 分 利 付  
 金 札 引 換 公 債 六 分 利 付  
 秩 祿 公 債 八 分 利 付  
 金 祿 公 債 八 分 利 付  
 五 分 利 付  
 六 分 利 付  
 七 分 利 付  
 壹 割 利 付  
 舊 神 官 配 當 祿 公 債 八 分 利 付  
 起 業 公 債 六 分 利 付  
 征 討 公 債 五 分 利 付  
 舊 借 入 債 五 分 利 付

明治十二年度豫算表

內

- 金貳百九拾三萬圓
- 內 金貳百七拾三萬圓
- 金貳拾萬圓
- 金拾五萬八百六拾圓
- 外 金七百五拾四萬五千百拾九圓四拾錢
- 內 金貳百七拾八萬六百七拾八圓
- 金拾六萬四千圓
- 內 金五萬四百圓
- 內 金貳百三拾四萬六千九百五拾圓
- 金貳拾壹萬九千三百貳拾八圓
- 金壹萬九千六百五拾三圓
- 內 金壹萬千貳拾五圓
- 內 金八千六百貳拾八圓
- 金四百七拾四萬四千七百八拾八圓四拾錢
- 內 金四百七拾三萬圓

發行 增

金引札換公債

金祿公債

整理 但金祿公債

明治十二年度豫算表

諸公債消却減

新 公 債

金札引換公債

秩祿公債

舊 公 債

諸公債整理減

新 公 債

舊 公 債

紙幣消却減

支



金壹萬四千七百八拾八圓四拾錢

做失

外國債

金九拾七萬六千圓

舊 九分利付債

金千三萬六千六百九拾六圓

新 七分利付債

合金千百壹萬貳千六百九拾六圓

外金八拾壹萬六千四百貳拾四圓

明治十二年內消却豫算

內

金四拾八萬八千圓

舊 公債

金三拾貳萬八千四百貳拾四圓

新 公債

內外國債合計金三億五千八百四萬七千貳百九拾圓六拾錢

準備之部

金五千百三拾貳萬五千五百拾五圓拾四錢四厘

內 金六拾五萬九千七百三拾九圓三拾壹錢壹厘

各廳豫備

金四百四拾三萬貳百六拾壹圓拾五錢五厘

各廳營業資本

貸付之部

金七百三拾萬六千八百拾壹圓八錢三厘



















國債準備貸附累年

比較

(△印、朱書)

科目	十三年度		十二年度		十一年度		十年度		九年度		比較		差		墨書、本年、方減			
	円	千円	円	千円	円	千円	円	千円	円	千円	十一年	十一年	十一年	十一年	十一年	十一年		
内國有利息債	三三九,一三九,六六五	〇〇〇	三三八,六三三,一三〇	〇〇〇	三三三,〇三九,八一五	〇〇〇	二二八,九〇三,四六五	〇〇〇	三〇六,九二二,五〇〇	〇〇〇	△	五〇八,四八五	〇〇〇	△	二九〇,〇二〇	〇〇〇	△	一〇,二三六,一五〇
新公債	一一,一五二,六五〇	〇〇〇	一一,三二七,六七五	〇〇〇	一一,五九四,三三〇	〇〇〇	一一,四三〇,九三〇	〇〇〇	一一,八〇一,七五〇	〇〇〇	△	一七五,〇二五	〇〇〇	△	四四,一六〇	〇〇〇	△	二九,八三〇
金札引換公債	四六〇,三三〇,〇〇〇	〇〇〇	一,九三三,七〇〇	〇〇〇	一一,〇三九,九七〇	〇〇〇	一一,〇三九,九七〇	〇〇〇	二,三八五,五五〇	〇〇〇	△	二六,七九六	〇〇〇	△	二四,九七三	〇〇〇	△	二,九八三
秩祿公債	一,一八二,九五〇	〇〇〇	一,四一六,八九〇	〇〇〇	一,六一九,六三七	〇〇〇	一,六二〇,四七五	〇〇〇	一,六六四,八五〇	〇〇〇	△	二二,四九二	〇〇〇	△	四三,七四三	〇〇〇	△	四三,八二七
金祿公債	一七三,六八三,三〇〇	〇〇〇	一七三,三六七,三三〇	〇〇〇	一七四,二一九,九五〇	〇〇〇	一七〇,一四二,八四〇	〇〇〇	一六六,四八八,八五〇	〇〇〇	△	三五,〇八六	〇〇〇	△	五八,一五五	〇〇〇	△	五〇,三四四
當神公債	四〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇〇〇	四〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇〇〇	四〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇〇〇	四〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇〇〇	四〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
起業公債	二,一五〇,〇〇〇,〇〇〇	〇〇〇	二,一五〇,〇〇〇,〇〇〇	〇〇〇	二,一五〇,〇〇〇,〇〇〇	〇〇〇	二,一五〇,〇〇〇,〇〇〇	〇〇〇	二,一五〇,〇〇〇,〇〇〇	〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
征討費借入	一五〇,〇〇〇,〇〇〇	〇〇〇	一五〇,〇〇〇,〇〇〇	〇〇〇	一五〇,〇〇〇,〇〇〇	〇〇〇	一五〇,〇〇〇,〇〇〇	〇〇〇	一五〇,〇〇〇,〇〇〇	〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
内國無利息債	九二二,七六六	〇〇〇	九四三,九七三	〇〇〇	九六五,九二〇	〇〇〇	九八八,八四六	〇〇〇	一,〇〇〇,三三三	〇〇〇	△	三三,九五六	〇〇〇	△	四七,四八四	〇〇〇	△	六,五六八
紙幣流通高	一〇八,六八三,〇三三	〇〇〇	一一三,四二七,九七二	〇〇〇	一二〇,九二二,〇一九	〇〇〇	一二二,〇五五,三三二	〇〇〇	一二四,〇五五,七三二	〇〇〇	△	四七,四四七	〇〇〇	△	一一,三三三	〇〇〇	△	一,三三七
内國合計	三三九,〇三九,五九四	〇〇〇	三三三,四九八,八五四	〇〇〇	三三三,〇三九,八一五	〇〇〇	二二八,九〇三,四六五	〇〇〇	三〇六,九二二,五〇〇	〇〇〇	△	五〇八,四八五	〇〇〇	△	二九〇,〇二〇	〇〇〇	△	一〇,二三六
外國新公債	九七六,〇〇〇	〇〇〇	一,四三四,〇〇〇	〇〇〇	一,九三五,〇〇〇	〇〇〇	二,四四〇,〇〇〇	〇〇〇	二,九二八,〇〇〇	〇〇〇	△	四八,八〇〇	〇〇〇	△	九七,六〇〇	〇〇〇	△	一,四三四
外國舊公債	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
外國合計	九七六,〇〇〇	〇〇〇	一,四三四,〇〇〇	〇〇〇	一,九三五,〇〇〇	〇〇〇	二,四四〇,〇〇〇	〇〇〇	二,九二八,〇〇〇	〇〇〇	△	四八,八〇〇	〇〇〇	△	九七,六〇〇	〇〇〇	△	一,四三四
國債總計	二五八,〇四七,五九〇	〇〇〇	三三三,三三三,九七四	〇〇〇	三三三,〇三九,八一五	〇〇〇	二二八,九〇三,四六五	〇〇〇	三〇六,九二二,五〇〇	〇〇〇	△	五〇八,四八五	〇〇〇	△	二九〇,〇二〇	〇〇〇	△	一〇,二三六
準備	五,一三三,五五五	〇〇〇	五,〇八九,八七一	〇〇〇	五,一〇二,九九三	〇〇〇	三,九〇三,五三八	〇〇〇	二,八三四,四一六	〇〇〇	△	四三,六四三	〇〇〇	△	五八,五三四	〇〇〇	△	一,二九三
附	七,三〇六,八一	〇八三	七,四九五,三三〇	一六二	八,一〇二,九九三	四五一	八,〇六七,九九五	七四九	九,三三二,四八五	〇〇〇	△	一八,四〇九	〇七九	△	七,九五七	三六八	△	七,六〇四

墨書、本年、方減



十三年歲入出明細表

歲入明細表

科 目		金	圓
海關稅	海關輸出稅	九二五三九	〇〇〇〇
	海關輸入稅	一六〇一四〇〇	〇〇〇〇
海關諸收入	海關諸收入	三三八六三	〇〇〇〇
	田稅	三〇八四七一八	〇〇〇〇
地稅	郡村宅地稅	六九四一三三	〇〇〇〇
	山林原野牧場稅	一五九一〇七	〇〇〇〇
市街地稅	市街地稅	五〇三三三	〇〇〇〇
	地券證印賦	八〇四九五	〇〇〇〇
延納年賦	延納年賦	一八〇七五三	〇〇〇〇
	延納年賦	七六四五五	〇〇〇〇
鑛山稅	鑛山稅	一三三四四	〇〇〇〇
	鑛山稅	六六〇九七九	〇〇〇〇
酒類稅	釀造營業稅	三三一四九二	〇〇〇〇
	受賣營業稅	七二八七五	〇〇〇〇
煙草稅	釀造營業稅	四九〇四八三	〇〇〇〇
	營業稅	二〇二七四八	〇〇〇〇
印紙稅	營業稅	一四五九二六	〇〇〇〇
	營業稅	三三八六三	〇〇〇〇
合計		二五九九四六二	〇〇〇〇

明治十三年八月 太政官 達 第四十四號 (明治十三年歲入出明細表)







官地貸下料		經常歲入合計	
札幌水車器械製作所	五五六	〇〇〇	五五六
札幌木工所	五〇二	〇〇〇	五〇二
札幌鑄造所	一四九四	〇〇〇	一四九四
札幌麵粉製造所	五六〇	〇〇〇	五六〇
札幌製鐵器械所	一五一	〇〇〇	一五一
札幌蒸氣器械所	二八〇	〇〇〇	二八〇
札幌麥酒釀造所	一三九	〇〇〇	一三九
札幌葡萄酒釀造所	三〇七六	〇〇〇	三〇七六
石狩 釀造所	一三六	〇〇〇	一三六
茅部 釀造所	五二六五	〇〇〇	五二六五
函館 燧木製造所	一三三	〇〇〇	一三三
各所 電信局	八四	〇〇〇	八四
國後 臘虎獵所	一八九七	〇〇〇	一八九七
樺 捉臘虎獵所	一〇八三	〇〇〇	一〇八三
根室 魚粕製造所	六八四一	〇〇〇	六八四一
別海 錳製造所	三六九	〇〇〇	三六九
沙那 錳製造所	九二	〇〇〇	九二
厚岸 錳製造所	三三	〇〇〇	三三
根室 木挽器械所	一五三	〇〇〇	一五三
玄武 丸	九〇二	〇〇〇	九〇二
森林 諸拂下代	八八四四	〇〇〇	八八四四
森林 諸貸下料	四九一七	〇〇〇	四九一七
地所 貸下料	二二二九	〇〇〇	二二二九
家屋 貸下料	五四八五	〇〇〇	五四八五
物品 貸下料	一六〇九	〇九二	一六〇九
官有物貸下料	四七〇七	〇〇〇	四七〇七
合計	二六六四三	〇〇〇	二六六四三

臨時歲入		經常歲入合計	
救助貸返納	三五五五	〇〇〇	三五五五
勸業貸返納	二〇八九	〇〇〇	二〇八九
外國債代償追徵金	三三三三	〇〇〇	三三三三
宮方貸金返納	一八二四	〇〇〇	一八二四
舊藩々貸金返納	三六四	〇〇〇	三六四
石高貸下返納	一八二四	〇〇〇	一八二四
地所 拂下代	三六三三	一八九	三六三三
家屋 拂下代	八四九九	六三三	八四九九
物品 拂下代	四五五九	一八九	四五五九
減債 繰入	一四四八	九〇七	一四四八
皇城建築二付款金	二〇〇〇〇	〇〇〇	二〇〇〇〇
皇贖 追徵金	一五八七	八四	一五八七
徵兵 代料	八三七〇	〇〇〇	八三七〇
臨時歲入合計	一八三六	九七六	一八三六
合計	五九三三	五〇七	五九三三
合計	五六六四三	〇〇〇	五六六四三



















































小學校補助金	京	都	府	四一三〇	三四五			
	堺	縣		五二八三	二四八			
	和歌山	縣		三三三五	一四			
	兵庫	縣		七五三八	六六三			
	岡山	縣		五五八一	六六六	二〇〇〇〇〇〇〇		
	高知	縣		三二〇三	八六四			
	徳島	縣		三六五七	一〇〇			
	滋賀	縣		三七七	四三			
	廣島	縣		七五五五	一三三			
	山口	縣		四七二八	四八三			
	島根	縣		五三八二	四八三			
	愛媛	縣		八四九九	四四七			
	長崎	縣		七五九九	〇七〇			
	熊本	縣		五八三八	七三九			
	鹿兒島	縣		七七三六	二二七			
	大分	縣		六三五六	四五〇			
	福岡	縣		四三三二	一〇四			
	新潟	縣		八三三八	五〇九			
	長野	縣		四八九一	六三五			
	宮城	縣		三八六七	二〇六			
	福島	縣		四八六三	一八三			
	山形	縣		三七二八	四四七			
	秋田	縣		四〇九五	一六五			
	青森	縣		二九一三	五七三			
	岩手	縣		三〇四二	五二六			
	沖繩	縣		一八四〇	一四六			
文部省合計						一一,八二,一〇〇,〇〇〇		

工部省	俸給	一四四,二七四						
本省	雜給	三三,六六二						
	應給	一四,七九九						
	廳費	五,三三七						
	外國留學生費	一六,〇〇〇						
	病室費	三,六八六						
	雜給	七九,一五七						
大學	雜給	七八九七						
	校場費	八一三						
	學費	二,〇〇〇						
	雜給	一八,一五						
鐵道局	雜給	八,二五六						
	應給	三,三六二						
	雜給	八六二						
	應給	二,一〇						
燈臺局	雜給	四九,七〇〇						
	應給	一,五〇〇						
	雜給	八,四〇〇						
	應給	三,八〇〇						
燈臺及諸標費	費	四,四四〇						
明治九諸費	費	三,二〇〇						
工部省合計		四九,四〇〇						
司法省	俸給	一五八,四〇六						
雜給	給	三,九四七						
工部省合計						五,四四,八六〇,〇〇〇		